

**平成23年3月11日東日本大震災における
仏教系各種団体の震災支援に関するアンケート調査**

報告書

平成27年6月

監修

**公益財団法人 全日本仏教会
日本仏教社会福祉学会
仏教 NGO ネットワーク (BNN)**

編著

**日本仏教社会福祉学会
東日本大震災対応プロジェクト委員会
淑徳大学 藤森雄介研究室**

この集計は、2013年3月締めで接受している調査票の集計とコメントをまとめたものです。

65 団体集計/配布 161 団体
回答率 40.37%

平成 25 年 6 月集計

本調査実施団体

○公益財団法人 全日本仏教会

国内の主要仏教宗派 59 の宗派、36 の都道府県仏教会、9 の仏教団体、合計 104 団体が加盟する、日本の伝統仏教界における唯一の連合組織です。東日本大震災では初の試みとして、避難所寺院や仏教系ボランティア団体へ直接の支援を行いました。

○日本仏教社会福祉学会

仏教系大学の教員や研究者、実践者などが会員となり、社会福祉と仏教の在り方について諸研究を行っている学術団体です。現在、東日本大震災での教団や寺院の支援活動やボランティア活動の実態調査を行っています。

○仏教 NGO ネットワーク (BNN)

国内の主要な仏教系 NGO (国際協力団体) と国際協力や災害救援に取り組む教団や仏教団体が加盟するネットワーク組織です。東日本大震災では多くの加盟団体が被災地に入りボランティア活動を行いました。今回のアンケート調査の事務局を務めています。

目次

1	はじめに	4
2	アンケート報告	4
1.	基本属性について	4
2.	東日本大震災に際しての貴団体の活動状況について	27
3.	今後の活動について	136
4.	今後の課題について	144
5.	支援活動全体を振り返って	157
3	まとめ	173
資料	アンケート原本	174

1 はじめに

本調査報告は、全日本仏教会が震災支援を実施した関係 191 団体中、重複して活動している団体を除き 161 団体へ調査票を送付した。これまで震災支援に取り組んできた、各団体の概要や活動状況を把握し今後の団体支援の在り方についてその方法や課題を明らかにするために実施した。

回答率が、40.37%であったが、集計に当たり非公開を希望している団体や別の団体名称であるが活動実態は合同で実施しているなど可能な限り実態に即した形で集計を行った。

平成 25 年 6 月までに接受している調査票に基づいて集計とコメントをまとめた。

記載順は、入力 No 順になっている。公開を希望しない団体に関しては、基本属性にその理由を示した。また、本論中の記載に関しては、統計データとしての数値以外は掲載していない。

2 アンケート集計

問 1. 基本属性について

①公開団体一覧

No	団体名
1	こうやさんあしゆたい 高野山足湯隊
2	ほうせんじぼらんていあのかい 宝泉寺ボランティアの会
3	しんごんしゅうちさんはとうきょうせいぶきょうくちさんせいねんかい 真言宗智山派東京西部教区智山青年会
4	さいたまだいにきょうくちさんせいねんかい 埼玉第二教区智山青年会
5	こうやさんちさんはさいたまだいよんきょうくちさんせいねんかい 真言宗智山派埼玉第四教区智山青年会
6	なごやのぼうず 名古屋の坊主
7	しんしゅうおおたにはたかおかきょうくちゆうしさいがいふっこうしえんねつとわーく 真宗大谷派高岡教区内有志災害復興支援ネットワーク
8	しんしゅうおおたにはなごやきょうくちゆうしさいがいぼらんていあねつとわーく(てらぼらなごや) 真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク (でらボラ NAGOYA)
9	しんしゅうおおたにはおうきょうくぼらんていあゆうしのかい 真宗大谷派奥羽教区ボランティア有志の会
10	こうやさんしんごんしゅうはりまゆうしかい 高野山真言宗播磨友師会
11	だるまのかい だるまの会
12	とうきょうそうとうしゅうせいねんかい 東京曹洞宗青年会
13	おおたにだいがくぼらんていあゆうし ともにあゆみたい 大谷大学ボランティア有志 ー共に歩み隊ー

15	じょうどしゅうかながわきょうくせいねんかい 浄土宗神奈川教区青年会
16	みやぎちさんせいねんかい 宮城智山青年会
17	ふくしまちゅうおうちさんせいねんかい 福島中央智山青年会
18	しょうせんじゅうしかい 松泉寺有志会
20	はままるかふえ (じょうどしゅうふくしまきょうくはまとおりがみせいねんかい) 浜〇かふえ(浄土宗福島教区浜通り組青年会)
21	しゅきょうほうじんみょうこうじ 宗教法人妙興寺
22	こうやさんしんごんしゅうさいたませねんきょうしかいゆうしいちどう 高野山真言宗埼玉青年教師会有志一同
23	なとりしぶつきょうかい 名取市仏教会
24	うんりゅうじぼらんていあかい 雲龍寺ボランティア会
25	ひさいしやしえんちーむてん 被災者支援チーム TEN
26	しんごんしゅうちさんはさいたまだいはちきょうくちさんせいねんかい 真言宗智山派埼玉第八教区智山青年会
27	そうとうしゅういっぽのかい 曹洞宗 一歩の会
28	にちれんしゅうとうきょうとさいぶせいねんかい 日蓮宗東京都西部青年会
29	にちれんしゅうあおもりけんりっしょうせいねんかい 日蓮宗青森県立正青年会
30	しゅうきょうほうじんほうちょうじ 宗教法人芳朝寺
31	かながわけんちさんせいねんかい 神奈川智山青年会
32	さいたまだい9きょうくちさんせいねんかい 埼玉第9教区智山青年会
33	とちぎけんてんだいぶつきょうせいねんかい 栃木県天台仏教青年会
34	ぜんこくそうとうしゅうせいねんかい(ぜんそうせい) 全国曹洞宗青年会(全曹青)
35	いわてゆいっこ いわてゆいっこ
36	こうやさんしんごんしゅう ながのしゅうむししよ 高野山真言宗長野宗務支所
37	レインボーキャンプふくおかじっこういいんかい レインボーキャンプふくおか実行委員会

38	さいたまてんだいぶつきょうせいねんかい 埼玉天台仏教青年会
39	みやぎけんそうとうしゅうせいねんかい 宮城県曹洞宗青年会
40	とうほく おーる ふぉー わん ぷろじえくと TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT
41	いばらきちさんせいねんかい 茨城智山青年会
46	こうやさんしんごんしゅうとうきょうせいねんきょうしかい 高野山真言宗東京青年教師会
50	りんざいしゅうみょうしんじはしんえつきょうくせいねんぶ 臨済宗妙心寺派信越教区青年部
51	とちぎけんにちれんしゅうせいねんかい 栃木県日蓮宗青年会
52	こうやさんしんごんしゅうやまなししゅうむししよ 高野山真言宗山梨宗務支所
53	こうやさんしんごんしゅうせいねんきょうしかいさがみしんゆうかい 高野山真言宗青年教師会 相模真友会
54	ひがしきゅうしゅうりんせいかい 東九州臨青会
55	こうやさんしんごんしゅうえひめせいねんかいきょうしかい 高野山真言宗愛媛青年教師会
56	かながわけんだいいちぶにちれんしゅうせいねんかい 神奈川県第一部日蓮宗青年会
57	とくていひえいりかつどうほうじんさいがいききかんりしすてむあーす 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth
58	りんざいしゅうせいねんそうのかい 臨済宗青年僧の会
59	にちれんしゅうおかやまりっしょうせいねんかい 日蓮宗 岡山立正青年会
61	りんざいしゅうみょうしんじはとうほくきょうくだいにぶしゅうむししよ 臨済宗妙心寺派 東北教区第二部宗務支所
62	りんざいしゅうしんりゅうかい 臨済宗 新流会
63	しゃかいじぎょういいんかい(ひとさじのかい) 社会事業委員会(通称:ひとさじの会)
64	とうきょうなんぶにちれんしゅうせいねんかい 東京南部日蓮宗青年会

②非公開団体一覧

No	団体名	非公開理由
14	しんごんしゅうちさんはちさんせいねんれんごうかいしもうさそうさきょうせいねんかい 真言宗智山派智山青年連合会下総匠瑳教区青年会	被災地のプライバシーに関わるため
19	こうやさんせんしゅうがくいんだい51きせいゆうしかい 高野山専修学院第51期生有志会	正式な組織団体でないため
42	とうきょうこうちしよきょうかいしかい 東京拘置所教誨師会	活動によってさまざまな職種の方が参加しており同意が得られないため
43	そうとうしゅうとうきょうこうちしよきょうかいしかい 曹洞宗東京拘置所教誨師会	未記入
44	しゅうてつかい 秀哲会	未記入
45	ちーむかわかみ チーム・カワカミ	未記入
47	ほしゆいん 保春院	回答対象外の設問が多すぎると思われる。現場では記録を取る余裕がない
48	みやぎけんにちれんしゅうせいねんかい 宮城県日蓮宗青年会	今年度執行部と協議の結果
49	とくげんじ 徳源寺	在錫中であるため
60	だいこうじ 大興寺	未記入
65	はなぞのぜんじゆく 花園禅塾	複数の団体が共同で活動しているため。

21	しゅきょうほうじんみょうこうじ 宗教法人妙興寺	1	貞和4年(1348年)
22	こうやさんしんごんしゅうさいたませねんかい 高野山真言宗埼玉青年教師会有志一同	4	不明
23	なとりしぶつきょうかい 名取市仏教会	5	昭和36年
24	うんりゅうじぼらんていあかい 雲龍寺ボランティア会	5	平成23年
25	ひさいしゃしえんちーむてん 被災者支援チーム TEN	5	平成23年
26	しんごんしゅうちさんはさいたまだいはちきょうくちさんせいねんかい 真言宗智山派埼玉第八教区智山青年会	4	平成22年
27	そうとうしゅういっぽのかい 曹洞宗一步の会	4	昭和45年
28	にちれんしゅうとうきょうとさいぶせいねんかい 日蓮宗東京都西部青年会	5	未記入
29	にちれんしゅうあおもりけんりっしょうせいねんかい 日蓮宗青森県立正青年会	4	未記入
30	しゅうきょうほうじんほうちょうじ 宗教法人芳朝寺	1	未記入
31	かながわけんちさんせいねんかい 神奈川智山青年会	4	昭和37年
32	さいたまだいいきょうくちさんせいねんかい 埼玉第9教区智山青年会	4	平成8年
33	とちぎけんてんだいぶつきょうせいねんかい 栃木県天台仏教青年会	4	昭和43年
34	ぜんこくそうとうしゅうせいねんかい(ぜんそうせい) 全国曹洞宗青年会(全曹青)	4	昭和50年
35	いわてゆいっこ いわてゆいっこ	5	平成23年
36	こうやさんしんごんしゅうながのしゅうむししよ 高野山真言宗長野宗務支所	1	昭和27年
37	レインボーキャンプふくおかじっこういいんかい レインボーキャンプふくおか実行委員会	5	平成23年
38	さいたまてんだいぶつきょうせいねんかい 埼玉天台仏教青年会	4	昭和42年
39	みやぎけんそうとうしゅうせいねんかい 宮城県曹洞宗青年会	4	昭和44年
40	とうほく おーる ふおー わん ぷろじえくと TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	5	平成23年
41	いばらきちさんせいねんかい 茨城智山青年会	4	平成2年
46	こうやさんしんごんしゅうとうきょうせいねんきょうしかい 高野山真言宗東京青年教師会	4	不明
50	りんざいしゅうみょうしんじはしんえつきょうくせいねんぶ 臨済宗妙心寺派信越教区青年部	4	不明

51	とちぎけんにちれんしゅうせいねんかい 栃木県日蓮宗青年会	4	不明
52	こうやさんしんごんしゅうやまなししゅうむししよ 高野山真言宗山梨宗務支所	7	未記入
53	こうやさんしんごんしゅうせいねんきょうしかいさがみしんゆうかい 高野山真言宗青年教師会相模真友会	4	昭和 45 年頃
54	ひがしきゅうしゅうりんせいかい 東九州臨青会	4	昭和 51 年
55	こうやさんしんごんしゅうえひめせいねんかいきょうしかい 高野山真言宗愛媛青年教師会	4	昭和 48 年
56	かながわけんだいいちぶ にちれんしゅうせいねんかい 神奈川県第一部日蓮宗青年会	4	昭和 43 年
57	とくていひえいりかつどうほうじんさいがいききかんりしすてむあーす 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	3	平成 8 年
58	りんざいしゅうせいねんそうのかい 臨済宗青年僧の会	4	昭和 53 年
59	にちれんしゅうおかやまりっしょうせいねんかい 日蓮宗岡山立正青年会	4	昭和 39 年
61	りんざいしゅうみょうしんじはとうほくきょうくだいにぶしゅうむししよ 臨済宗妙心寺派 東北教区第二部宗務支所	7	未記入
62	りんざいしゅうしんりゅうかい 臨済宗薪流会	5	平成 4 年
63	しゃかいじぎょういいんかい(ひとさじのかい) 社会事業委員会(通称:ひとさじの会)	5	平成 21 年
64	とうきょうなんぶにちれんしゅうせいねんかい 東京南部日蓮宗青年会	4	昭和 39 年頃

表 1 - 1 団体について(団体の形態)

	回答数	%
1.宗教法人	6	9.23%
2.財団法人	0	0.00%
3.NPO 法人	1	1.54%
4.宗派教団内の任意団体	35	53.85%
5.4 以外の有志の任意団体	20	30.77%
6.その他	1	1.54%
7.未記入	2	3.08%
合計	65	100.00%

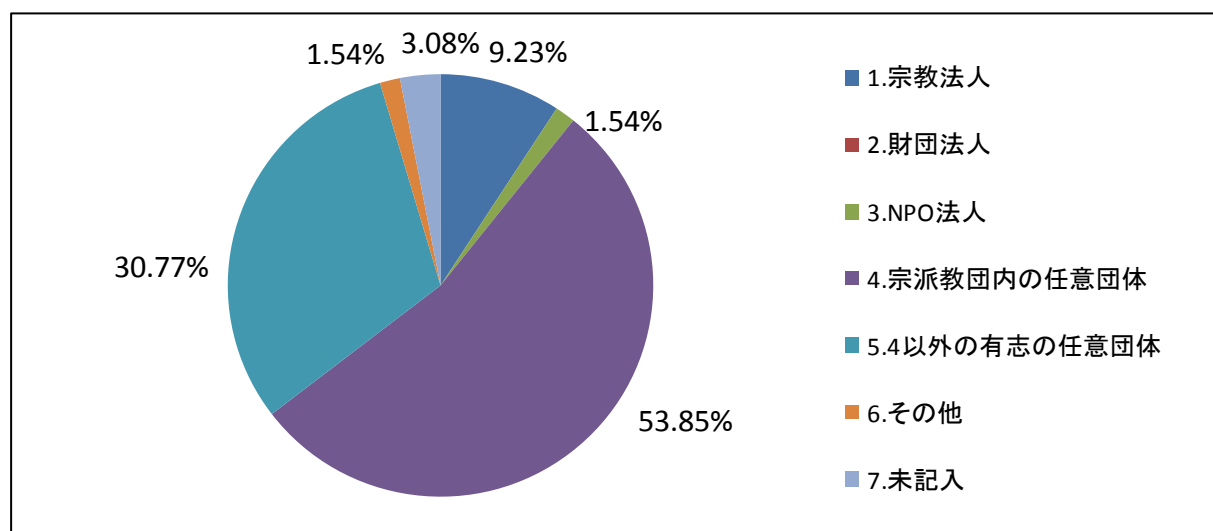


図 1 - 1 団体について(団体の形態)

問 1 - 1 は、団体の基本属性についての質問であり、団体の形態としては、「4. 宗派教団内の任意団体」が 35 件 (53.85%) と最も多く、次いで「5. 4 以外の有志の任意団体」が 20 件 (30.77%)、「1. 宗教法人」が 6 件 (9.23%)、「3. NPO 法人」が 1 件 (1.54%)、「6. その他」が 1 件 (1.54%)、7. 未記入が 2 件 (3.08%) であった。

問 1-2-1 団体について(設立年)

表 1-2-1 設立年について

設立時期	件数	%
明治以前	1	1.54%
明治期	1	1.54%
大正期	0	0.00%
昭和(戦前)	0	0.00%
昭和(戦後)	23	35.38%
平成(震災前)22年まで	13	20.00%
平成(震災後)23年から	14	21.54%
未記入・不明	13	20.00%
合計	65	100.00%

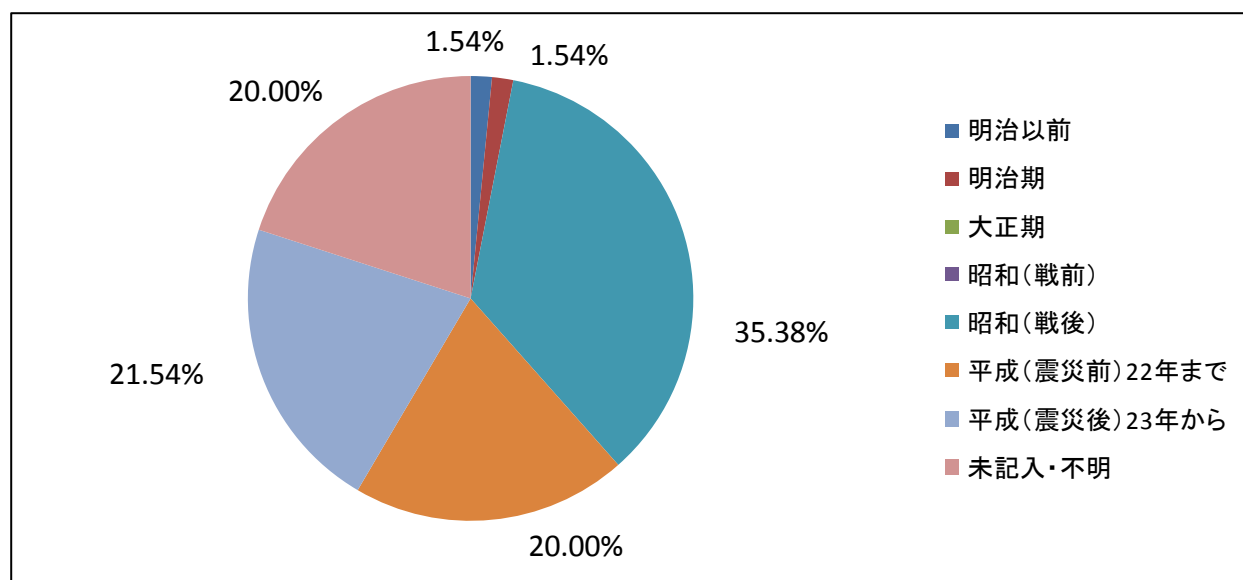


図 1-2-1 団体について(設立年)

問 1-2-1 は、団体の設立年についての質問であり、設立が「昭和(戦後)」が 23 件、35.38%であり、「平成(震災前)22年まで」が 13 件、20.00%、「平成(震災後)23年から」が 14 件、21.54%になっている。今回の調査対象の団体の 27 件、41.54%は平成に入ってからからの設立となっている。

問 1-2-2 設立の趣旨・目的をお教えてください。

表 1-2-2 設立の趣旨・目的

No	団体名	問 1-2-2 設立の趣旨・目的
1	高野山足湯隊	<p>【設立の趣旨】 震災で避難所や仮設住宅での生活を余儀なくされた方々に寄り添い、足湯を介してお話に耳を傾けたいと考えています。</p> <p>【目的】 「仏足頂礼」をスローガンに掲げ、弘法大師の濟世利人の御教えを具現化することを目的とします。</p>
2	宝泉寺 ボランティアの会	<p>【設立の趣旨】2007年3月30日、能登半島地震で被災された寺院のお手伝いをするためにボランティア活動を始めました。学芸員と仏師と3名で被災寺院の仏像の被害状況の調査をおこない、破損した仏像の応急修理をして回りました。そのかわり、檀信徒(ホリスティックセラピースクール金沢)に声をかけ、アロマセラピーの手法でもって避難所で傾聴ボランティアをおこなっていたところ、4月10日、石川県穴水町の来迎寺(山下良演住職)で被災地 NGO 協働センター(村井雅清代表)から足湯の伝授を受けて足湯が始まりました。「高野山足湯隊」の発足です。4月18日、来迎寺に高野山真言宗現地対策本部が設立され、心の相談員ネットワークの有志が集い、活動の輪が少しずつ広がっていきました。2008年金沢市の浅野川氾濫でドロだし、2009年兵庫県佐用町水害で足湯、2010年能登半島の仏像応急修理ボランティアを終え、2011年4月から宮城県南三陸町で足湯をおこなっています。</p> <p>【目的】 ・破損した仏像の調査と応急修理(能登半島地震) ・足湯による傾聴ボランティア ・清掃奉仕など</p>
3	真言宗智山派 東京西部教区 智山青年会	本会は会員相互の親睦と真言宗智山派の僧侶として事相・教相の研鑽にはげみ、宗団発展に協力し時代に即応した教化活動を目的とする
4	埼玉第二教区 智山青年会	仏教精神に則り、会員相互の研鑽及び親睦を図ることを目的とする。
5	真言宗智山派 埼玉第四教区 智山青年会	未記入
6	名古屋の坊主	<p>今回の東日本大震災を機に発足しました。</p> <p>私たちは、震災直後、震災が起こった日に亡くなった方々に手を合わせようと、超宗派の呼びかけで七日参り、忌明法要を勤めさせていただきました。その流れの中、忌明け法要が終わったらどうするか考えていました。私は、「今、私にできることをしよう」と、5月に現地に行くことを決めました。現地ボランティアに行くにも、なかなか私たちの都合にあった募集がなく、それなら、同じ志を持つ僧侶を集めて一団体として動こうと立ち上がったのが始まりです。</p> <p>最初是一般ボランティアとして現地入りをしていましたが、私たち僧侶にできる支援は何かを考え、一般ボランティアに加わる人とメンタルケアやこれから必要になる支援を考えるグループに分けて、活動するようにはなりました。</p> <p>今では、人と人とのつながりを大切にすることを考え行動しています。</p>

7	真宗大谷派 高岡教区内有志 災害復興支援 ネットワーク	この会は災害時の支援を目的とし、会員相互の連携を作り、災害時の支援に努めることとする
8	真宗大谷派名古屋 教区内有志災害 ボランティアネットワ ーク (でらボラNAGOYA)	本会は、真宗同朋会運動の精神に則り、広域災害によって被災した方々と同朋として出遇い、自他ともに救われてゆくことを願い、復興支援を行うことを目的としています。この目的遂行のため、次の事業を行なうことが規則で定めております。 (1) 災害支援ボランティア活動を行う、名古屋教区の個人及び団体を支援する。 (2) ボランティア活動報告会および連絡協議会、研修会等の開催 (3) 寺院(教会)と地域の防災の連携に向けての調査 (4) その他、必要な事業
9	真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	2011年3月11日におきた東日本大震災の状況を鑑み、被災地での支援活動を行うために、教区内若手を中心に結成された
10	高野山真言宗 播磨 友師会	阪神淡路大震災でいただいた一心一を東日本へ 阪神淡路大震災では、私達地域も大きな被害に会い途方に暮れた毎日を過ごした時、全国各地より温かい支援をいただき、壇信徒や各地の住民の方々が心一つに頑張り今現在の復興となりました。 又平成21年の佐用大水害においても寺院、壇信徒家屋に多大な被害を受け、阪神同様全国から駆け付けていただいたボランティアの皆様のお陰で復興の運びとなりました。昨年3月11日の東日本大震災をメディア報道にて、阪神同様の被害が出ている事を目にした仲間が、先ず阪神大震災・佐用大災害にて受けた当時の恩返しを込めた支援活動をと発足した。 目的 私達僧侶ができる活動として、一番得意な分野「傾聴活動 心のケア スピリチュアルケアワーカー」等仮設地区での活動を重視した、被災地区活性化復興支援を目的に活動。
11	だるまの会	だるまの会は昭和57年に、愛知県・岐阜県内の臨済宗妙心寺派の有志の寺院が集まり坐禅指導を中心とした社会活動と、会員相互の自己研鑽を目的として結成致しました。事務所を犬山市臨溪院に委託し、会員は現在20名になります。 坐禅や法話などを通して地域の青少年の為のボランティア活動、老人会の法話、震災の義援の為のおかげさま鉢等、僧侶がなさなければならない活動を続けております。 昨今は海外支援活動にも力を入れ、カンボジアでの井戸発掘や小学校舎建設、スリランカでの住宅建設などの人道支援活動を行っております。 又、国際交流の一環として、事務所を来日される外国人(主にカンボジア、スリランカ)の方々の宿泊施設、国際会議などに利用して頂いております。
12	東京曹洞宗青年会	寺院子弟、及び青年宗侶として教化活動の実践の場である一般参禅者を交えての「禅のつどい」運営を契機に発足。(昭和39年11月1日) また毎月の法要講習会や教養研修会など青年宗侶が実践活動を充実させていく為の自己研鑽・参究の場として発展してきました。
13	大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—	東日本大震災復興支援のため、大谷大学内、教職員学生有志によって設立されました。被災された方々と悲しみを共有し「何かできないのか」という心を持った学生や教職員の気持ちと身体を現地に運ぶことが、本有志の目的です。ただ、学生の本分は未来に向けた「学び」であり、教職員はその学びをサポートすることが職分であるという考

		えから、仕事も学業も一切休まない形での支援活動を続けています。試験期間や論文シーズンなどを除き、金曜日の夜出発し月曜日の朝に大学へ戻るという日程で活動を行っています。限定された活動ですが、細く、長く続けていくことを目的としております。
15	浄土宗神奈川教区青年会	<p>当会会則より抜粋: 第3条 目的 本会は、会員相互の友情を深め、青年宗徒としての自己修練と社会教化に励み、宗門の興隆に寄与することを目的とする。</p> <p>第4条 事業 本会は、前条の目的達成のため次の事業を行う。 (1)会員の資質の向上をはかるための事業。(2)社会教化事業 (3)会員相互の親睦を深めるための事業。 (4)全国浄土宗青年会・関東ブロック浄土宗青年会及び関係諸団体との連絡提携。 (5)その他本会の目的達成に必要な事業。</p>
16	宮城智山青年会	不明
17	福島中央智山青年会	福島第二教区青年会と福島第三教区青年会が合同により、事相・教相の研修とその実践ならびに親睦を計ることを目的とし
18	松泉寺有志会	東日本大震災に際して、禅僧としての立場から少しでも被災地または被災者の方々に対して助力する事を主旨とし、行政主導のボランティア活動では手の届かない部分の援助を目的として活動する。
20	浜〇かふえ (浄土宗福島教区浜通り組青年会)	<p>【浜〇かふえ】 東日本大震災・福島第1原子力発電所事故の発生を受け、避難生活を余儀なくされている被災者の皆様が仮設住宅やみなし仮設住宅において、交流の機会を提供させていただきたく平成23年9月に設立された。集会所や広場にて無償のカフェを毎週水曜日に開設し、仮設住宅・みなし仮設入居者の方々同士との交流、避難先地元住民の方々との交流、青年会員との交流を図り、コミュニティの形成の促進・孤立化の防止・精神的ストレスの軽減等を目的とする。</p> <p>【浄土宗福島教区浜通り組青年会】 本青年会は、宗祖法然上人立教開宗の精神に基づき、宗風の宣揚に努め、青年会相互の研鑽と親睦を図り、全国浄土宗青年会、各教区青年会の連絡提携および社会教化に尽くすことを目的とし、昭和51年に設立された。</p>
21	宗教法人 妙興寺	妙興寺は貞和4年(1348年)に尾張国の在庁官人中島氏の一族 滅宗宗興によって開創された臨済宗の寺院。
22	高野山真言宗 埼玉青年教師会 有志一同	高野山真言宗埼玉青年教師会の中より自然に被災地へと向かったものが集まった。
23	名取市仏教会	宗内の興隆と会員の福祉及び会員相互の親睦を図る
24	雲龍寺ボランティア会	東日本大震災被災地域復興支援の為
25	被災者支援チーム TEN	被災者への物資、職業支援また、支援者と被災者を結ぶコーディネートなどを目的とする

26	真言宗智山派 埼玉第八教区 智山青年会	設立の趣旨:本会は熊谷支所智山青年会と吉見支所智山青年会とが、合併して平成22年に組織された。元々各支所で独自の活動を行っていたが、実働人数の確保や事業規模の拡大を目指して合併することとなった。 目的:仏教精神に則り、教区内外青年会相互の連絡、会員の事相・教相の研鑽、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
27	曹洞宗 一步の会	法要研修、懇親親睦
28	日蓮宗 東京都西部青年会	日蓮宗の青年僧の情報交換並びに交流を高め、宗祖の示されたお題目を弘通することが目的
29	日蓮宗青森県 立正青年会	日蓮宗青森県立正青年会会則 第4条(目的)より 本会は立正精神を尊奉し布教伝道ならびに、社会福祉の増進と道義の高揚に努むるを以て目的とす。 尚、当青年会の設立年度につきましては資料の管理者が長期間の修行に入ったため確認できませんでした。
30	宗教法人 芳朝寺	通常は宗教法人としての活動ですが、今回の東日本大震災においては、檀家の蕎麦職人におねがいで現地での炊きだしを実施したのみです。
31	神奈川智山青年会	会員そごの親睦並びに僧侶としての研鑽に励むため。宗団発展に協力し時代に即応した教化活動を目的とする。
32	埼玉第9教区 智山青年会	本会は、会員相互の研鑽・親睦の向上を図り、智山派宗団及び埼玉第9教区の発展に協力する。以て時に即応した教化活動を高揚することを目的とする。
33	栃木県天台 仏教青年会	栃木県内天台宗寺院住職および子弟として自覚を持ち「相互の親睦」を図り「団結と協力」の意を養い時代に即応した活発な教化活動を推進し、仏法興隆に寄与することを目的とする。
34	全国曹洞宗青年会 (全曹青)	会の目的 本会は、古教照心の示訓を旨に自己の研鑽に努め、互いに乳水和合し、自由で創造的な活動を通じ、心豊かな社会の形成を目的とする。(会則第一章第三条)
35	いわてゆいっこ	ゆいっこは民間有志による復興支援組織です。被災住民を受け入れる内陸部の後方支援グループとして、救援物資やボランティアの受け入れ、身の回りのお世話、被災地との連絡調整、傾聴など精神面のケアなど行政を補完する役割を担っていきたくと考えています。 北上市に本部を置き、盛岡、花巻など内陸部の主要都市に順次、支部組織を設置する予定です。私たちはお互いの顔が見える息の長い支援を目指しています。もう、いても立ってもいられない——そんな思いを抱く多くの人々の支援参加をお待ちしています。
36	高野山真言宗 長野宗務支所	高野山真言宗 長野宗務支所 昭和27年2月21日施行 高野山真言宗宗規 第二章 宗務所 第五節 宗務支所(支所の区分) 第十二条による。
37	レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	【設立の趣旨】 平成23年、6月、岩手県釜石・大槌でずっと活動している小島匡然さんから電話がありました。「釜石・大槌の子供達を夏休み福岡で受け入れてくれませんか。おもいきり遊ばせたいのですが」と。小島君は、北九州市門司区観音院副住職。若いときから、青少年キャンプ活動をやっているアウトドアな青年です。ちなみに、現在、高野山真

		<p>言宗心の相談員研修中ですよ。私は、あまりの唐突さに、生返事しかできなかったですが、重要な事だとは、ピンとききました。瓦礫しかない世界。学校は無く、校庭・空き地は、仮設住宅予定地になり、まだ、避難所生活がほとんどのときでした。そもそも、高野山真言宗第3陣足湯隊として、岩手県釜石・大槌で、小島君も一緒に活動していただいてもらってましたから、彼の言うことは、よくわかります。しかも、私は、阪神大震災の5年後、震災孤児を支援するための施設「浜風の家(故藤本義一さん創立)」「レインボーハウス(あしなが育英会設立)」を応援していましたので、震災後の子ども達のPTSDを知っていました。瓦礫の中だけの環境が、決していいことではない。被災地以外の場所で、思いっきり遊べる場所を提供できれば、と言うのが、設立趣旨でした。</p> <p>【目的】 未曾有の大震災による生活環境の悪化により、被災地の子ども達は、野外での活動が抑制されています。被災地では「せめて夏休みだけでも、思い切り野外で遊びたい、遊ばせたい」という強い願いがあります。このようなことから、釜石市、大槌町の子ども達を福岡県に招待し、被災地から離れて、ゆっくり過ごし心ゆくまで遊ぶ環境を提供することにより、被災地の子ども達の心豊かな成長を支援していきます。</p>
38	埼玉天台仏教青年会	<p>本会は、天台の教義を基として厳しく自らを研鑽し、社会への奉仕と教化・育成につとめ、併せて会員相互の親睦を計り以って仏法の興隆・発展を目的としております。</p>
39	宮城県曹洞宗青年会	<p>本会は、会員相互の研修と親睦を図ると共に布教教化活動を推進する事を目的とする。(宮城県曹洞宗青年会規約 第3条)</p>
40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	<p>【趣旨】 私が山形天台仏教青年会の事務局長に任命されてから、僧侶として何が足りないのか？そんなことを考えているうちに動き始めました。まずは、社会貢献から始め、社会の中に溶け込み、困っている人に手を差し伸べよう。そんな思いから始まりました。そんな中、我々の住む山形県は大雪に見舞われ、自分のお寺ですら除雪が大変なのだが、お年寄りや過疎化が進んでいる地域に除雪のお手伝いに行こうと計画しましたが、窓口がわからず活動できずにいたところに平成23年3月11日の東日本大震災が発災してしまいました。すべての事は、未経験の世界。我々には何ができるのだろうか。まず、ガソリンを手に入ったら被災地に向かおう。と会員2名で宮城県石巻市へカレーライス170食を車に積み向かったのは、発災から2週間の日でした。そこで我々は様々な情報、現状収集し、私たちにできることを模索し、活動が本格的に始動していきました。先ず、我々宗教者ができることは、回向という事はもちろん、それだけでは人々は救われぬ。炊き出し、瓦礫撤去、傾聴等をきっかけに新しい環境でのコミュニケーションを作るお手伝いをしていこうとこになりました。</p> <p>その中で、我々、山形天台仏教青年会だけでは力不足な部分もあり、支援グループとして TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT を結成し、宗教者のみならず色々な団体、個人の方と協働し、被災された方も支援する側も皆心一つに復興していこうというメッセージを込めました。</p> <p>【目的】 ・健全な心を作るための勉強。・困っている人の為。・非営利。</p>
41	茨城智山青年会	<p>仏教精神に則り真言宗の教義を体し、会員相互の親睦と理解を深め、ともに事教二相の研鑽を図ることを目的とする。</p>
46	高野山真言宗 東京青年教師会	<p>本会は宗祖弘法大師のご誓願を体し、報恩謝徳と愛宗護法の精神に則り青年教師相互の連携を密にして、祖風の宣揚と社会教化に寄与することを目的とする。(会則より)</p>
50	臨済宗妙心寺派 信越教区青年部	<p>教区内諸行事の負担 教区内青年僧の和合</p>

51	栃木県日蓮宗青年会	本会の目的は県内青年僧の密接な相互連絡と、会員の資質の向上のため、教学の研修と布教の興隆をはかり、以って広宣流布の実を挙げることを目的とする。 上記目的を達成するために以下の事業を中心として活動する。 1、研修会 2、布教伝道 3、会報の発行 4、その他必要な事業以上
52	高野山真言宗 山梨宗務支所	未記入
53	高野山真言宗青年 教師会相模真友会	設立当時の資料が残っていないため、不明。
54	東九州臨青会	1 会員相互の親睦 2 内にあつては相互に研鑽し、外にあつては臨濟禪を挙揚げるする。 ※上記の目的を達成するため、下記の行事を行う。①「社会を明るくする運動月間」(7月1日)に参加して托鉢を行う。 ②研修会(親睦会を兼ねる) ③その他
55	高野山真言宗 愛媛青年教師会	宗祖弘法大師の御教えである「即身成佛」の体現を目指し、「生かせいのち」をスローガンに教師個人の向上と社会の貢献・布教を実践することを目的とした団体である。
56	神奈川県第一部 日蓮宗青年会	布教 伝道活動

57	特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	<p>特定非営利活動法人 ボランティアネットワークEarth設立趣旨書</p> <p>1 趣旨: 私たちを取り巻く社会情勢は混沌として、複雑な様相を見せています。人間関係も希薄になり、こうした人間社会での、個人の幸福感の追求は、とすると他人への配慮に欠け、共に生きる人間としての痛み、苦しみも無関心として見過ごされる風潮にありました。1995年1月17日、阪神淡路大震災が発生し、突然の大きな災害に、予想以上の多くのボランティアが神戸へむかいました。その中にはボランティア未経験者も数多く含まれていたが、現実には起きている問題を自分の事として受けとめ、慣れない救援活動に、懸命に取り組んでいた姿は人間らしい精一杯の行為を体験できる機会となりました。震災はある意味で私たちから虚飾を取り去り、改めて生きることの原点を教えてくれました。現地で緊急救援から時間の経過とともに、少しずつ自立して行く被災者の人々との触れ合いから心のつながりができ、「信頼」のきずなによって、多くのことが語りはじめられたような気がします。人と人が互いに支えあい、励まし、助け合うことによって、少しずつでも現実の中から明日への希望を見いだしていくことの大切さを実感しました。</p> <p>これらの体験をふまえ、大規模災害に備えて災害時の救援活動が速やかに展開できることをめざし、市民参加型のボランティアネットワークを創設しました。これからは、災害時における救援活動の在り方や専門性が問われることを予期して、災害発生から時間の経過とともに、市民社会の防災意識も薄れていく中で、防災対策などを研究し、特定非営利活動ボランティアネットワークEarthとして、災害に対する認識と災害ボランティアの必要性を地域の人々に啓蒙しながら、健全な社会づくりに貢献したいと願っています。これらの活動の目標は、災害時に備え、自分たちの身近な救援態勢を整えるとともに、ボランティアコーディネート事業を展開し、社会福祉の向上、共生社会実現にむけて広く公益に寄与するものとします。</p> <p>2 申請に至までの経過: 1995年に発生した阪神・淡路大震災の支援の中で、災害ボランティア組織として特定非営利活動法人設立の必要性が提案され、平成12年1月16日メンバー全員で設立の意志が確認され、代表石原顕正外3名を発起人とする設立準備会が設立され、数回に及ぶ協議を重ね、設立趣旨書案を作成し、同年3月12日「特定非営利活動法人ボランティアネットワークEarth」設立総会を開催し、特定非営利活動法人として山梨県知事に設立の認証申請を行うこととした。</p> <p>3 名称変更: 平成16年活動内容の専門性に伴い名称を「災害危機管理システムEarth」と変更する。</p> <p>4 目的: この法人は、県内および国内での大規模災害等の発生に備え、一人ひとりの日頃の防災意識高揚を図り、安全かつ住みよい町づくりをめざしながら、災害時における救援支援活動の必要性を広く社会に啓蒙し、社会福祉の向上および共生社会実現に向けて貢献することを目的とする。</p>
58	臨済宗青年僧の会	本会は、臨済宗黄檗宗の宗旨に基づく自己研鑽の場とし、和合を以て資質向上を図ることを目的としている。
59	日蓮宗 岡山立正青年会	本会は日蓮大聖人の御精神を実現することを目的とする。 本会は会員相互の修養と団結を深め親睦を計り、法華経教化の先導者としての自覚と責任を持って、目的達成のために必要な教化活動をする。
61	臨済宗妙心寺派 東北教区 第二部宗務支所	未記入
62	臨済宗 薪流会	薪流会ホームページ参照 http://www.shinryukai.jp/

63	社会事業委員会(通称:ひとさじの会)	<p>【設立の趣旨】—慈しみに満ちた社会をめざして— 現在、世界中でグローバル化が進み、あらゆる情報や物資を得ることができるようになり、利便性に富んだ生活を送れるようになりました。しかし、そのような進歩・発展の裏側では、所得格差や人間関係の貧困化等の問題が顕在化しています。これまで存在した社会のセーフティーネットは機能不全に陥り、これらに起因するさまざまな社会問題が指摘されています。そのなかで、かつて社会のコミュニティの中心を担っていた寺院や僧侶に対して、「社会資源としての寺院の役割とはなんなのか」「本当に寺院・僧侶は人のために役に立っているのか」など、その公益性が疑問視され、議論されるようになりました。</p> <p>なかには、悪意ある誹謗中傷の言葉もありますが、こうした社会からの批判ともいえる言葉の多くは、僧侶への不信感から生じてきたものです。もちろん僧侶も人間ですから、それぞれの人にいたらない点はあるでしょう。しかし、人間としての弱さにあぐらかいてしまうのも、また仏教者として過ったあり方ではないでしょうか。釈尊のみ教をいただく仏教者にとっては、在家も出家も関係なく、み仏のみ教に順じた生き方を心がけ、他者の苦しみや悲しみに寄り添うことのできる人となるのが大切であります。さまざまな社会からの批判には、こうした真の仏教者の姿が見たいという期待も込められているのだと思います。その期待に応えていくことがなければ、いつの日か仏教者への不信感は、仏教そのものへの不信感となってしまうことでしょう。</p> <p>法然上人は次のようにおおせられています。佛は一切衆生をあはれみてよきをもあしきをもわたり給へとも、善人を見てはよろこび悪人を見てはかなしみ給へる也。よき地によき種をまかんかことし。かまへて善人にしてしかも念佛をも修すへし。これを眞實に佛教にしたかふ物といふ也。</p> <p>つまり、「お念仏を申すすべての人を阿弥陀さまはお救いになるけれども、日頃から善い行いを心がける人であれば、さらにみ仏はお喜びになるでしょう。そして、良く耕された土地に良い種をまくように、善い行いを心がけながらお念仏を申す人こそ、眞にみ仏のみ教に順じた人である」とお示くださっているのです。私たちは、法然上人のおっしゃるように、み仏のみ教に順じた生活を心がけ、微力ながら混迷する現代社会に慈しみの種をまく活動を行っていくことが大切であると信ずるのであります。そして、男僧・尼僧・寺族・信者の区別なく社会活動を行うことを通じて、ふれあい、助けあい、学びあい、みんなで社会が慈しみの心で満ちあふれたものとなるように努めたいと考えています。このような活動が積極的に推進されるためには、多くの人が参加できる組織づくりが求められます。よって、社会において法然上人の説かれたお念仏の根底にある万機普益・平等救済といった慈しみの精神を具現化する「社会慈業委員会」を設立いたしました。</p> <p>【目的】 本会は「たがひに順逆の縁むなしからずして、一佛浄土のともたらむ」という法然上人の精神を模範として、信仰を同じくする人はもちろん、信仰を異にする人までも、念仏者たる自己と有縁のすべての人が極楽浄土で再会する友となることを願い、慈しみの心で満ちた社会の形成を目指して行動することを目的とする</p>
64	東京南部日蓮宗青年会	<p>日蓮宗では昭和37年頃に東京青年会を設立し、その後、東京都で東西南北の4部青年会を設立した。</p> <p>【趣旨】お釈迦様・日蓮聖人の教を学び、正しく次世代に継いで行くため。僧侶としての研鑽に励むため。様々な布教活動を行うため。</p> <p>【目的】月1回の読誦会・研修会での会員の研鑽と交流。 社会教化・青少年教化活動。 様々なボランティア活動。 東京南部宗務所・管内寺院等の行事手伝い。 東京4部青年会、全国日蓮宗青年会等との交流</p>

問1-2-3 貴団体の構成人数について（正会員、準会員、なども含んだ総数）お教えてください。

問1-2-4 会員等以外で、炊き出しなどにボランティアとして参加されている方がいればその人数をお教えてください。

問1-2-5 通常時の活動内容についてお教えてください。

表1-2-3・4・5 団体の構成、ボランティア、通常の活動

No	団体名	問1-2-3 貴団体の構成人数について			問1-2-4 会員等以外、参加人数		問1-2-5 通常時の活動内容について
		男性	女性	計	多い時	平均	
1	高野山足湯隊	10	10	20	30	15	① 災害被災地における足湯傾聴ボランティア・炊き出し・慰問 ② 高齢者施設などでの足湯傾聴ボランティア・法話 ③ 足湯傾聴ボランティアの普及活動（足湯の講習、講演会など）
2	宝泉寺 ボランティアの会	2	7	9	10	2	① 被災地域の視察 ② 足湯による傾聴ボランティア ③ 足湯の普及活動
3	真言宗智山派東京西部教区 智山青年会	21	0	21	不明		・勉強会 ・ボランティア ・親睦会 ・宗内活動参加協力
4	埼玉第二教区 智山青年会	32	-	32	0	0	研修会、講習会、勉強会、各種事業、青年会団体の結集参加等
5	真言宗智山派埼玉 第四教区智山青年会	29	2	31			勉強会等
6	名古屋の坊主	15	0	15	5	5	・定例ミーティング・他団体との意見交換会
7	真宗大谷派高岡教区 区内有志 災害復興支援ネットワーク	18	4	22			災害時の活動に備え、復興支援に関する様々な技術が学べる学習会や社会福祉協議会が主催する学習会にも積極的に参加する。
8	真宗大谷派名古屋教区 区内有志災害ボランティアネットワーク (でらボラ NAGOYA)	44	4	48	4		現在では、炊き出し、居酒屋、ライブ、お茶会を中心に、現地の夏まつりに金魚すくいや食べ物の出店を行ったり、また、宗派内の児童教化連盟の協力のもと人形劇などの催事を行っています。また、月に数回、仮設住宅と福島県二本松市内大谷派寺院へ野菜などの郵送、岩手県大槌町の町おこしグッズを買い取り、名古屋市内で販売しています。その他、各種イベントの際に被災地に関連したブースを持つなど。
9	真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	27	8	35	20	5	○無料バザー ○炊出しや、居酒屋 ○仮設集会所での法話、映画、音楽鑑賞
10	高野山真言宗 播磨 友師会	15	3	18	10	5	仮設での 足湯傾聴活動を中心に、お茶飲み会(こうやくんカフェ)

11	だるまの会	20	0	20			・震災や災害の義援の為のおかげさま托鉢を年に5回程行っています。
12	東京曹洞宗青年会	40	0	40	10	5	① 定例役員会・法要講習会の勉強会 ② 歳末助け合い托鉢募金活動 (浄財はNHKを通じ国内外へ) ③ 海外研修 (寺院・戦跡視察等) ④ 本山安居者への事前勉強会 ⑤ 教養研修会 (年1回 宗制勉強や防災館見学等、年毎に研修企画を変える) ⑥ 禅のつどい一泊参禅会 (年1回 毎年参禅者50名ほど参加)
13	大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—			不明	延べ 180		京都の大谷大学を出発地とし、宮城県を中心とした被災地へボランティアスタッフを派遣しています。活動内容はその時々によって異なっています。後援していただいている「真宗大谷派東本願寺現地復興支援センター」の指示に従い、できるだけ現地のニーズにあう活動を心掛けています。これまで、泥出し、清掃、炊き出し、バザー、支援物資の整理、交流会、などを行ってきました。
15	浄土宗神奈川教区 青年会	118	4	122			・宗祖法然上人御忌にあたっての念佛会 ・大本山光明寺(鎌倉)へ年2回の清掃奉仕 ・会員相互並びにOB会員との親睦をはかるためのスポーツ大会や懇親会 ・会員の資質向上をはかるための研修会 ・緊急災害時の義捐金の財源として会員やOBの所属寺院に「災害救援募金箱」を設置 ・上部団体(全国・関東ブロック)主催の念佛会、研修会、スポーツ大会等への参加
16	宮城智山青年会	42	0	42			・年3回程程度の勉強会 ・夏休みを利用しての寺門子弟講習会の開催 ・年末納会等
17	福島中央 智山青年会	20	1	21			未記入
18	松泉寺有志会	10	0	10			我々が住む地域が被災地に、我々が被災者となった場合、どのような活動が出来るのか、また、これからも局地的にも起こるであろう災害にたいしてどのような支援活動が出来るのか、不定期に意見交換を行っている。

20	浜〇かふえ (浄土宗福島教区浜 通り組青年会)	21	1	22	10	2	【浜〇かふえ】 ・東日本大震災・福島第一原子力発電所事 故により避難生活を余儀なくされている 方々がお住まいの仮設住宅・雇用促進住宅 の集会施設や広場における訪問カフェ・傾 聴ボランティア活動 ・米一升運動によって集まった佛供米の配 布会開催の協力・補助 ・外部ボランティアによる炊き出し、ワークシ ョップやイベントの受け入れ協力 ・傾聴によって得られた情報の行政への提 供
21	宗教法人 妙興寺	6		6	2	2	・宗教活動 ・雲水の教育、育成
22	高野山真言宗埼玉 青年教師会有志一同	35		35			法要をしたり交流会など
23	名取市仏教会	19		19			名取市夏祭り 流灯会、総会
24	雲龍寺ボランティア会	10	4	14			未記入
25	被災者支援チーム TEN	10	20	30	20	5	物資の受け入れ、はいふ、内職のサポート 支援のコーディネートなど
26	真言宗智山派埼玉 第八教区 智山青年会	25	0	25			①書道練習会、詠歌練習会他勉強会 ②講師を招いての研修会 ③街頭募金活動 ④無縁仏慰霊法要
27	曹洞宗 一步の会	23	0	23			(1)法要研修 (2)参禅会 (3)社会事業並びにそれへの奉仕 (4)その他必要と認めた事業
28	日蓮宗 東京都西部青年会	28	1	29			寺子屋を通じて子供たちを仏教に触れさせ ている。先輩僧に頼み様々な勉強会を開催 している。戦没者慰霊法要を始め様々な宗 門法要に出仕している。府中にある医療少 年院において施餓鬼会を行っている。寒修 行を行いお題目弘通に励んでいる。スポー ツを通じ様々な青年僧と交流している
29	日蓮宗 青森県立正青年会	28	1	29			① 会員の資質向上を目的とした研鑽の日 「行学の日」での、青森県発祥の和讃の研 修や、法華経読誦など ② 県内各地域での唱題行脚 ③ 県内寺院開催の修養道場の手伝い
30	宗教法人 芳朝寺	21	4	25			通常は一般的きな宗教活動のみです。
31	神奈川智山青年会	51		51			1 役員会、並びに総会(各年1回開催) 2 会員対象勉強会の開催 3 各結集への参加
32	埼玉第9教区 智山青年会	18	-	18			①各種研修会 ②教化及び布教活動 ③その他目的遂行上必要な活動

33	栃木県 天台仏教青年会	51	0	51			4月 定例総会 6月 山家会(法要) 7月 栃木教区青少年研修 10月 標語作成 11月 霜月会(法要) 12月 一斉托鉢 1月 寒行托鉢 2月 福聚教会月例会(勉強会)を開催
34	全国曹洞宗青年会 (全曹青)	3000	若干	3000			会の事業 ① 現代の諸問題に関する研究及びその対応活動。② 各曹洞宗青年会活動との連携及び支援、並びに親睦を図る。③ 教化活動並びに文化事業推進の研究開発及びその方策の実施。④ 情報誌の発刊並びに図書・資料の刊行及び紹介。⑤ その他本会に必要と認められる事業。
35	いわてゆいっこ	5000	5000	10000	200	100	・寺院における炊き出しの食糧供給 ・寺院に避難する住民への物資配布 ・寺院に避難していた住民を対象にしたイベント開催 ・寺院に避難していた住民を対象にした傾聴活動
36	高野山真言宗 長野宗務支所	40	22	62			法務、各種研修会等
37	レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	10	4	14	20	10	① 被災地児童受入地確保 ② 被災地状況を福岡県内に広報 ③ 支援者確保のための広報 ④ 被災地児童宅との連絡 ⑤ 被災地教育機関との連携 ⑥ 被災地地域との連携
38	埼玉天台仏教青年会	51	7	58			1. 研修会・講演会・親睦会などの開催。 2. 社会奉仕と青少年教化活動の推進。 3. 関係団体との提携・交流。 4. その他、必要な事業。
39	宮城県曹洞宗青年会	304	3	307			本会の目的を達成するために次の事業を行う。 (1) 会員研修(2) 布教教化 (3) 各教区青年会活動の支援 (4) 会報の発行(5) 宗務庁、宗務所の計画する教化事業への協力 (6) その他目的達成に必要と認める事業(同 規約 第4条) 具体的には、(1)として研修会、移動研修会の開催。(2)としてカンボジア教育支援チャリティバザー(4)として年2回の『無聖』の発行。(6)としてソフトボール大会、会員大会などが挙げられる。
40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	30	3	33	90	20	・震災後に活動を始めたため、いまのところは支援活動のみです。

41	茨城智山青年会	21	1	22			<ul style="list-style-type: none"> ・年中法要の実施参加 ・事相、教相、詠歌、布教の研修と実践 ・智山青年連合会及び他青年会との親睦交流 ・その他必要と認める活動
46	高野山真言宗 東京青年教師会	23	-	23			定時総会、研修会、法要・大会出仕、托鉢（街頭募金）親睦旅行、野球、他
50	臨済宗妙心寺派 信越教区青年部	25		25			教区内諸行事の手伝い 歳末托鉢
51	栃木県 日蓮宗青年会	9	1	10			<ul style="list-style-type: none"> 定例の法華経読誦会 春秋に行う先師報恩法要 唱題行脚(不定期) 子ども修養道場の企画実施(毎年7月後半)
52	高野山真言宗 山梨宗務支所						未記入
53	高野山真言宗 青年教師会 相模真友会	37	1	38			<ul style="list-style-type: none"> ・原則 月1回 月例会を設け、勉強会、親睦会などの活動。 ・近隣の青年会、関係諸団体の研修会等への参加。(参加案内を頂いた場合)
54	東九州臨青会	63		63			<ul style="list-style-type: none"> 社会を明るくする運動協賛托鉢 少年少女研修会の開催(教区主催) 研修会(1回/年) 総会(1回/年)
55	高野山真言宗 愛媛青年教師会	30		30	5	3	年に1回の総会、各講演会、講習会の実施。宗務支所行事への参加、手伝い等、布教研修会での実演。東日本震災以降は毎月11日に商業施設の前での托鉢を実施。浄財は全て福島県へ贈っている。
56	神奈川県第一部 日蓮宗青年会	45	3	48			行脚 修養道場 研修会
57	特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	18	2	20	50	20	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災の意識高揚を図る、企画立案。各地域の災害弱者を対象とした防災講座開設・企業セミナー開講・講演活動 ・防災コーディネーター養成講座を開催し、認定証を発行して実践的に活動できる人材を育成する活動 ・災害時の支援活動と共にコミュニケーションの崩壊された地域にて復興の支援を重視した活動を行う <p><主な活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 防災を考える会「講演会」 ～三宅島噴火災害に学ぶ～ 「災害ボランティア防災講座」開催 防災災害支援ネット学習会「災害・市民講座2002」開催 「避難所体験」SVA 東京慈母会館 「池上まち歩き」災害図上訓練

							神奈川県南足柄市社会福祉協議会 「災害体験講座」第1回—避難所体験— 第2回—図上訓練— 第3回—障害者と共 に考える— 映画「掘るまいか」チャリティー上映会・映 画「地球が動いた日」チャリティー上映会 山古志「復興祭」開催・新潟県中越地震支 援「夏祭り」開催 被災地から学ぶ～支援への体験ワークショ ップ 3.11 首都圏帰宅困難時の検証
58	臨済宗青年僧の会	1200		1200			機関紙『不二』等を発行し、情報発信を行っ ている。また、講座住職学を開催し、情報交 換などを行っている。
59	日蓮宗 岡山立正青年会	34	0	34			月例会・読誦行 毎年「少年少女のつどい」を開催 バザー開催による寄付活動 少年院彼岸法要 歳末募金活動
61	臨済宗妙心寺派 東北教区第二部 宗務支所	25	1	26		10	東北教区、教区内第2部の行事や予算、 本山からの協議事項の連絡協議など
62	臨済宗 薪流会	160		160	10	3	交通遺児・あし長育英会レインボーハウス 支援(阪神淡路震災遺児・東日本震災遺児 支援) 托鉢 研修会及び総会
63	社会事業委員会 (通称:ひとさじの 会)	25	9	34	30	15	① 生活困窮状態の方の葬送支援、及び追 悼法要 ② 浅草における炊き出し・夜回り 配食・医療品の配布③ 定例会(毎月)・勉 強会・講演会など④ 寺院による米支援の 呼びかけ —災害用備蓄米・古米の活用推 進—⑤ 寺院・僧侶による社会的弱者支援 のモデルづくり
64	東京南部 日蓮宗青年会						現在の主な活動 ・月1回の読誦会 ・4月下旬 立教開宗会全国一斉行脚 ・5月3日 池上本門寺いのりの日 バザー出仕 ・7月下旬 子供の集い(2泊3日) ・8月15日 千鳥ヶ淵戦没者墓苑慰霊法要 出仕・慰霊唱題行脚(千鳥ヶ淵～池上) ・3月下旬 親子の集い(日帰り) ・被災地復興支援活動 ・東京南部宗務所行事・管内寺院行事等 のお手伝い。

問2. 東日本大震災に際しての貴団体の活動状況について

問2-1 今回の震災支援に関して、1年間（平成23年3月11日～平成24年3月）の活動経費の総計についてお教えてください。

表2-1 震災支援に関して、1年間の活動経費の総計（円）

No	団体名	震災支援に関して、 1年間の活動経費の総計（円）
1	高野山足湯隊	985,000
2	宝泉寺ボランティアの会	100,000
3	真言宗智山派東京西部教区智山青年会	238,140
4	埼玉第二教区智山青年会	200,000
5	真言宗智山派埼玉第四教区智山青年会	130,000
6	名古屋の坊主	813,341
7	真宗大谷派高岡教区内有志 災害復興支援ネットワーク	1,500,000
8	真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワ ーク(でらボラ NAGOYA)	5,000,000
9	真宗大谷派奥羽教区ボランティア有志の会	4,900,000
10	高野山真言宗 播磨 友師会	500,000
11	だるまの会	90,000
12	東京曹洞宗青年会	700,000
13	大谷大学ボランティア有志 —共に歩み隊—	124,6031
15	浄土宗神奈川教区青年会	99,968
16	宮城智山青年会	1,039,930
17	福島中央智山青年会	68,040
18	松泉寺有志会	200,000
20	浜〇かふえ (浄土宗福島教区浜通り組青年会)	548,471
21	宗教法人 妙興寺	1,437,975
22	高野山真言宗埼玉青年教師会有志一同	不明

23	名取市仏教会	866,000
24	雲龍寺ボランティア会	200,000
25	被災者支援チーム TEN	1,000,000
26	真言宗智山派埼玉第八教区智山青年会	253,345
27	曹洞宗 一步の会	142,400
28	日蓮宗東京都西部青年会	0
29	日蓮宗青森県立正青年会	188,700
30	宗教法人 芳朝寺	600,000
31	神奈川智山青年会	200,000
32	埼玉第9教区智山青年会	95,000
33	栃木県天台仏教青年会	366,456
34	全国曹洞宗青年会(全曹青)	9,958,869
35	いわてゆいっこ	3,700,000
36	高野山真言宗長野宗務支所	739,590
37	レインボーキャンプふくおか実行委員会	1,500,000
38	埼玉天台仏教青年会	1,900,369
39	宮城県曹洞宗青年会	1,704,686
40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	1,791,845
41	茨城智山青年会	200,000
46	高野山真言宗 東京青年教師会	871,218
50	臨済宗妙心寺派信越教区青年部	未記入
51	栃木県日蓮宗青年会	400,000
52	高野山真言宗山梨宗務支所	1,000,000
53	高野山真言宗青年教師会 相模真友会	300,000

54	東九州臨青会	500,000
55	高野山真言宗愛媛青年教師会	840,000
56	神奈川県第一部日蓮宗青年会	300,000
57	特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	5,000,000
58	臨済宗青年僧の会	1,000,000
59	日蓮宗 岡山立正青年会	655,900
61	臨済宗妙心寺派 東北教区第二部宗務支所	800,000
62	臨済宗 薪流会	10,000,000
63	社会事業委員会(通称:ひとさじの会)	146,046
64	東京南部日蓮宗青年会	555,063

表2-1

震災支援に関して、1年間の活動経費の総計(円)

金額	回答数	%
50万円未満	23	35.38%
50万円以上 100万円未満	15	23.08%
100万円以上 300万円未満	16	24.62%
300万円以上 500万円未満	3	4.62%
500万円以上	4	6.15%
不明・未記入	4	6.15%
合計	65	100.00%

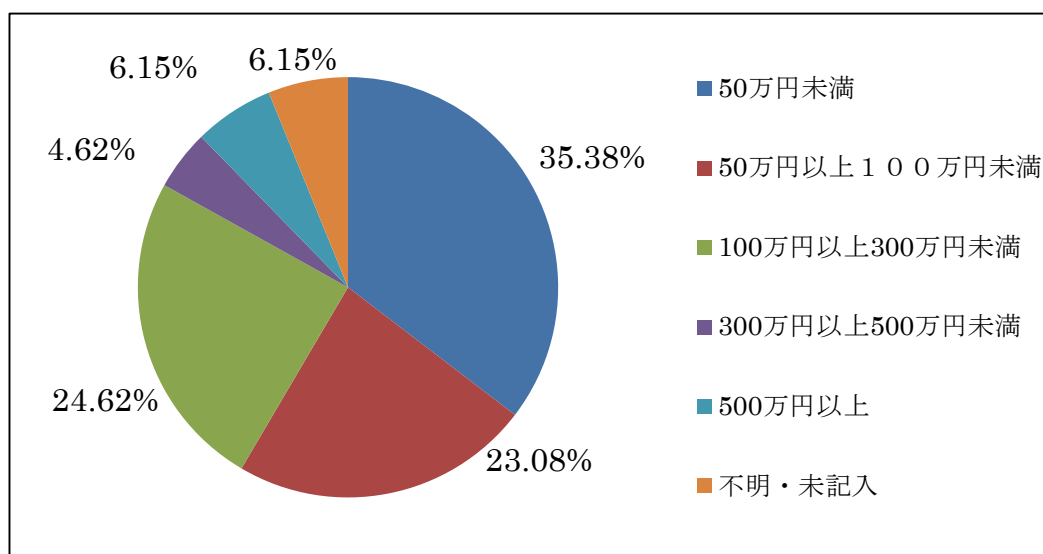


図2-1 震災支援に関して、1年間の活動経費の総計(円)

問2-1では、東日本大震災に際しての各団体の1年間（平成23年3月11日～平成24年3月）の活動経費の総計についての質問であり、「50万円未満」が23件、35.38%と最も多く、「50万円以上100万円未満」が15件、23.08%となっている。「100万円以上300万円未満」も16件、24.62%と2番目に多い。また、「300万円以上500万円未満」3件、4.62%、「500万円以上」4件、6.15%と活動頻度や交通機関の利用や距離などによって必要経費が多くなった団体もある。

問2-2 今回の震災支援に関して協力・協働した他団体がありましたか。

・あるに○を記した方は下記の枠内に団体名をご記入ください。

- ・震災以前から協力・協働していた団体（平成23年3月以前）
- ・具体的にどの様な協力・協働をなさいましたか。
- ・震災以後、新たに関係が発生した団体（平成23年3月以降）
- ・具体的にどの様な協力・協働をなさいましたか。

表2-2 今回の震災支援に関して協力・協働した他団体がありましたか。

N ○	団体名	震災支援に関して協力・協働した他団体 1：有 2：無	震災以前から協力・協働していた団体	具体的にどの様な協力・協働	震災以後、新たに関係が発生した団体	具体的にどの様な協力・協働
1	高野山足湯隊	1	・高野山真言宗 NGO 協働センター・心の相談員ネットワーク・NPO 日本スピリチュアルケアワーカー協会 (JSCWA)	足湯による傾聴ボランティアや炊き出しなどおこないました	・カトリック教会フランススコ会修道士・南三陸町戸倉復興支援団・ラムズ(Lamb's)・自然の家かあちゃんクラブ(SK)・RQ 市民災害救援センター・宗教者災害支援連絡会(宗援蓮)	カトリック教会フランススコ会修道士様よりサツマイモを支援いただきました。 南三陸町戸倉復興支援団、ラムズ、SKC、RQ 市民災害救援センターの皆さんと協働しました。
2	宝泉寺ボランティアの会	未記入	高野山真言宗 高野山足湯隊 被災地 NGO 協働センター ホリスティックセラピースクール金沢 高野山真言宗心の相談員ネットワーク JSCWA 日本スピリチュアルケアワーカー協会	おもに現地視察と情報交換をおこないました。	カトリック教会フランススコ会修道士 南三陸町戸倉復興支援団 ラムズ(Lamb's) 自然の家かあちゃんクラブ(SK) RQ 市民災害救援センター 宗教者災害支援連絡会(宗援蓮)	高野山足湯隊のコーディネートのため、現地の視察と事前調査や打ち合わせをしました。ツイッターで知り合った現地の方々から生の声を聞き、いまなにが求められているのかを教えてください、協力者を仰いで足湯隊を組織し、傾聴ボランティアを実施しました。
3	真言宗智山派 東京西部教区 智山青年会	2	未記入	未記入	未記入	未記入

4	埼玉第二 教区智山 青年会	1	未記入	未記入	福島第一教区青年会	瓦礫撤去、側溝の清掃 等
5	真言宗智山派 埼玉第四教区 智山青年会	1	未記入	未記入	未記入	瓦礫撤去 側溝清掃な ど
6	名古屋の 坊主	1	未記入	未記入	NPO法人レスキュー・ ストック・ヤード(RSY) 名古屋教区有志災害 ボランティアネットワ ーク	現地の情報収集や私た ちのボランティア団体の 現地活動申請の取次ぎ など。また、名古屋で の意見交換会や情報交 換など。
7	真宗大谷派 高岡教区内 有志 災害 復興支援ネ ットワーク	1	真宗大谷派高岡 教区災害支援本 部	交通費や高速 代・ガソリン代 を補助	特になし	特になし
8	真宗大谷派 名古屋教区 内有志災害 ボランティア ネットワーク (でらボラ NAGOYA)	1	未記入	未記入	・震災以後、新たに 関係が発生した団体(平 成23年3月以降) 真宗大谷派名古屋教区 坊守会 " " 児童 教化連盟 G・ぷんだリーか 福島と名古屋をむすぶ 子ども会 in 東別院 実 行委員会	・活動支援金の寄付を いただく。・児童教化連 盟に人形劇などの巡回 をお願いした。・宗派内 の僧侶で結成されてい るライブバンドに依頼し て、炊き出しとともに巡 業した。・愛知県内で、 福島の子どもたちの一 時保養を行った宗派内 団体があり、協力して 受け入れを行った。
9	真宗大谷派 奥羽教区 ボランティア 有志の会	2	未記入	未記入	未記入	未記入
10	高野山真言宗 播磨友師会	1	未記入	未記入	坂元地区 ボランティア 団体	同行活動 支援金 等 イベントの共同開催等
11	だるまの会	1	ライフフォーラム ジャパン	スリランカに家 を建てる建材 支援 浄い水 の出る井戸掘 り支援	臨済宗妙心寺派宮城 福島教区災害対策本部	対策本部支持のもと、 瑞巖寺山内の観音堂を 拠点にして、現地ボラン ティア活動
12	東京曹洞宗 青年会	1	一步の会	ハンセン病療 養所視察研な どを行う。	チーム川上 NPOし らうめ 秀哲会 無敵プ ロジェクト 曹洞宗東京都教諭師会 東京拘置所教諭師会	東京都内(浅草)におい ての義援金街頭募金へ の参加、被災地での炊 き出し・イベント開催 避難所や仮設住宅、に 於いてのハンドマッサ ージを活用した傾聴・花 火・落語・沖縄民謡・メ イクアップ等

13	大谷大学ボランティア 有志 ー共に歩み隊ー	1	未記入	未記入	真宗大谷派東本願寺現地復興支援センター 大谷大学・大谷大学短期大学部	仙台に拠点を置く「真宗大谷派東本願寺現地復興支援センター」からは、活動に関するコーディネートをはじめ、宿泊施設の提供や活動援助など、全面的な協力を得ています。大学からは、活動時にスクールバスの提供を受けています。
15	浄土宗 神奈川教区 青年会	1	・震災以前から協力・協働していた団体(平成23年3月以前) 全国浄土宗青年会 関東ブロック 浄土宗青年会 浄土宗 神奈川教区	災害時の情報提供並びに情報交換	東北ブロック浄土宗青年会	後記「被災寺院復興支援活動」にあたり、全国浄土宗青年会とご協議のうえ作業先を振分け、作業場所での受入れ態勢を整えていただきました。
16	宮城智山青年会	1	未記入	未記入	各地智山青年会 真言宗智山派大本山高尾山薬王院諸大徳 智山教化センター職員	慰霊法要における御助法(手伝い、数珠作りをおこないながらの傾聴行為も含む) 被災寺院のボランティアなど
17	福島中央 智山青年会	2	未記入	未記入	未記入	未記入
18	松泉寺有志会	1	臨済会	人員の供出、 情報共有	臨済宗妙心寺派保春院 reroots	ボランティア活動先の 斡旋、情報共有など
20	浜〇かふえ (浄土宗福島 教区浜通り 組青年会)	1	福島教区浄土 宗青年会	会員相互の 研鑽や各組青年会との連絡 提携を図る。 災害時には 情報の共有、 義捐金の送金 等を行う。 震災後には、 避難所での 炊き出しや 浜〇かふえ 開催の為の 資金援助を 受けている。	浄土宗災害復興事務局・浄土宗災害復興福島事務所 (財)浄土宗報恩明照会 いわき市社会福祉協議会 (いわき市復興支援ボランティアセンター) ふくしまNPOネットワーク いわきNPOセンター 檜葉町災害対策本部いわき出張所 社会事業委員会(ひとさじの会) 東京教区、滋賀教区、宮城教区浄土宗青年会 施術ボランティア救療隊 いわき総合高校家庭倶楽部	・一時避難所における炊き出しの開催、必要資材の借用 ・仮設住宅・雇用促進住宅でのカフェ開催場所の調整と必要資材協力 ・浜〇かふえへの人員協力・物資協力 ・温圧療法ピワキューの施術、施術資格取得のための講習会開催 ・米一升運動米の配布会開催

21	宗 教 法 人 妙興寺	1	薪流会(臨濟宗の僧侶を中心としたボランティア団体)	薪流会のアドバイスにより、被災地の実情を把握し、現地直接支援活動を行なう。	・東日本震災支援の会	東日本震災支援の会が冥福と被災された方々の心の拠り所として被災地に「祈りの塔」を建立するにあたり、111名の方々による写経を添え浄財を送る。
22	高野山 真言宗埼玉 青年教師会 有志一同	1	未記入	未記入	奈良県大和郡山市 薬園寺 二實修験道	一緒に法要や慰霊祭、炊き出し
23	名取市 仏教会	1	未記入	未記入	仙台仏教会	ダライラマ協賛金として20万円送る
24	雲龍寺ボラン ティア会	1	未記入	未記入	栃木教区浄土宗青年会	被災地復興支援活動
25	被災者支援 チームTEN	1	未記入	未記入	・NPOきずなの輪 ・NPOセカンドハーベスト ・NPO日本ユニバ	一緒に支援活動を行なった。物資の提供をしていただいた。
26	真言宗 智山派埼玉 第八教区 智山青年会	1	未記入	未記入	・真言宗智山派 智山 青年連合会 ・真言宗智山派 埼玉 ブロック智山青年会 ・真言宗智山派 福島 第一教区智山青年会	必要な物資・送付先等の情報を共有し、具体的な支援方法を検討した。また現地のニーズに合わせて、仮設住宅による回向法要や側溝の土砂除去作業、被災地での慰霊法要を行った。
27	曹洞宗 一步の会	1	東京都宗務所	補助金	未記入	未記入
28	日蓮宗 東京都西部 青年会	1	未記入	未記入	NPO団体であるアースジャパンの活動支援	バザーを行いその売り上げの全額寄付 街頭での募金活動を行い寄付
29	日蓮宗 青森県 立正青年会	1	未記入	未記入	未記入	未記入
30	宗 教 法 人 芳朝寺	2	なし	なし	なし	なし
31	神奈川智山 青年会	1	東京各部教区 青年会 山梨教区青年会	合同の勉強会等結集の協力	宮城教区 福島第一教区	復興ボランティア活動 物故者慰霊法要
32	埼玉 第9教区 智山青年会	1	埼玉ブロック智山青年会	街頭募金活動	福島第一教区智山青年会 宮城教区	福島県いわき市小名浜地区側溝の土砂撤去 東日本大震災殉難者慰霊法要・復興祈願法要

33	栃木県天台 仏教青年会	1	未記入	未記入	・グリーンタウンやもと ・ひまわりコミュニティ ・みんなのとしょかんプロジェクト	グリーンタウンやもと仮 設住宅にてスチールパ ンコンサート、カフェ、傾 聴ボランティア開催 被災地にみんなのとし ょかん設置を協働
34	全国曹洞宗 青年会 (全曹青)	1	曹洞宗く曹洞宗 宗務庁、大本山 永平寺・大本山 総持寺)、各都道 府県の曹洞宗青 年会(加盟・非加 盟を問わず)、全 日本仏教青年 会、シャンティ国 際ボランティア 会、NPO ほこほ コネクト、(財)全 国青少年教化協 議会、全国社会 福祉協議会、各 被災地域都道府 県・市町村社会 福祉協議会・ボラ ンティアセンター	会の目的を遂 行するため に、資金・物資 の支援、人材 交流、情報共 有などの面で 協力・協働して います。	曹洞宗く岩手県宗務所・ 宮城県宗務所・福島県 宗務所・福島県宗務所 婦人会・福島県宗務所 第三教区婦人会、第四 教区寺族会・島根県第 一宗務所・兵庫県第一 宗務所寺族会・大本山 総持寺平成15年度同 安居会・興国寺婦人会 (伊達市)・總和会新潟 県下越佐渡支部青年 部)、 宗教者災害支援連絡 会、遊楽倶楽部、東日 本大震災支援全国ネッ トワーク(JCN)、キーコ ーヒー(株)、(株)アトッ クス、生活共同組合コ ープ福島、JFTD 花キュ ーピッドグループ、落語 芸術協会、災害ボラン ティア活動支援プロジェ クト会議	【曹洞宗】 行茶活動の協働、支援 物資の提供 【宗教者災害支援連絡 会】 行茶活動、除染活動の 協働 【遊楽倶楽部】 「子ども自然ふれあい 広場～尾瀬旅行～」の 協働 【JCN】 :各種・各地域の情報交 換 【キーコーヒー(株)】 行茶活動に必要なコー ヒー豆の物資支援、 【(株)アトックス】 除染活動時のアドバイ ザー 【生活共同組合コープ 福島】 除染活動に必要な道具 類の提供 【JFTD 花キューピッドグ ループ】慰霊・復興祈願 法要、慰励イベント(共 に3月開催)時に供花を 提供、【落語芸術協会】 慰励イベントの催しの 一環として同会より落 語家・曲芸師を招致
35	いわて ゆいっこ	1	震災直後に発足 した団体のため、 該当未記入。		NPO 法人フォルダ	被災地に必要な物資や 情報を相互に交換し合 う等、住民が必要と感じ るものを最優先に提供 するように努めている。
36	高野山 真言宗 長野宗務支所	1			高野山真言宗 釜石教 会(岩手前線基地)	釜石教会を拠点として、 ボランティア活動。(コー ディネート)

37	レインボー キャンプ ふくおか 実行委員会	1			<p>◇ 特定非営利活動法人 共助の場 集落 ◇ 福岡NPO共同事務所 「びおとーぷ」</p> <p>◇ 被災者支援ふくおか市民ネットワーク ◇ 被災児童疎開支援ボランティア筑</p> <p>◇ 結～ふくおか～ ◇ 福岡被災地前進支援</p> <p>◇ 高野山真言宗東日本大震災災害対策本部</p> <p>◇ カリタスジャパン</p>	<p>◇ 被災地児童受入のための準備(福岡市福岡県との交渉)</p> <p>◇ 会議場所の提供</p> <p>◇ 活動するためのボランティア・マンパワー提供</p> <p>◇ 活動する地域から協力を受ける</p> <p>◇ 福岡の支援企業を探し手を繋ぐ</p>
38	埼玉天台 仏教青年会	1	他県の天台宗仏教青年会	<p>人手が必要な作業を一緒に行った。</p> <p>・大きな水路や側溝の掘り出し作業、流された船の回収作業、お祭り開催の援助など。</p>		
39	宮城県 曹洞宗 青年会	1	曹洞宗宗務庁、曹洞宗宮城県宗務所、曹洞宗東北管区教化センター、全曹青、県内各教区、各教区青年会、他県宗務所、他県青年会 (社)SVAシャンティ国際ボランティア会 サンタピアップみやぎボランティア会	<p>宗門関係各所に関しては、主に「韓国曹溪宗・曹洞宗合同東日本大震災物故者慰霊法要」や、「東日本大震災一周忌法要並びに復興祈願法要」に関して加担。</p> <p>また、県内教区・教区青年会とは被災寺院の境内・墓地片付け作業や、月命日供養に関して協力。</p> <p>他県宗務所・他県青年会には、被災寺院の境内・墓地片付け作業や月命日供養の</p>	<p>(県)社会福祉協議会並びに各市町村社会福祉協議会 [参考](平成24年3月以降) NPO 法人 JETO みやぎ NPO 法人 みやぎ子ども養育支援の会</p>	<p>社会福祉協議会とは、傾聴活動(全曹青活動に加担)に関して協力をいただいた。</p> <p>(尚、設問の対象機関とは異なるが、平成24年7月の研修会の講師としてお招きした。)</p> <p>[参考](平成24年3月以降) NPO 法人 JETO みやぎは、平成24年10月4日のチャリティーバザーにて紹介ブースを設置し、会場募金を寄付した。NPO 法人 みやぎ子ども養育支援の会は、同バザーにて紹介ブースを設置し、クラフト販売があった。</p>

				<p>ため来県頂いた。</p> <p>さらに、県内各教区・教区青年会、他県青年会など多方面から義援金を頂戴した。</p> <p>(社)SVA シャンティ国際ボランティア会とは、主に気仙沼市周辺地域のボランティア活動に関して支援をいただいた。</p> <p>サンタピアップみやぎボランティア会からはカンボジアから義援金頂戴した。</p>		
40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	1	<ul style="list-style-type: none"> ・天台宗 ・天台仏教青年連盟 ・天台宗山形教区 	<p>研修会等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緑水の森支援活動 ・NPO 新農業人ネットワーク山形 ・NPO フードバンク山形 ・NPO よもぎの会 ・NPO YAMAGATA1 ・NPO ディー コレクティブ ・山形県復興支援本部 <ul style="list-style-type: none"> ・天台宗山形教区 ・圓頓会 ・天台宗栃木仏教青年会 ・天台宗埼玉仏教青年会 ・天台宗茨城仏教青年会 ・天台宗南総仏教青年会 ・天台宗東海仏教青年会 ・天台宗本山仏教青年会 ・NPO ふわっと ・プラスネオ ・bousaring ・ふれーぱーく ・ウェザーハート ・こども支援プロジェクト 等 	未記入
41	茨城智山青年会	1	<ul style="list-style-type: none"> 智山青年連合会 各県青年会 	<p>連合会主催行事等 結集、勉強会</p>	<p>福島県</p> <p>宮城県社会福祉協議会</p>	ボランティア活動

46	高野山 真言宗 東京青年 教師会	1	高野山真言宗 神奈川青年教師 会 相模真友 会	托鉢 (街頭募金) 炊き出し 支援物資配 布 泥出し	釜石市社会福祉協議会 檜葉町災害対策本部 薄磯区災害対策本部 (いわき市) 株式会社ファーストリ テイリング	瓦礫撤去 泥出し 支援物資配布 支援衣料配布 児童向け書籍の配布 仮設住宅訪問(体操、茶 話会、児童の学習支援・レ クリエーション) 桜植樹(資金援助)
50	臨済宗妙心 寺派信越教 区青年部	1	未記入	未記入	災害復興支援団体 ガ ルータ	合流し、被災地にてボ ランティア活動
51	栃木県 日蓮宗 青年会	1	全国日蓮宗青年 会	全国日蓮宗青 年会は当会 の母体となっ ておりますが、相互 情報提供等。各 地の災害時 には全国日蓮 宗青年会から の依頼により 活動。	なし	なし
52	高野山 真言宗山梨 宗務支所	1	未記入	未記入	・支所内各寺院の檀信 徒	・各寺院の檀信徒の有 志の方が、各寺院に支 援物資を届けてくれた。
53	高野山 真言宗青年 教師会 相模真友会	2	なし	未記入	なし	未記入
54	東九州 臨青会	1	臨済宗妙心寺派 九州東教区	臨済宗妙心寺 派九州東教区 の命により、 臨青会が実働 一部資金援助 を、教区から いただく(上記 額。1名1回5 万円)	第1陣は、何ができるの か、どこに行けばいい のかさっぱりわからな かったため、会員の知 り合いの宮城県禅興寺 様に色々手配をして いただいて活動。第2 陣からは、妙心寺派の 現地対策本部が立ち上 がったため、そちらにお 世話になった。	左記のとおり
55	高野山真言 宗愛媛青年 教師会	1	未記入	未記入	①福島県いわき市冷泉 寺 ②播磨有志会	①支援物資の送付・配 布。活動の受け入れ窓 口 ②宮城県亘理郡 山元町住民への継続支 援(月1回訪問、物資配 布、農作業手伝い)
56	神奈川県 第一部 日蓮宗 青年会	1	全国日蓮宗 青年会	・炊き出し ・捜し物 ・泥かき ・学校整備 ・供養	未記入	未記入

57	特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	1	神奈川県南足柄市 社会福祉協議会 阪神・淡路大震災 被災者ネットワーク 日蓮宗宗務院・日 蓮宗ボランティアネ ットワーク LOTUS 東京災害ボランテ ィアネットワーク(加 盟団体)	・被災地支援 活動 ・災害時の情 報収集・提供 等 ・防災講座を 開催 ・三宅島降灰 作業等	岩手県・宮城県私学協 会 宮城県私立東陵高校 台湾佛光山寺 台湾 NGO 国際佛光会 台湾 NGO「中華民国搜 救総隊」	被災地へ台湾 NGO レスキ ュー隊受け入れ・派遣 台湾寺院の被災地支援へ のコーディネート活動 被災地へ物資供給・手配 仮設住宅への支援 被災学生への台湾無料留 学支援 被災地の学校へ支援金進 呈
58	臨済宗 青年僧の会	1	だるまの会	東日本大震災 における災害 支援活動にお いて、共同で 活動。	特にございません。	
59	日蓮宗 岡山立正青年 会	1	未記入	未記入	津波復興支援センター	震災のボランティア活 動がボランティア団体を 介しての義務付けの 為、作業場所・作業内 容全般を依頼。
61	臨済宗妙心 寺派 東北 教区第二部 宗務支所	1	臨済宗妙心寺派 東北教区	支援物資の受 け入れ、事務 局になってい ただきました	妙心寺派の学生寮 花 園禅塾	花園禅塾がボランティ アに行く際に差し入れ などを行いました
62	臨済宗 薪流会	1	なし	未記入	妙心寺派宗務本所	傾聴ボランティア
63	社会事業委 員会 (通称:ひとさ じの会)	1	(財)浄土宗報恩明 照会 (財)全国青少年教 化協議会 NPO もやい NPO セカンドハー ベスト・ジャパン 滋賀教区浄土宗青 年会	自尊感情の低 い状態にある 方々(「ホームレ ス」や自死念慮 者等)の支援を 行うに関して、 食糧や倉庫の 提供を受けたり、講習会を共 に行うなど、多 岐にわたる活動 で協力・協働し ていました。	(財)共生地域創造財団 (元 ホームレス支援全 国ネット)遠野まごころ ネット、NPO みちのく 支援ネットワーク、大分 教区浄土宗青年会、福 島県浜通り組浄土宗青 年会(はままるカフェ) NPO うつくしまネットワ ーク、NPO ワンファミリ ー仙台、テラネット	被災地に必要な物資 や情報を相互に提供し 合う他、一緒に仮設の 訪問や勉強会を行うな どしている。
64	東京南部 日蓮宗 青年会	1	全国日蓮宗青年会 日蓮宗東京教化伝 道センター 日蓮宗東京南部社 会活動部会	被災地ボラン ティア(がれき 撤去等) 被災地傾聴 ボランティア 東日本大震災 慰霊法要出慰 霊唱題行脚	被災地宗門寺院 岩手県釜石市仙寿 院・宮城県石巻市久 円寺等	がれき撤去・慰霊法 要出仕

表2-2 震災支援に関して協力・協働した他団体

震災支援に関して協力・協働した他団体	回答数	%
ある	56	86.15%
ない	7	10.77%
未記入	2	3.08%
合計	65	100.00%

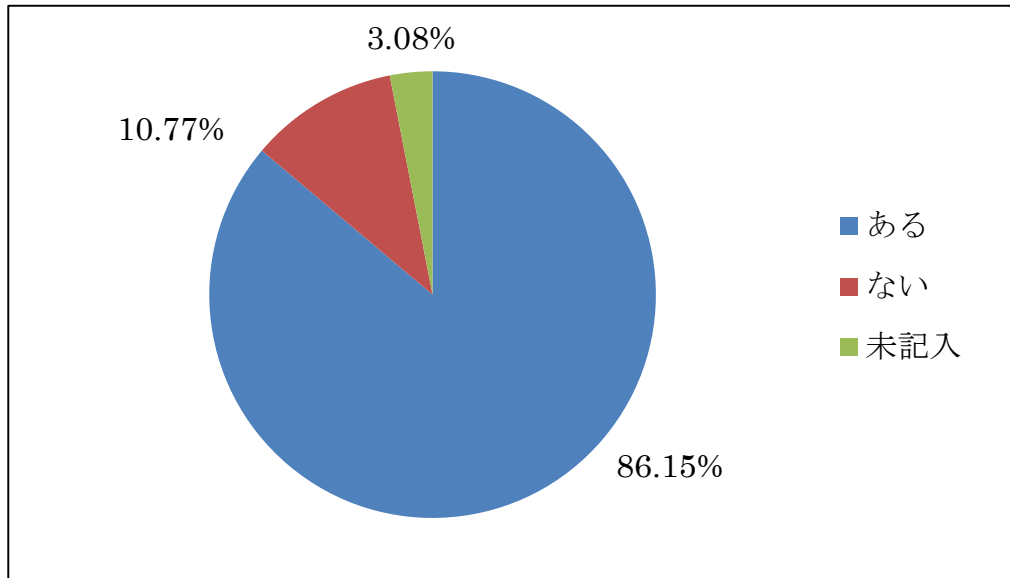


図2-2 今回の震災支援に関して協力・協働した他団体がありましたか。

問2-2は、東日本大震災に関して協力・協働した他団体の有無についての質問したものであり、「1. ある」との回答が56件(86.15%)と最も多く、次いで「2. ない」が7件(10.77%)、未記入が2件(3.08%)であった。

問2-3 今回の震災支援活動に際して、どのような手段で情報を得ましたか。
(該当するもの全てに()に○をつけてください。複数回答可)

表2-3 情報取得手段の方法

情報取得手段	回答数	%
1.インターネットの情報サイト	27	15.34%
2.ツイッター	7	3.98%
3.フェイスブック	12	6.82%
4.新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	26	14.77%
5.現地の知り合いや団体と直接連絡	55	31.25%
6.所属教団や関係団体から連絡	47	26.70%
7.その他【ソーシャルネットワークサービス(SNS)】	2	1.14%
合計	176	100.00%

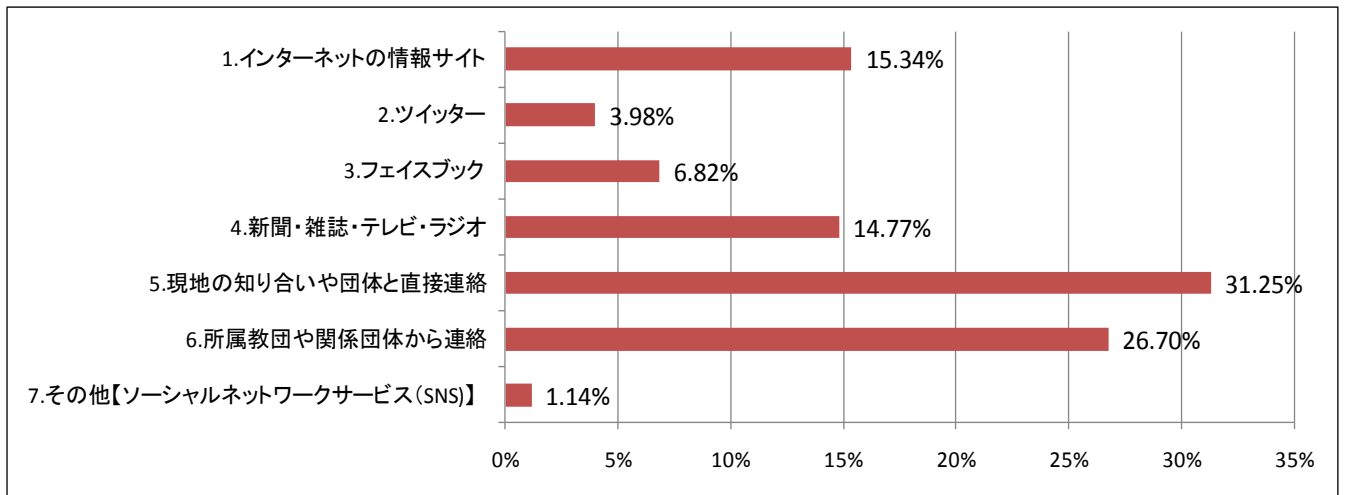


図 2-3 今回の震災支援活動に際して、どのような手段で情報を得ましたか。

問 2-3 は、東日本大震災の震災支援活動に際して、どのような手段で情報を得たかを複数回答形式で問う質問であり、「5. 現地の知り合いや団体と直接連絡」が 55 件 (31.25%) と最も多く、次いで、「6. 所属教団や関係団体から連絡」が 47 件 (26.70%)、「1. インターネットの情報サイト」が 27 件 (15.34%)、「4. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が 26 件 (14.77%)、「3. フェイスブック」12 件 (6.82%) であった。

問 2-3 その他の回答 (記述)

No	団体名	記入事項
20	浜〇かふえ (浄土宗福島教区浜通り組青年会)	「福島民友」「福島民報」「いわき民友」
50	臨済宗妙心寺派信越教区青年部	合流し、被災地にてボランティア活動
62	臨済宗 薪流会	発生直後に支援物資を届け直接現地入りして状況を把握活動内容を定めました

問 2-4 今回の震災支援活動に際して、どのような手段で情報を発信しましたか。
(該当するもの全てに()に○をつけてください。複数回答可)

表 2-4 情報発信手段

情報発信手段	回答数	%
1. インターネットの団体ホームページ	26	14.44%
2. ツイッター	7	3.89%
3. フェイスブック	16	8.89%
4. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	17	9.44%
5. 現地の知り合いや団体と直接連絡	36	20.00%
6. 団体の会誌・ニュースレターなど	29	16.11%
7. 所属教団や関係団体へ直接連絡	44	24.44%
8. その他【ソーシャルネットワークサービス(SNS)】	5	2.78%
合計	180	100.00%

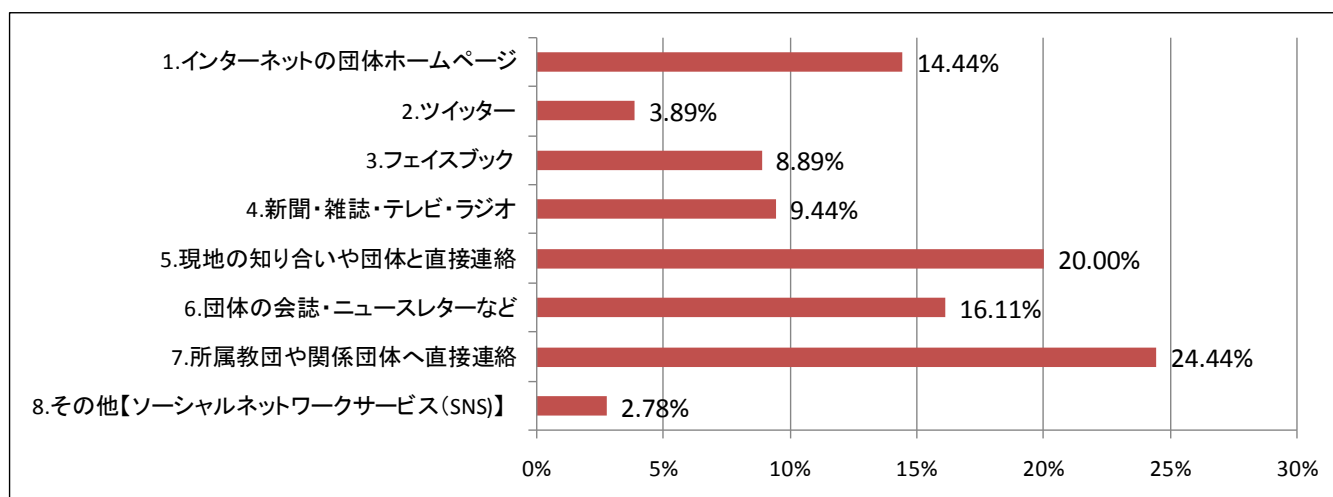


図 2 - 4 情報発信手段の方法

問 2 - 4 は、東日本大震災の支援活動に際して、どのような手段で情報を発信したのかを複数回答形式で問う質問であり、「7. 所属教団や関係団体へ直接連絡」が 44 件 (24.44%) と最も多く、次いで、「5. 現地の知り合いや団体と直接連絡」が 36 件 (20.00%)、「1. インターネットの団体ホームページ」が 26 件 (14.44%)、「4. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が 17 件 (9.44%)、「3. フェイスブック」が 16 件 (8.89%)、「2. ツイッター」が 7 件 (3.89%)、「8. その他【ソーシャルネットワークサービス(SNS)】」が 5 件 (2.78%) であった。

問 2 - 4 その他の回答 (記述)

※具体的なサービス内容 (Google+, Mixi など) があればご記入ください。

【記入欄】

No	団体名	記入欄
20	浜〇かふえ (浄土宗福島教区浜通り組青年会)	・KFB 福島放送「若手僧侶の取り組み」の取材(平成 24 年 3 月 5 日放送)
25	被災者支援チーム TEN	ブログ
51	栃木県日蓮宗青年会	アメーバ アマチュア無線による情報収集
56	神奈川県第一部日蓮宗青年会	ブログ
62	臨済宗 薪流会	1. 関係教団直接連絡 2. 独自のネットワークにて活動資金の募金を行いました

問2-5 情報収集、発信は有効に機能しましたか。

No	団体名	1した 2しなかった 3未記入	理由
1	高野山足湯隊	1	全国の足湯隊の仲間とのやりとりにはインターネットによる情報交換が欠かせません。自坊から遠く離れた被災地の情報を入手するために、ツイッターでの情報交換が有益でした。その声に耳を傾け、実際に会いに行き、そこから活動が始まりました。
2	宝泉寺 ボランティアの会	1	被災地域の方々や現地で活動するボランティアとの連絡にはツイッターが有益でした。
3	真言宗智山派東京西部教区 智山青年会	1	必要とされている支援活動が直ちに連絡された
4	埼玉第二教区 智山青年会	1	未記入
5	真言宗智山派埼玉第四教区 智山青年会	3	未記入
6	名古屋の坊主	1	(情報収集)私たちが一度現地入りした直後、どこを拠点に活動するかが問題になっていた。そんなころ、初めて名古屋教区内有志の情報交換会に参加させていただいて、現地に拠点を置いて活動している名古屋のNPO法人を教えてもらった。そこから、定期的に現地入りする場所が決まり、刻々と変わる現地の状況に対応しながら支援をすることができていると思う。 (発信)名古屋教区有志の情報交換会では地域によって異なる状況なので、それぞれの地域に必要な物資の呼びかけや呼びかけに協力をすることができていると思う
7	真宗大谷派高岡教区内有志 災害復興支援ネットワーク	1	未記入
8	真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク(でらボラNAGOYA)	2	現在直面している課題は、愛知県にいながらにして被災地に関わりを持つ人を多く生み出すことである。そのためには、現地が求めていることをしっかり受け止める情報の流通が必要である。支援者と被災者をつなぐのは、互いに何を求めているかの情報を交流することであると思われる。
9	真宗大谷派奥羽教区ボランティア有志の会	1	フリーメールサイトに会員が各自登録して、メールの一斉送信など情報の共有が出来た。
10	高野山真言宗 播磨 友師会	1	未記入
11	だるまの会	1	会員が全員妙心寺派に所属している為、対策本部との連絡がスムーズにできた。
12	東京曹洞宗 青年会	1	青年会員の縁のある御寺院より、被災物故者供養のための雅楽奉納演奏を依頼された。 現場の声を生で聞くことで、現地の方々へ物資以外の心の支えになるものを提供することができた。 写真を多用した会報を都内曹洞宗寺院向けに発行することにより、啓発活動として一定の成果を上げられた。

13	大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—	1	未記入
15	浄土宗 神奈川教区 青年会	2	現地からの情報や上部団体・協働団体の動向を会員に知らせるための連絡系統が、教区→組→会員という平常時の流れと同じだったため時間がかかり、状況の急激な変化に対応できませんでした。
16	宮城智山青年会	2	基本的には有志の直接の連絡によって情報を交換していた為。
17	福島中央智山 青年会	3	未記入
18	松泉寺有志会	1	有志同志の集まりで、必要以上に対外的な発信を行っていなかったため
21	宗教法人 妙興寺	1	檀家や一般の方々に被災地の状況や、当寺院の支援活動に対し理解を得る。
22	高野山真言宗 埼玉青年教師会 有志一同	3	特になし
23	名取市仏教会	1	未記入
24	雲龍寺 ボランティア会	1	現地の方から直接指示を頂き、要望に沿った支援活動を行なうことができたと思います。
25	被災者支援 チーム TEN	1	未記入
26	真言宗智山派 埼玉第八教区 智山青年会	1	被災地で必要とされている事項は、刻々と変化しており、同様の物資を送付しても使い勝手が悪かったり、細かい指定が出来ずにいた。しかしながら直接現地の声が聞けたことで迅速に対応することが可能となった。特に震災発生当初は、緊急性の高いものが優先的に送付出来たことは、情報の共有が図れた為である。
27	曹洞宗 一步の 会	3	未記入
28	日蓮宗東京都 西部青年会	1	未記入
29	日蓮宗青森県 立正青年会	1	情報収集に関して言えば、刻一刻と変化するニーズに対応するために現地の知り合いや、団体代表者と連絡を取ることで適切な物資や支援を届けることができた。また、支援の仲介をしていただくことで円滑な活動ができた。発信に関しては効果のほどはわかりません
30	宗教法人 芳朝寺	1	現地の被災されている多くの方々に炊きだしの周知ができた。
31	神奈川 智山青年会	1	現地との意思疎通が図れ、支援活動時や、支援物資の選択に役立った。
32	埼玉第9教区 智山青年会	1	被災地に本部を置く青年会と埼玉ブロック智山青年会と連絡を取り合い、埼玉県県内の会長を中心に呼びかけをした。
33	栃木県天台 仏教青年会	2	支援物資が思うほど集まらなかった
34	全国曹洞宗青年 会(全曹青)	1	活動初期の段階では、MLやHPで被害状況や支援の要望、活動報告を行い、全国各地の会員との情報の共有に努めました。 支援活動が長期化する中で、よりタイムリーな活動状況をお伝

			えすることにより、活動の有効性や意義を理解して頂き、継続的な支援を続けるために、ブログやフェイスブックを活用しています。
35	いわてゆいっこ	1	未記入
36	高野山真言宗 長野宗務支所	1	未記入
37	レインボーキャン プふくおか 実行委員会	1	そもそも、ツイッターやパソコンのツールが苦手な者ですから、電話や、faxで情報を収集、発信しました。他団体は、上手にパソコンツールを使用して、マンパワーを集めていましたが、アナログ的に動きました。でも、それは、良かったと思います。悲壮感を持ってボランティアにやってきたり、いっぱいの子供を子ども達に注ごうとしていたり、様々ですが、実際に子ども達に接していただくため、こちらとしては、アナログ的に動くことで、一方的な救済活動をセーブできたような気がしますので。
38	埼玉天台 仏教青年会	1	・支援先の自治会長さんと直接連絡をとることで、被災地の様子やニーズを知ることができた。・支援先に会報誌や告知のチラシ・ポスターを直接配布した。・皆が情報を共有することができ、支援の輪が広がった。・ボランティアに対してのモチベーションを維持することができた。
39	宮城県曹洞宗 青年会	1	特に支障や問題はなかったと思う
40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	1	フェイスブック内でグループを作り情報共有に重宝しました。
41	茨城智山青年会	1	未記入
46	高野山真言宗 東京青年教師会	1	・収集については、現地の方との直接連絡による情報や要望の聞き取りが、一番正確で有効でした。 ・発信については、都度写真付きの報告書を作成し、上部組織・会員に配布しました。報告書を会員寺院で檀信徒に閲覧してもらったことが、支援の継続に有効でした。
50	臨済宗妙心寺派 信越教区青年部	1	未記入
51	栃木県日蓮宗 青年会	1	全国日蓮宗青年会(災害対策本部)との連絡はアメーバの掲示板が大変重宝した。
52	高野山真言宗 山梨宗務支所	1	・現地の方と直接メールや電話で連絡を取り合うことでその時に必要な支援ができた。
53	高野山真言宗 青年教師会 相模真友会	2	支援物資を避難所に届ける場合、物資の種類が他の団体や自衛隊などのものと重複するところが何カ所かあった。重複した物資は受け取ってもらえず、持ち帰ることとなった。数時間の差でもそのような場面がみられた。現在では、そのようなことも少ないと思われませんが、震災後2~3ヶ月はそのような場面があった。
54	東九州臨青会	1	特に情報発信というような意識はなかったが、たまたま当方と禅興寺さんのメールでのやりとりを禅興寺さんがご自身のブログでアップしたところ、いろいろなところからの反応があって、びっくりした。また、結果的にそれが他の方々に多少なりとも影響を与えたとすれば望外のことであった。
55	高野山真言宗 愛媛青年教師会	1	社会に対する情報発信はしていない。同宗派の中では「高野山時報」などを通じて発信させていただいた。

56	神奈川県第一部 日蓮宗青年会	1	ブログを立ち上げ、会員、教師に伝えられた
57	特定非営利活動 法人 災害危機 管理システム Earth	1	支援したいと思っている方の思いを直接現地につなげることができ詳細に報告することにより支援者も自分も支援しているという実感を持ってもらった
58	臨済宗 青年僧の会	1	未記入
59	日蓮宗 岡山立正青年会	1	宗門機関紙に掲載された。 宗門管区紙に報告された。
61	臨済宗妙心寺派 東北教区第二部 宗務支所	2	被災地において必要なものが刻々と変化しタイムリーに届けられなかった。もう必要のない物が続々と到着し、被災地に持っていくことができず、自宅の小屋などに現在も山積みになっている。
62	臨済宗 薪流会	1	1. 関係教団直接連絡 活動の報告に終始しただけでした 2. 独自のネットワークにて活動資金の募金を行いました 托鉢を通して従来各方面支援金を募金していましたのでその延長戦上となり 各方面から支援をうけました
63	社会事業委員会 (通称:ひとさじの 会)	1	被災地に本部を置く支援団体や寺院関係者との連絡は、変化し続ける被災地の状況を把握するためには欠かせないものでした。特に物資の搬送や炊き出しのニーズなど、現地の方の思いを聞かずに行うことは、多くの時間的、物質的ロスを生むことになるため、現地入りする前には丁寧に情報を集めてから活動を行うようにしてきました。また、自分たちが被災された方々との交流の中で得た情報を、協働する諸団体とすみやかに共有することで、必要な人へ必要な支援がゆくようにすることができました。
64	東京南部日蓮宗 青年会	1	全国日蓮宗青年会のツイッターが活躍しました。

表 2-5 情報収集、発信は有効に機能したか

	回答数	%
1.うまく機能した	50	76.92%
2.あまり機能しなかった	6	9.23%
未記入	9	13.85%
合計	65	100.00%

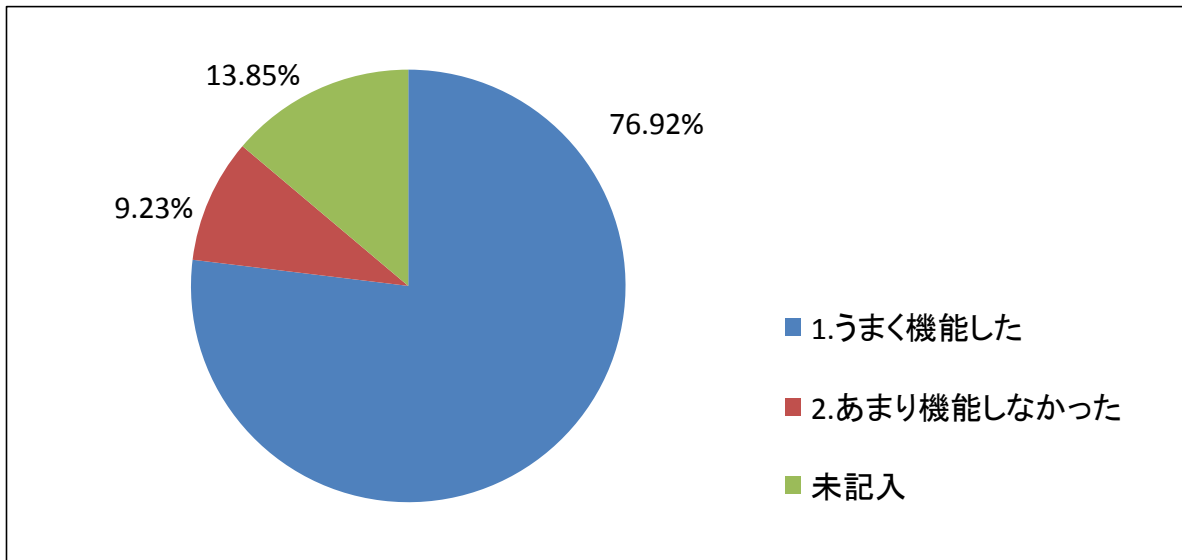


図 2-5 情報収集、発信は有効に機能したか

問 2-5 は、情報収集、情報発信が有効に機能したかについて問う質問であり、「うまく機能した」との回答が 50 件 (76.92%)、「あまり機能しなかった」が 6 件 (9.23%)、未記入 9 件 (13.85%) であった。

問2-6 貴団体の主な支援地域、主な活動内容と対象者をお教えてください。

表2-6 団体の主な支援地域、主な活動内容と対象者

No	団体名	支援地域 岩手県	支援地域 宮城県	支援地域 福島県	支援地域 その他
1	高野山足湯隊	岩手県 釜石市	宮城県 南三陸町		長野県栄村
2	宝泉寺 ボランティアの会		宮城県 南三陸町		長野県栄村
3	真言宗智山派 東京西部教区 智山青年会	岩手県陸前高田市	宮城県石巻市	福島県いわき市 福島県中の作港 周辺地域	
4	埼玉第二教区 智山青年会			福島県いわき市	
5	真言宗智山派埼玉 第四教区智山青年会	岩手県陸前高田市	宮城県石巻市	福島県いわき市	
6	名古屋の坊主		宮城県山元町 宮城県七ヶ浜町		
7	真宗大谷派高岡教 区内有志 災害復 興支援ネットワーク	岩手県大船渡市 岩手県陸前高田市	宮城県七ヶ浜町		
8	真宗大谷派名古屋 教区内有志災害ボ ランティアネットワ ーク(でらボラNAGOYA)	岩手県大槌町 岩手県大船渡市	宮城県七ヶ浜	福島県二本松 福島県新地町	
9	真宗大谷派奥 羽教区ボランティア 有志の会	岩手県宮古市 岩手県山田町 岩手県大槌町			
10	高野山真言宗 播磨 友師会		宮城県山元町全 域		
11	だるまの会	岩手県陸前高田市	宮城県石巻市 宮城県東松島市 宮城県気仙沼市 宮城県七ヶ浜町		
12	東京曹洞宗青年会		宮城県石巻市 宮城県気仙沼市 宮城県南三陸町		東京都内
13	大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—	岩手県大船渡市	宮城県石巻市 宮城県山元町 宮城県七ヶ浜		
15	浄土宗 神奈川教区青年会		宮城県仙台市若 林区 宮城県石巻市		
16	宮城智山青年会		宮城県下被災寺院 宮城県下避難所		
17	福島中央 智山青年会			・福島県いわき市 ・福島県会津若松 市	

18	松泉寺有志会		宮城県仙台市若林区		
20	浜〇かふえ(浄土宗福島教区浜通り組青年会)			福島県いわき市	
21	宗教法人 妙興寺	岩手県陸前高田市	・宮城県気仙沼市		
22	高野山真言宗埼玉青年教師会有志一同		・宮城県東松島市宮戸地区		
23	名取市仏教会		・宮城県名取市		
24	雲龍寺ボランティア会		・宮城県山元町		
25	被災者支援チームTEN		宮城県石巻市 宮城県気仙沼市 宮城県南三陸町		
26	真言宗智山派埼玉第八教区智山青年会	岩手県陸前高田市	宮城県石巻市	・福島県いわき市	
27	曹洞宗 一步の会		宮城県石巻市 宮城県気仙沼市		
28	日蓮宗東京都西部青年会		宮城県気仙沼市		
29	日蓮宗青森県立正青年会	岩手県釜石市 岩手県大槌町 岩手県大船渡市 岩手県山田町	宮城県石巻市		
30	宗教法人 芳朝寺		宮城県石巻市 宮城県東松島市		
31	神奈川智山青年会	岩手教区	宮城教区		
32	埼玉第9教区智山青年会		宮城県石巻市	福島県いわき市	
33	栃木県天台仏教青年会		宮城県東松山市		
34	全国曹洞宗青年会(全曹青)	岩手県山田町 岩手県釜石市 大槌町 陸前高田市 一関市 宮古市 野田村	山元町・亘理町・石巻市・気仙沼市	福島市・伊達市・伊達郡国見町・二本松市・郡山市・須賀川市・新地町・相馬市・南相馬市・いわき市	
35	いわてゆいっこ	岩手県陸前高田市 大船渡市			
36	高野山真言宗長野宗務支所	岩手県釜石市	宮城県石巻市		
37	レインボーキャンプふくおか実行委員会	岩手県釜石市 大槌町			

38	埼玉天台 仏教青年会		宮城県本吉郡南三陸 町歌津石浜地区		
39	宮城県 曹洞宗青年会		宮城県内の被災 地域全般		
40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT		・宮城県南三陸町 ・宮城県石巻市 ・宮城県東松島市、 ・宮城県女川町 ・宮城県亶理郡山 元町、・宮城県牡鹿 郡牡鹿半島	・福島県 福島市	・山形県山 形市、・山 形県米沢 市
41	茨城智山青年会		宮城県岩沼市	福島県いわき市	
46	高野山真言宗 東京青年教師会	・岩手県釜石市		・福島県いわき市	
50	臨済宗妙心寺派 信越教区青年部		宮城県石巻市 宮城県 牡鹿半島		
51	栃木県 日蓮宗青年会	・岩手県の沿岸部	宮城県の沿岸部		栃木県高 根沢町
52	高野山真言宗 山梨宗務支所	・ 岩手県釜石市 ・ 岩手県大槌町	・ 宮城県大崎市		
53	高野山真言宗 青年教師会 相模真友会	岩手県大槌町 岩手県遠野市	宮城県 石巻市		
54	東九州臨青会		宮城県気仙沼市 宮城県石巻市 宮城県利府市		
55	高野山真言宗愛媛 青年教師会		・宮城県亶理郡山 元町	・福島県いわき市	
56	神奈川県第一部日 蓮宗青年会	岩手県大槌町	宮城県石巻市		
57	特定非営利活動法 人 災害危機管理 システム Earth		岩手県大船渡市 宮城県気仙沼市 宮城県石巻市 宮城県南三陸町		茨城県筑 西市
58	臨済宗青年僧の会	岩手県、 岩手県大船渡市、岩手 県陸前高田市、岩手県 釜石市	宮城県、宮城県 宮城郡	福島県の被災寺 院。	
59	日蓮宗 岡山 立正青年会		宮城県仙台市宮 城野区岡田地内		
61	臨済宗妙心寺派 東北教区第二部宗 務支所	岩手県陸前高田市 岩手県大槌町			
62	臨済宗 薪流会	岩手県陸前高田市 岩手県大船渡市	宮城県多賀城市 宮城県東松島市 宮城県気仙沼市		

63	社会事業委員会 (通称:ひとさじの会)	岩手県陸前高田市 大船渡市 住田町 岩手県大槌町	宮城県石巻市 宮城県気仙沼市	福島県いわき市 福島県福島市	
64	東京南部 日蓮宗青年会	岩手県釜石市	宮城県石巻市 宮城県女川町		

問2-6 貴団体の主な支援地域、主な活動内容と対象者をお教えてください。

表2-6 団体の主な支援地域、主な活動内容と対象者

No	団体名	支援内容	対象者
1	高野山足湯隊	主な活動は、足湯傾聴ボランティアと炊き出し、清掃奉仕、追悼法会、法話、ミニコンサートなど。	おもに避難所や仮設住宅での生活を余儀なくされている人々を対象にしています。
2	宝泉寺 ボランティアの会	高野山足湯隊のコーディネートと現地派遣、足湯の普及活動。	現地では、避難所や仮設住宅での生活を余儀なくされておられる方々を対象として活動を続け、一方では、足湯の普及につとめ、各地で講習会を開催し、被災地でともに活動して下さるボランティア(足湯隊の仲間)を募りました。
3	真言宗智山派 東京西部教区 智山青年会	・境内漂流物撤去作業 ・側溝泥かき ・床下泥かき ・寺院法具清掃 ・下水溝清掃 ・慰霊法要	寺院周辺地域
4	埼玉第二教区 智山青年会	瓦礫撤去 側溝の土清掃	地域住民
5	真言宗智山派埼玉 第四教区智山青年会	瓦礫撤去・側溝清掃	被災寺院 被災地
6	名古屋の坊主	活動は主に七ヶ浜町内の仮設住宅集会所や中央公民館にて念珠作りやロウソク・線香を配る(祈りの手伝い)。 名古屋の銘菓を持って行き、現地の方と交流(心のケア)。仲間のマッサージ師によるマッサージ。現地の商店にて昼食をとる(商店復興支援)。	仮設住宅にて生活している方々と現地の商店の人々
7	真宗大谷派高岡教 区内有志 災害復興支援ネットワーク	・仏具の搜索 ・仮設住宅での炊き出し・バザー・お念珠作り	仮設住宅での生活者
8	真宗大谷派名古屋 教区内有志災害ボランティアネットワーク(でらボラ NAGOYA)	炊き出し、居酒屋、ライブ、お茶会を中心に、現地の夏まつりに金魚すくいや食べ物の出店を行ったり、また、宗派内の児童教化連盟の協力のもと人形劇などの催事を行っています。また、月に数回、仮設住宅と福島県二本松市内大谷派寺院へ野菜などの郵送、岩手県大槌町の町おこしグッズ	仮設住宅に入居されている方。 放射能被爆から子どもたちを守ろうとしているお母さんたち。

		を買い取り、名古屋市内で販売しています。その他、各種イベントの際に被災地に関連したブースを持つなど	
9	真宗大谷派 奥羽教区 ボランティア 有志の会	ガレキの撤去から始まり、避難所、仮設での無料バザー、炊出し、喫茶を行った。現在は、仮設での炊出しが中心になっている。	被災者全般
10	高野山真言宗 播磨 友師会	一般家庭泥出し いちご農家作業支援 販売支援 東田 中山仮設地区 炊き出し 足湯 傾聴 カフェ ライブ 新設「こうやくん広場 ハウス	仮設住民 被災現地生活者(半壊住居で暮らす被災者) いちご農家
11	だるまの会	おもな活動は、被災された妙心寺派寺院や檀信徒宅の復興作業のお手伝いです。6月から7月にかけて、会員が妙心寺派宮城福島教区災害対策本部の指示のもと、各地で活動させていただきました。	被災寺院、檀信徒宅、仮設住宅の方など、被災地域の人々です。
12	東京曹洞宗青年会	避難所・被災地域での炊き出し 震災慰霊者一周忌法要への参加 避難所・仮設住宅・被災地域寺院でのイベント(ハンドマッサージを活用した傾聴・花火・落語・沖縄民謡・メイクアップ等)	避難所生活をされている被災者 犠牲者遺族の方々 仮設住宅住民 被災地域住民
13	大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—	・家屋の泥だし ・側溝の泥だし ・衣料・日用品バザー ・仮設での炊き出し ・支援物資の整理作業 ・腕輪念珠づくり ・茶席(抹茶)の提供 など	未記入
15	浄土宗神奈川教区 青年会	お寺の境内地や墓地の瓦礫撤去作業	浄土宗寺院
16	宮城智山青年会	慰霊法要、有志による救援物資の搬入	被災され、仏壇、墓所、菩提寺が流出した被災者 避難所に非難されていた被災者
17	福島中央 智山青年会	仮設住宅への無償仏壇のチラシ配布 希望者への仏壇届け	いわき、会津で仮設住宅の被災者
18	松泉寺有志会	瓦礫・床下の泥などの撤去、避難所での炊き出し、農地の復興支援、傾聴	避難所で生活を送っている被災者、自宅にいる被災者
20	浜〇かふえ(浄土宗 福島教区浜通り組 青年会)	・一時避難所での炊き出し ・仮設住宅 ・みなし仮設の集会施設での訪問カフェ・傾聴ボランティア	震災・原発事故で避難生活を余儀なくされている方々、および被災地域の人々
21	宗教法人 妙興寺	・復興地域清掃活動(住宅がれきの撤去、住宅の清掃など) ・復興寺院清掃作業(墓地の草刈、清掃)	・気仙沼ボランティアセンターで紹介を受けた住宅 2軒 ・妙心寺派 慈恩寺

22	高野山真言宗 埼玉青年教師会 有志一同	宮戸地区夏祭り手伝い。毎回訪れ顔 つなぎ心つなぎの活動をしている。野 蒜海岸での柴灯護摩法要、野蒜駅周 辺での慰霊祭。	その地区にいる人々
23	名取市仏教会	・火葬場にイス寄付 ・義援金を名 取市に50万円送る ・名取市犠牲 者百か日供養	名取市民
24	雲龍寺 ボランティア会	被災寺院復興支援 瓦礫の撤去、清 掃	
25	被災者支援チーム TEN	物資支援 船、船外機支援のコーデ ィネート 内職ブランドの立ち上げ運 営 学校への支援 保育所のコーデ ィネート 支援者へのサポート	仮設、みなし仮設で生活する被災者
26	真言宗智山派 埼玉第八教区 智山青年会	・震災発生当初、支援物資提供の依頼 を受け、物資送付 チェーンソー、医薬品、他 ・現地での瓦礫撤去、土砂除去 ・被災寺院の境内及び墓地清掃 ・慰霊法要 ・解体家屋内の片付け ・現地作業用の軽トラック提供	・被災地寺院 ・被災地域住民 ・仮設住宅居住者
27	曹洞宗 一步の会	炊き出し、お茶会、その他必要とされ る労働作業	避難生活を送っている被災者
28	日蓮宗東京都 西部青年会	津波後の後片付け 慰霊法要厳修	一般被災者
29	日蓮宗青森県 立正青年会	東北道(高速道路)が開通して間もな く岩手県沿岸部の避難所として活動し ている日蓮宗寺院に支援物資を輸送。 そのあとは釜石市内の住居や店舗の がれき撤去のお手伝い その後、全国日蓮宗青年会からの宮 城県石巻市での回向供養・がれき撤 去の要請に応える形で、当会より3人 が活動に従事しました。しかし日時が 現段階では確認できないため、後述の 欄には記載いたしません。 その後は、回向供養や傾聴・行脚など の活動を主にしています。	避難所にいる被災者 身元不明の御遺骨など
30	宗教法人 芳朝寺	石巻市法山寺幼稚園の場所を借りて 蕎麦の炊きだし。東松島市避難所にお いて蕎麦の炊きだし	炊きだし場所の近隣に居る方の全て の被災者を対象
31	神奈川智山青年会	・義援金送付 ・復興ボランティア	岩手教区 圓滿寺 宮城教区 普誓寺
32	埼玉第9教区 智山青年会	福島県いわき市小名浜地区側溝の土 砂撤去 東日本大震災殉難者慰霊 法要・復興祈願法要	被災地域の人々

33	栃木県天台 仏教青年会	スティールパンコンサート みんなのとしょかん設置 キルト教室 支援物資運搬	やもと仮設住宅で避難生活を送っている被災者の方々
34	全国曹洞宗青年会 (全曹青)	①緊急支援(物資支援、炊き出し支援、災害ボランティアセンター運営支援) ②避難所・生活支援(物資支援、避難所サロン活動、炊き出し) ③被災地域の臨終読経供養:寺院・墓地復旧活動(住民要望から…供養ができるような環境支援) ④『観世ふおん』という電話相談窓口を開設し、被災者・一般の孤立防止に取り組む ⑤行茶(傾聴サロン)活動:被災者にお茶やお菓子を提供し、こころのマスクケア・生活の具体的なニーズの聴き取りやコミュニティ支援を目的に活動 ⑥原発事故による避難者へのサマーキャンプ開催(8月中2回開催 於:西会津・尾瀬) ⑦「虹の架け橋文通プロジェクト」では、手紙等を通じて被災者のこころに寄り添う活動を提供 ⑧「仮設住宅ワークショップ」では、仮設住宅入居者と共同でアクリルたわしなどの制作頒布を行い、被災者のコミュニティづくりと生活自立・共助の環境づくりを支援 ⑨除染ボランティア	避難所での避難生活をされている被災者 応急仮設住宅入居者、み未記入仮設入居者及び在宅被災者を含む被災地域住民 原発災害に関連する広域避難者
35	いわてゆいっこ	・ 寺院における炊き出しの食糧供給 ・ 寺院に避難する住民への物資配布 ・ 寺院に避難していた住民を対象にしたイベント開催 ・ 寺院に避難していた住民を対象にした傾聴活動 ・ 郷土芸能支援 ・ 全国からのボランティア受け入れ ・ 被災地ガイド ・ 地域密着型のスポーツ拠点づくり ・ 成田山金剛寺にて花見イベント開催 ・ ハートニットプロジェクト ・ 安否確認の橋渡し	・ 震災で家屋失いお寺に避難をしていた被災者 ・ 家は残されたが通常の日常生活が困難になってしまった被災者(自宅難民) ・ 仮設住宅に住む被災者 ・ 岩手県北上市に拠点を移した被災者?
36	高野山真言宗 長野宗務支所	・復興地域清掃作業(がれき撤去) ・復興住宅清掃作業(清掃) ・救援物資(台湾からのお米)の積み込み・炊き出し ・仮設住宅への救援物資などの搬入 ・水田水路復旧作業(栄村)	・被災者(自宅、体育館で避難生活を送っている被災者など)
37	レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	◇ 被災地児童を福岡に受入れ、おもいきり遊ぶこと	◇ 被災地小学生対象

38	埼玉 天台仏教青年会	・側溝の開通作業・瓦礫の撤去作業 ・ゴミの分別回収作業 ・支援金・支援物資・漁の手伝い ・お祭りの開催	上記石浜地区及び周辺地区にお住まいの方々。
39	宮城県 曹洞宗青年会	主な活動・支援物資搬入 ・被災寺院の境内並びに墓地片づけ作業 ・炊き出し・月命日供養並びに行茶活動 ・傾聴行茶活動(全曹青の活動に加担)が挙げられます。 その他、全曹青・他県曹青、教区青年会の活動加担全般	対象者は、 ・被災各寺院と檀信徒並びに地域住民 ・避難所・仮設住宅に避難している人々です。
40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	・避難所での炊き出し ・被災地での瓦礫撤去 ・被災地への物資搬送 ・仮設住宅でのコミュニティ作り支援のためのカフェ ・県内避難者への生活サポート ・被災地での傾聴	・被災者 ・自主避難者
41	茨城智山青年会	一般住宅の清掃 側溝の泥除去 支援物資の提供 慰霊活動	一般被災者
46	高野山真言宗 東京青年教師会	・岩手県釜石市 ボランティアセンターを通じての、個人住宅や所有地の瓦礫除去・泥出し。 ・福島県いわき市 檀信徒より募った支援物資の配布。 仮設住宅訪問。	・岩手県釜石市 ボランティアセンターに依頼した被災者。 ・福島県いわき市 原発事故による櫛葉町からの避難者
50	臨済宗妙心寺派 信越教区青年部	漁港の清掃 被災民家の汚泥掃除 被災民家の家具など移動	宮城県荻浜漁港の周辺住民
51	栃木県 日蓮宗青年会	倒壊本堂から仏具等の搬出 被災寺院の清掃奉仕ならびに同地区の清掃奉仕など。宮城・岩手の沿岸部での慰霊供養・傾聴活動など。	対象者:被災寺院、被災寺院近隣居住者、仮設住宅居住者
52	高野山真言宗 山梨宗務支所	・支援物資の調達と搬送ならびに送付。 ・現地でのボランティア活動。 * 壊れた仏壇などの供養。 * 被災家屋などの片付け。	・現地の寺院や役場あてに支援物資を届ける。 ・現地のボランティアセンターに申し込んで。
53	高野山真言宗 青年教師会 相模真友会	・同じ宗派の神奈川青年教師会様より連絡をいただき、台湾より送られてくる「義捐飯」の貨物船コンテナから保管庫への移送。 ・炊き出し ・泥だし ・避難所への支援物資を届ける。	・避難所で生活を送っている被災者
54	東九州臨青会	お寺の瓦礫処理 49日法要荷担 荷物運び他	関係寺院
55	高野山真言宗 愛媛青年教師会	・津波にあった家のガレキ撤去、片付け作業 ・要望のあった支援物資の送付、配布	・お寺で避難生活を送っている被災者 ・仮設住宅で生活している被災者

		・物故者供養の法要	
56	神奈川県第一部 日蓮宗青年会	・炊き出し ・捜し物 ・泥かき ・ 学校整備 ・供養	・被災者 ・お寺 ・お寺の家族
57	特定非営利活動法人 災害危機管理 システム Earth	・台湾 N.G.O「中華民国捜救総隊」現地 輸送許可証申請・受け入れ先捜索分 担調整の上、不明者の安否捜索にあ たる。遺体発見し、読経回向の上警察 に引き渡す・大船渡市 発電機設置・ 気仙沼市にて避難住民に温かいうどん ・果物の提供・石巻市祝田にて昼食 の提供(温かいうどん・パン・バナナ 等)地盤沈下地域・気仙沼市、避難住 民に毛布 100 枚、マスク、菓子等を配 布・宮城県私立中学・高等学校協議会 にて「台湾留学・育英資金」について提 案・マレーシアからの支援物資「ミネラ ルウォーター」16t受入れ・仮設配布・ 気仙沼市「夏がけ布団」等の支援物資 無料フリーマーケット開催・南三陸町避 難所「夏がけ・タオルケット・女性下着」 配布・仮設住宅支援米配布・気仙沼 市、幼稚園・小学校へ花火、おもちゃ 配布	避難所で避難している被災者 仮設住宅で生活している被災者 孤立地帯 在宅避難
58	臨済宗青年僧の会	瓦礫の片づけ、お寺資料の保存など。	主に宗門の寺院ならびに被災檀信 徒。
59	日蓮宗 岡山立正青年会	津波により覆われた土砂・ガラス片・金 属片・木片・小石の撤去	ボランティアセンターにガレキ撤去を依 頼した被災
61	臨済宗妙心寺派 東北教区第二部 宗務支所	食糧、生活用品、生理用品、下着類、 灯油などの支援	避難所になっていた知り合いのお寺へ 物資を届けに行きました。避難生活を 送っている被災者
62	臨済宗 薪流会	発生直後 被災者避難 学校・公民 館等々又 仮設住宅	被災者一般
63	社会事業委員会 (通称:ひとさじの 会)	主な活動は、避難所や仮設住宅にお ける子ども会や炊き出し、お茶っこ支 援です。この他、気仙地域では、「気仙 三十三観音霊場再興プロジェクト」を 今年三月より始動させ、現在着々と進 めています。被災した地域の観音霊場 の巡拝が、被災された方の心の癒しや 気づきに用いられることを願うととも に、ゆくゆくは他府県からの大勢の人 に慰霊のための巡拝を行っていただ き、観光産業の大きな軸になるよう に進めていきたいと考えています。	対象は、避難所や仮設住宅での生活 を余儀なくされた方々、および被災地 域の人々です。
64	東京南部日蓮宗 青年会	慰霊法要出仕 お寺での炊き出し がれき撤去 傾聴ボランティア	お寺や仮設住宅で避難生活を送って いる被災者 被災寺院檀信徒

問2-7 平成23年3月11日の東日本大震災の発生から平成24年3月に至る1年間で、被災地救援・復興支援に関して貴団体ではどのような対応と活動を行いましたか。月単位でその状況をお教えてください。(自由記述)

平成23年3月の活動団体数は43団体

団体名	平成23年3月					
	直接支援回数	延べ日数	述べ参加者	間接支援回数	延べ日数	述べ参加者
1 高野山足湯隊	2	2	11			
	20日 長野県栄村で倒壊家屋での救援活動。金沢大学のボランティアチームと協働。 25日 福島県伊達市、宮城県仙台市へガソリンと食料を運ぶ。塩竈を視察する。					
2 宝泉寺 ボランティアの会	2	2	11			
	20日 長野県栄村で倒壊家屋での救援活動。金沢大学のボランティアチームと協働。 24日 福島県伊達市、宮城県仙台市へガソリンと食料を運ぶ。塩竈を視察する。					
6 名古屋の坊主						
	○他団体と七日参りを毎週行う。					
7 真宗大谷派高岡 教区内有志 災害復興 支援ネットワーク	1	3	2			
	2011年3月29日 宮城県仙台市にて情報収集やボランティア受入先の交渉、仙台の若手僧侶と今後の支援の会議、宮城県石巻市の視察と情報収集					
8 真宗大谷派名古屋 教区内有志災害ボラン ティアネットワーク (でらボラ NAGOYA)	1	2	2			
	3月29日真宗大谷派仙台教務所(現真宗大谷派現地復興支援センター)へ支援物資の配送を行った。					
9 真宗大谷派奥羽教 区ボランティア有志の会						
	1	1	6			
	30日震災直後はガソリン不足の問題もあり、また、春彼岸も重なり集まることが出来なかったが、3月30日にボランティア有志の会立ち上げのための準備会を開催した。					

10 高野山真言宗 播磨 友師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	32
	3月14日 ボランティア活動同行者呼びかけ 25日 JR岡山駅前にて震災義援金街頭托鉢(10名)教師会より赤十字へ 29日 JR姫路駅前にて震災義援金街頭托鉢(22名)教師会より赤十字へ					
11 だるまの会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	18
	義援托鉢 第1回 3月16日 愛知県扶桑町 東漸寺周辺 306,622円 10名 第2回 3月19日 岐阜県美濃加茂市 小山寺、華蔵寺周辺 305,000円 4名 第3回 3月29日 愛知県小牧市 東禅寺周辺 117,840円 4名 ※中日新聞社会事業団の東日本大震災義援金に全額寄託					
12 東京曹洞宗青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	44
	24日・25日・31日 場所・内容:浅草駅前に於いての義援金街頭募金活動。青年会OBや有志が参加。(4月4日に行われた震災街頭募金を含む計4回の募金で集まった義援金¥606,217を曹洞宗宗務庁へ届ける) 26日 場所:文京区護国寺 内容:東日本大震災犠牲者慰霊法要へ随喜。					
15 浄土宗神奈川教区 青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	28日 被災地で活動するボランティア団体・NPOへの支援のため、金100万円を中央共同募金会「災害救援ボランティア口」に寄託					
16 宮城智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3月20日以降全国各寺院よりお送りいただいた救援物資の避難所への搬入(有志による。回数不明)概ね5月頃まで(一括記載)					
17 福島中央 智山青年会	直接支援回数	3	延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	

22 高野山真言宗 埼玉青年教師会 有志一同	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	12
	間接支援回数	2	延べ日数	4	述べ参加者	21
	東北道一般車乗り入れ可能に伴い東松島市へ入る。役場より宮戸地区が支援が薄いとの情報があり宮戸地区へ支援に入る。埼玉青年教師会として、熊谷駅にて托鉢。					
24 雲龍寺 ボランティア会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	3	延べ日数		述べ参加者	
	募金活動、送金(現地)					
26 真言宗智山派 埼玉第八教区 智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	26
	3月17日 街頭募金を大宮駅西口にて実施。「東北太平洋沖地震義捐金」2名参加 埼玉ブロック智山青年会と共に活動した。 3月20日 岩手県大船渡市へ救援物資送付。会員より義捐金を徴収し、医薬品や日用品を総額約23万円分購入し、送付。現地在住で避難者へ支援活動を行っている僧侶より、不足物資や緊急性の高い支援物資提供の依頼を受け、当地で購入して、指定された場所へ送付した。					
27 曹洞宗 一步の会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	3
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	12
	22日 八王子駅周辺にて募金活動 24日 八王子駅周辺にて募金活動					
28 日蓮宗東京都 西部青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	25
	3月30日新宿のお寺の門前において募金活動を実施 約20万円を被災地に寄付した					
29 日蓮宗青森県 立正青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	6
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3月27日全国日蓮宗立正青年会からの依頼による立替物資と、県内青年会有志提供の物資を岩手県沿岸の被災地へ輸送。釜石市の遺体安置所においては犠牲者の慰霊を行った					
32 埼玉第9教区 智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	4
	3月17日〈埼玉ブロック智山青年会募金活動〉大宮駅西口コンコースにて東日本大震災義援金街頭募金活動 ※後日、募金 253240円を日本赤十字社へ送金 3月25日 宮城県石巻市に支援物資を送る					

33 栃木県 天台仏教青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3月18日 矢板体育館に避難している被災者の為3千本のペットボトルを運ぶ手伝いを行う。那須へ7千本のペットボトルを運ぶ手伝いを行う。					
34 全国曹洞宗青年会 (全曹青)	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	97
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	地震発生直後よりML等で情報収集開始。 12日 「全国曹洞宗青年会(以後、全曹青という) 災害復興支援部」を立ち上げ、地域ごとの担当者を通じ情報の収集に努める。 14日 各曹青会ごとに義援金托鉢・物資支援などが始まる。 17日 「全曹青災害復興支援現地本部」(福島県伊達市霊山町)を立ち上げ。また、広域な被災地の現状に対応すべく、岩手県(山田町 龍泉寺)・宮城県(角田市 自照院)にも現地の支援拠点となる協力寺院を順次設ける。 炊き出し:茨城県高萩市(4回) 福島県相馬市(※) 行茶:岩手県山田町(4回) 福島県国見町 ※:回数未記載=1回					
35 いわてゆいっこ	直接支援回数	13	延べ日数		述べ参加者	1300
	間接支援回数	7	延べ日数		述べ参加者	700
	16日 北上市の事務所 ツイッター(全国の人々)やNPO 法人フォルダ関係の人に物資の提供を呼びかける。 17日 大船渡市長源寺、三陸町越喜来 知人の安否の確認、現地の情報収集、必要な物資・支援などの聞き込み、支援物資を届ける。 19日 大船渡市、陸前高田市 ワゴン車と2トントラックで物資を届ける。 20日 大船渡市円満寺、陸前高田市松峯団地ほか 自宅避難者等に足りない物資を届ける、安否の確認、情報の提供、情報の収集 21日 大船渡市、陸前高田市 被災地での支援活動と平行し、事務所では足りない物資の募集と届けられた物資の仕分け作業を行う。関東から支援物資が30箱到着。 22日 大船渡市、陸前高田市 物資を届ける、情報収集(聞き取り)、大東町ボランティアセンターで合同会議 23日 大船渡市、陸前高田市松峯団地ほか 不足物資を届ける、松峯団地に方に娘さんから預かった手紙を渡す。 24日 陸前高田市金剛寺、松峯団地ほか 物資の運搬、軽油・ガソリンが底をつき、寄付を募りつつ活動。 25日 陸前高田市 上村愛子さん等からスキーウエアの入った段ボール300箱届く。早速、被災地に届ける。 26日 北上市 東陵中グラウンドでヘリが発着できるように20人でサッカーゴールを移動する。 27日 陸前高田市松峯団地 朝8時から約100名のボランティアでおにぎりと豚汁作り。炊き出し車11台で陸前高田市松峯団地に豚汁とおにぎりを届ける。 28日 陸前高田市 ヘリ3機。全日本スキーヤー竹鼻選手が発電機を持					

	<p>参、他の物資と一緒に被災地に届ける。登山愛好家小松由佳さんがボランティア参加のため北上入り。</p> <p>29日 大船渡市、陸前高田市末崎避難本部ほか ヘリコプターで岐阜から物資が到着。末崎避難本部等に物資を届ける。</p> <p>30日 大船渡市松崎地区、陸前高田市広田の避難所 大船渡市の松崎地区に重点的に物資を届ける。陸前高田市広田には、花巻支部からの依頼物資を届ける。翌日の物資運搬のため、住田町役場に泊まる。</p> <p>31日 大船渡市 大船渡市松下政経塾で物資を受け取る。20トントラック3台分の物資を運搬する。</p>					
36 高野山真言宗 長野宗務支所	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	23
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>17日東日本大震災 緊急托鉢(青年会有志 15名) 一括、高野山真言宗青年教師会へ送金</p> <p>22日 長野宗務支所代議員による対策検討。(3月17日の同宗東日本支所会役員会を受けての会議)</p>					
37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数	7	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>3月25日 福岡から陸路出発</p> <p>3月26日 盛岡にて宿泊</p> <p>3月27日 釜石市 不動教会到着</p> <p>3月28日 不動教会 新生釜石キリスト教会にて活動 JOCS(日本キリスト教海外医療協力隊)と共に避難所巡回 大槌町 まごころ広場にて活動</p> <p>以後、同所を基点に活動を続ける</p>					
38 埼玉 天台仏教青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	16
	<p>17日 川越駅周辺にて義捐金の托鉢を行う。</p> <p>29日 川越駅周辺にて2回目の義捐金の托鉢を行う。</p>					
39 宮城県曹洞宗 青年会(略称:宮曹青)	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>19日ロウソクなどの物資を石巻市 法山寺に搬入。石巻の被害状況を視察</p> <p>25日全曹青の支援物資(トラック1台分)を気仙沼市に搬入。</p> <p>他県曹青からの物資を名取市慶雲院にて仕分けし、気仙沼市に搬入。</p> <p>28日他県曹青からの物資を名取市慶雲院にて仕分けし、南三陸町志津川、女川町、石巻市に搬入。</p>					

40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	3
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	1 3/25 2 石巻市立女子高等学校 炊き出し 2 3/28 1 石巻市立渡波小学校 労働					
41 茨城智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	各寺避難所としての提供 近隣住民に水、食料の提供等各自の活動に専念					
46 高野山真言宗 東京青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	6	延べ日数	6	述べ参加者	20
	13日 センター南駅前にて托鉢 21日 町田駅前にて托鉢 23日 町田駅前にて托鉢 24日 恵比寿駅前にて托鉢 日本赤十字社に義捐金を寄託 28日 恵比寿駅前にて托鉢 30日 高野山真言宗青年教師会に義援金を寄託					
51 栃木県 日蓮宗青年会	直接支援回数	15	延べ日数	15	述べ参加者	60
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	8
	3月12日～瓦礫除去 仏具搬出等 必要物資の提供 募金活動					
55 高野山真言宗 愛媛青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	16	延べ日数	16	述べ参加者	80
	災害義捐金活動（詳細は活動報告書参照）					
56 神奈川県第一部 日蓮宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	3
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	・炊き出し ・捜し物 ・泥かき ・学校整備 ・供養					
57 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	直接支援回数	5	延べ日数	15	述べ参加者	500
	間接支援回数	15	延べ日数	20	述べ参加者	50
	<3月> 11日地震発生。直ちにアース社員及び関係者に情報収集を指示 日蓮宗宗務院は定期宗会開会中。職員は公共交通機関の運転取りやめにより「帰宅困難」 となる。日蓮宗大規模災害対策本部職員は宗務院に滞留し、情報収集にあたる (アースとの情報共有作業)					

	<p>11 日深夜より東北各県震度 6 以上の管区寺院への安否・被害状況の把握を開始 12 日に至る</p> <p>13 日アース社員により被災地寺院安否・被害状況の把握にあたる「東北地方地震津波支援募金」活動開始</p> <p>13 日午後、東京池袋長瀬澄子氏より「台湾 N.G.O レスキュー隊」来日の連絡あり即日、日台交流協会渉外担当顧問小笠原弘晃氏との受け入れ情報連絡開始</p> <p>14 日終日、台湾 N.G.O「中華民国捜救総隊」現地輸送許可証申請・受け入れ先選定に奔走</p> <p>15 日朝、甲府警察署において「緊急車両通行許可証」を即日交付、東京仏光山寺に向かう直ちにレスキュー隊員 35 名通訳 1 名を伴い、大型バス 2 台に分乗し岩手県大船渡市を目指す</p> <p>16 日未明、現地着直ちに現場消防指揮所において捜索分担調整の上、不明者の安否捜索にあたる。遺体発見し、読経回向の上警察に引き渡す</p> <p>レスキュー隊は 18 日まで大船渡市内において捜索活動を展開。20 日帰国現地は、ライフラインが止まり、通信も完全に途絶状態にあり、本増寺避難者も僅かな</p> <p>石油ストーブとローソクの灯りによって寒さを凌いでいたため</p> <p>19 日アース事務局、大型発電機購入・大船渡に設置</p> <p>現地は、ライフラインが止まり、通信も完全に途絶状態にあり、本増寺避難者も僅かな石油ストーブとローソクの灯りによって寒さを凌いでいたため</p> <p>台湾救援物資第一陣 300t が日本に到着。受け入れ送り先の調整に忙殺される</p> <p>21 日千葉支部の車両により再度大船渡に向かう。本蔵寺に発電機設置</p> <p>22 日岩手県遠野市「智恩寺」台湾救援物資 10t 到着。岩手県宗務所(奥州市)見舞い情報交換</p> <p>23 日陸前高田市、気仙沼市「私立東陵高校」、気仙沼市鹿折地区津波火災現場調査・情報収集</p> <p>30 日東京仏光山寺住職・法師を伴い、気仙沼市「東陵高校」にて避難住民に温かいうどん・果物の提供</p> <p>31 日石巻市祝田にて昼食の提供(温かいうどん・パン・バナナ等)地盤沈下地域</p>					
<p>61 臨済宗妙心寺派 東北教区 第二部宗務支所</p>	<p>直接支援回数</p>	<p>3</p>	<p>延べ日数</p>	<p>3</p>	<p>述べ参加者</p>	<p>10</p>
	<p>間接支援回数</p>		<p>延べ日数</p>		<p>述べ参加者</p>	
<p>陸前高田、大槌の避難所へ物資輸送</p>						
<p>62 臨済宗 薪流会</p>	<p>直接支援回数</p>		<p>延べ日数</p>		<p>述べ参加者</p>	
	<p>間接支援回数</p>		<p>延べ日数</p>		<p>述べ参加者</p>	
<p>会報 20 21 号 参照</p> <p>特筆 被災者自ら発生から 49 日が過ぎた 5 月初旬 デイキャンプ をしていただいた(資材・食材の提供)計画説明当初は理解されなかったが説明が進むうちに現地の社協も乗り出してきました被災者には好評でした</p> <p>追加</p> <p>24 年 7 月大船渡 山崎仮設 夏祭り協力 24 年 10 月 25~27 日 福島・宮城・岩手各 2 名計 6 名を岐阜及び京都慰労の旅招待併せて下記研修会 傾聴ボランティアを兼ね体験談・被災者から見た支援活動の問題点を検証</p>						

63 社会慈業委員会 (通称:ひとさじの会)	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	70
<p>12日 情報収集開始。NPO セカンドハーベスト・ジャパンやNPO もやいメンバーと連絡を取り、寺院・及び僧侶に可能な支援について助言をもらう。</p> <p>13日 ひとさじの会主要メンバーが中心となって運営する為先会(念佛会)で、別時念佛会を行って被災者の無事と横死者の往生浄土を祈る。</p> <p>全国浄土宗青年会役員とコンタクトを取り、各寺院で集めた支援物資を闇雲に被災地に送るのではなく、配送のプロである NPO セカンドハーベスト・ジャパンに集約してもらうようお願いでる。→メールで全国の浄土宗青年僧侶にむけて支援物資の NPO への集約を呼びかける。</p> <p>16日 東日本大震災の被災者支援を行う NPO/NGO、企業、労組、生協等、諸団体と政府との効果的連携を促進するために何が必要なのかを検討する目的で立ち上げられた「震災ボランティア・NPO と政府の連携を考える会」に参加。現状の問題点や今後必要な支援について情報を共有。</p> <p>加えて、自殺対策を行う僧侶の会の方やライフリンクなど、心の問題に向き合い団体と会議終了後に、被災者の心のケアを考える会議が設ける。そのなかで、「被災者「こころのケア」宗教者有志の会」を立ち上げ、被災者遺族のこころのつらさに向き合う場を用意する方策等を議論。現地に入れない状況の中で、被災地の方々がより多く助かることを祈り、すでに亡くなられた方の死を悼む法要を、震災からちょうど初七日にあたる17日の14時46分に各宗派、各教団で行おうとの呼びかけを行う。浄土宗では、宗務庁社会国際局の協力のもと、増上寺慈雲閣で行うことを決定。知恩院にも同様の内容を打診。翌日に知恩院独自で法要を行うとの返答を受ける。</p> <p>17日 初七日に合わせて「被災者とともに～生を祈り、死を悼む～」(場所:増上寺慈雲閣)をひとさじの会メンバー、浄土宗宗務庁・浄土宗総合研究所関係者、NPO もやい等関係団体所属の人々と共に念佛回向を行う。</p> <p>24日 二七日に合わせて「被災者とともに～生を祈り、死を悼む～」(場所:増上寺慈雲閣)を行う。</p> <p>31日 三七日に合わせて「被災者とともに～生を祈り、死を悼む～」(場所:増上寺慈雲閣)を行う。</p>						

平成 23 年 4 月の活動団体は 48 団体

団体名	平成 23 年 4 月					
1 高野山足湯隊	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	20
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	30
	4日～7日 第1陣高野山足湯隊を南三陸町へ現地派遣する。 宮城県大崎市の弘法寺(高野山真言宗現地対策本部)で宿泊し、南三陸町へレンタカーで通う。4日 宮城県大崎市の弘法寺 5日 川で水を汲み、旭が丘コミュニティセンター避難所で足湯傾聴ボランティアを開始。 6日 旭が丘コミュニティセンター避難所で足湯傾聴。 7日 弘法寺にて本堂、檀信徒会館で清掃奉仕の下座行。足湯隊参加者によるシェアリング(ふりかえり)をする。 18日 高野山東京別院(高野山真言宗災害対策本部＝東京都港区高輪)にて足湯講習会をおこなう。					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	20
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	30
	4日～7日 第1陣高野山足湯隊を南三陸町へ現地派遣。 18日 高野山東京別院(高野山真言宗現地対策本部)にて足湯講習会をおこなう。					
3 真言宗智山派東京 西部教区智山青年会	直接支援回数	2	延べ日数	3	述べ参加者	3
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	7日 福島県いわき市 寺院境内漂流物撤去作業 26-27日 福島県中の作港周辺地域 側溝どろかき床下泥かき					
4 埼玉第二教区 智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	5
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	4月26日～27日福島県いわき市 豊間地区、中之作地区 瓦礫撤去作業 側溝の土砂除去、家屋の床清掃					
5 真言宗智山派埼玉 第四教区智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	4月4日・5日 福島県いわき市 瓦礫撤去 1名					

6 名古屋の坊主	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	○他団体と七日参り、立日、忌明け法要、50ヶ日目の法要を行う。					
7 真宗大谷派 高岡教区内有志 災害復興支援 ネットワーク	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	6
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	40
	直接支援 岩手県陸前高田市の被災寺院にて、流された仏具の搜索 間接支援 原発事故での放射能の学習会					
8 真宗大谷派名古屋 教区内有志災害ボラン ティアネットワーク(でら ボラ NAGOYA)	直接支援回数	1	延べ日数	15	述べ参加者	15
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	10
	4月1～15日 岩手県西和賀町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船戸市、住田町、 陸前高田市で物資の買出し・仕分け・配布、遺体安置所での勤行、倒壊し た寺院の仏具を搜索した。 4月30日 支援活動を広げ、より多くの人々が東北とのつながりを持つために、支援活 動の報告会・学習会を行った。					
9 真宗大谷派 奥羽教区 ボランティア有志の会	直接支援回数	3	延べ日数	5	述べ参加者	17
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	12
	4日～5日 岩手県宮古市 岩手県宮古市にある当宗派の善林寺にてご門徒の内佛移動など 12日～13日 岩手県 青森県八戸市より、国道45号線から被災状況を確認しながら南下し、宮 古市の善林寺に物資を届け、その後山田町を視察し、翌日からは陸前高 田市の被災寺院にて御本尊、仏具などの搜索をおこなう。 22日 岩手県宮古市、大槌町 午前は宮古市にてご門徒の内佛移動、午後からは、大槌町の浪板避難 所にてバーベキューの炊出し 27日 秋田県能代市 奥羽教務所・ボランティア会議					
10 高野山真言宗 播磨 友師会	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	25
	間接支援回数	4	延べ日数	6	述べ参加者	15
	4月 友師会発足 (15名) 活動趣旨 目的 活動地域 確認 宗団本山との連携確認 20～22日 支援物資購入(会員各自) 23日 物資集配 24～28日 (5名) 山元町公民館 役場 テント村 (トラック1台 マイクロバス1台)					

	支援物資搬入（支援物資不足情報サイトで調べた山元町不足物資搬入） 温泉送迎（白石薬師温泉）被災者を薬師の湯に送迎 現状収集（次回活動計画のため）（社協 局長との意見交流） 横死者霊位 行脚供養 坂元地区周辺 帰宅後 ○日 反省会 ミーティング（15名）					
11 だるまの会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	11
	義援托鉢 4月14日 愛知県小牧市 眞福寺周辺 347,740円 11名 ※中日新聞社会事業団の東日本大震災義援金に全額寄託					
12 東京曹洞宗 青年会	直接支援回数	3	延べ日数	10	述べ参加者	33
	間接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	25
	4日場所:東京巣鴨地藏通り商店街・浅草駅前 内容:義援金街頭募金 10日～12日場所:石巻市雄勝町水浜避難所 内容:被災地現地調査 炊き出し(うどん・そば) 当会の被災地におけるの拠点となる石巻市・香積寺様で現地ボランティア活動を始める。 18日～21日場所:雄勝町大須小学校避難所・女川旭が丘集会所 内容:炊き出し(インドカレー) 26日～28日場所:石巻市北上中学校避難所 内容:炊き出し(うどん・そば)・仮埋葬所四十九日法要 29日場所:文京区護国寺 内容:ダライ・ラマ法王 東日本大震災犠牲者 四十九日特別慰霊法要へ随喜					
15 浄土宗 神奈川教区青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	12
	23日 義捐金托鉢 於:鎌倉大仏高徳院境内 浄財総額74,287円					
17 福島中央 智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	瓦礫の撤去					
18 松泉寺有志会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	2
	28日支援物資収集					

20 浜〇かふえ (浄土宗福島教区浜通り組青年会)	直接支援回数	3	延べ日数	6	述べ参加者	26
	間接支援回数	9	延べ日数	9	述べ参加者	85
<p>毎週1日、青年会有志2名程にて瓦礫撤去等の災害ボランティア</p> <p>7日 満蔵寺にて、ひとさじの会、東京教区浄土宗青年会とともに調理を行い、「御厩小学校避難所」にて煮炊きを行う。 「御厩小学校避難所」「高坂小学校避難所」「沼の内公民館避難所」にて配食。 (メニュー:ごはん・豚汁・漬物・ふりかけ・味付け海苔)</p> <p>8日 7日と同様、ひとさじの会、東京教区浄土宗青年会、満蔵寺檀信徒婦人とともに満蔵寺にて調理を行い、「御厩小学校避難所」にて煮炊きを行う。 「御厩小学校避難所」「高坂小学校避難所」「内郷コミュニティセンター避難所」「沼の内公民館避難所」にて配食。 (メニュー:炊き込みご飯・味噌汁・ポテトサラダ)</p> <p>14・15・16日 いわきNPOセンターや避難所へ炊き出しのニーズ調査を行う。</p> <p>19日 満蔵寺にて仕込み・調理を行い、「平体育館避難所」にて配食。 (メニュー:ごはん・豚汁・ポテトサラダ)</p>						
22 高野山真言宗埼玉 青年教師会有志一同	直接支援回数	5	延べ日数	12	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
板井安置所を警察のホームページで調べ、東北沿岸部をひたすら走り安置所を巡り供養読経をしてみわり、痛いがあった目印の場所では読経をして歩く。何度も通った。						
24 雲龍寺 ボランティア会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	13
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
宮城県山元町浄正寺 瓦礫撤去、清掃						
26 真言宗智山派埼玉 第八教区智山青年会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	8
	間接支援回数	1	延べ日数	-	述べ参加者	-
<p>4月26日 福島県いわき市豊間地区にて瓦礫撤去作業。5名参加</p> <p>4月27日 福島県いわき市中之作地区にて側溝土砂除去及び家屋内清掃。 3名参加</p> <p>上記2項は、地元福島第一教区智山青年会より依頼を受けた埼玉ブロック智山青年会が、県内各青年会に呼びかけて行った。</p> <p>4月下旬 福島第一教区智山青年会へ作業用の軽トラック提供。</p>						

	地元の福島では、品不足及び風評被害の為、復興作業等で使用する車両が手に入らないという声を聞き、埼玉県内の中古車を購入して提供した。					
27 曹洞宗 一步の会	直接支援回数	2	延べ日数	7	述べ参加者	3
	間接支援回数	2	延べ日数	5	述べ参加者	12
	4日 八王子駅周辺にて募金活動 5日 八王子駅周辺にて募金活動 7日 八王子駅周辺にて募金活動 10～12日 宮城県石巻市にて視察・炊き出し活動 20日 八王子駅周辺にて募金活動 25～28日 宮城県石巻市にて視察・炊き出し活動 27日 八王子駅周辺にて募金活動					
29 日蓮宗青森県 立正青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	8
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	4月6日 全国日蓮宗立正青年会による呼びかけで参集した千葉・神奈川・東京・新潟各都県の青年会員と共に、釜石市内の住居並びに店舗のガレキ撤去を行う					
30 宗教法人 芳朝寺	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	2
	16日 食料、生活物資等の支援物資を届ける。					
31 神奈川智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	22
	7日 平成23年度役員会において、智山青年会連合への義援金の送付ならびに、被災した全員の師坊へ、見舞金の送付が検討された。 25日 平成23年度総会において、先の役員会で出され義援金・見舞金の件を会員に伝え承認される。					
33 栃木県天台 仏教青年会	直接支援回数	3	延べ日数	5	述べ参加者	5
	間接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	30
	4月9日托鉢(於:郡山) 4月12日避難していた飯舘村の方々にお持ちを提供(於:足利市名草町) 4月14日栃木県内に避難されている各所の情報提供を行う 4月19日 代議員会・常任委員会にて情報交換(於:滋賀県大津市) 4月28日～30日 復旧支援及び炊き出しに参加(於:宮城県石巻市女川) 4月30日ペットボトル2リットル×6本入り35箱を宮城県遠田郡箕峯寺に搬送					

34 全国曹洞宗青年会 (全曹青)	直接支援回数		延べ日数	17	述べ参加者	635
	間接支援回数		延べ日数	7	述べ参加者	
	炊き出し:茨城県高萩市 岩手県山田町(5回) 宮城県亘理町(2回)・女川町 行茶:岩手県山田町(25回)・野田村 宮城県亘理町(4回)・山元町(2回) 福島県郡山市(4回)・須賀川市(3回)・伊達市(3回)・国見町(4回)・ 新地町 寺院ボランティア(以後、寺院という):宮城県(13回)・長野県 一般ボランティア(以後、一般という):岩手県野田村 宮城県岩沼市 福島県南相馬市(2回)					
35 いわてゆいっこ	直接支援回数	10	延べ日数		述べ参加者	100
	間接支援回数	10	延べ日数		述べ参加者	2000
	1日 北上市の事務所 翌日の物資運搬用トラックの募集をかける。ラジオ番組に出演し、被災地の最新状況を話す。 2日 北上市の事務所 翌日の炊き出しのためのおにぎりボランティア募集をかける。3日分の買い出し。 3日 釜石市、大船渡市、陸前高田市 茨城のボランティア団体が炊き出しを行い、被災地におにぎり等を届ける。 4日 大船渡病院、陸前高田市松峯団地ほか 物資を届ける。松峯団地区長のお見舞い、情報収集、支援の希望の聞き取りと調整 5日 大船渡市末崎中学校、陸前高田市金剛寺ほか 復興ミニコンサート(末崎中、松峯団地、金剛寺)を行う。 7日 大船渡市長源寺、陸前高田市金剛寺ほか 長源寺コンサート、正徳寺、末崎中、金剛寺に物資を運搬する。 8日 北上市の事務所 大きな余震があり、翌日から北上市青少年ホームが避難所となるため、対応準備。 11日 陸前高田市米崎小避難所、金剛寺ほか アニメ映画上映会(うちのタマ知りませんか、忍たま乱太郎ほか)、金剛寺に物資を届ける。 12日 陸前高田市米崎小避難所、松峯団地、金剛寺 紙芝居、読み聞かせ会、物資を届ける。花見(4/17)や支援イベントの打ち合わせを行う。 14日 北上市 花見(4/17)の買い出しを行う。 15日 陸前高田市金剛寺 金剛寺で4月17日に行われる花見の準備、花巻倉庫に運搬(15名) 16日 北上市 北上市青少年ホームにて、じゃーんず、バンビークルー王子のミニライブ。 17日 陸前高田市金剛寺 第1回陸前高田さくら祭、八木巻神楽、鬼剣舞等が披露される。マスコミ総勢100名あまり来た。 19日 釜石市釜石高校避難所 釜石高校避難所でじゃーんずのミニライブを企画、同校合唱部とのコラボも実現。 23日 花巻市 花巻支部倉庫で支援物資の仕分けを行う。 24日 大船渡市海楽荘、陸前高田市第一中学校ほか 末崎中学校で炊き出し(おにぎり570個、豚汁、手作りのお菓子等)を行い、大船渡市海楽荘や陸前高田市第一中学校や金剛寺の避難所に届ける。 25日 北上市 北上市の観光協会と連携し、被災した方をお花見&温泉に招待するプランの募集を開始する。					

	29日 北上市瀬美温泉 陸前高田市松峯団地の方を北上市にある瀬美温泉に招待する。					
36 高野山真言宗 長野宗務支所	直接支援回数	2	延べ日数	7	述べ参加者	11
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	8
	2日長野宗務支所代議員による対策検討。 11日～14日(6名)第1回救援ボランティア石巻 石巻市内にてボランティア活動、一般住宅のがれき撤去・住吉小学校体育館にて炊き出し、 遠野にて台湾からの救援物資(お米)積み込み等。 18日～20日(5名)第2回救援ボランティア石巻 石巻市内にてボランティア活動・現地状況の確認作業。 ⑨各班共実働2日(現地までの移動に約10時間以上かかるため)					
37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数	30	述べ参加者	10
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	1名 ずっと活動 1名 4月9日 釜石入り 不動教会 新生釜石キリスト教会にて活動 避難所巡り 破損住宅の家財出し 泥掻き 4月16日まで					
38 埼玉天台 仏教青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	10
	15日 天台宗埼玉教区宗務所に集まった支援物資の仕分け作業と被災地への発送作業を行う。 24日 天台宗埼玉教区宗務所に集まった支援物資の2回目の仕分け作業と被災地への発送作業を行う。					
39 宮城県曹洞宗 青年会(略称:宮曹青)	直接支援回数	15	延べ日数	15	述べ参加者	174
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	4日境内片付け作業(13教区 石巻市 永巖寺) 16名参加 境内片付け作業(19教区 亶理町 當行寺) 14名参加(6教区青年会作業に加担) 5日境内片付け作業(19教区 亶理町 當行寺) 11名参加(6教区青年会作業に加担) 6日境内片付け作業(11教区 東松島市 寿昌院) 16名参加(11教区青年会作業に加担) 境内片付け作業(19教区 亶理町 當行寺) 11名参加(6教区青年会作業に加担) 7日境内片付け作業(4教区 岩沼市 高林寺) 13名参加(4教区青年会作業に加担) 11日境内片付け作業(1教区 仙台市 東禅院) 10名参加(1教区青年会作業に加担) 神奈川曹青 14名参加					

	<p>12日境内片付け作業(1教区 仙台市 東禅院) 15名参加(1教区青年会作業に加担) 神奈川曹青 14名参加 境内片付け作業(13教区 石巻市 多福院・松巖寺)12名参加(13教区青年会作業に加担) 境内片付け作業(19教区 亶理町 正福寺) 9名参加(6教区青年会作業に加担) 13日境内片付け作業(19教区 亶理町 正福寺) 7名参加(6教区青年会作業に加担) 14日境内・墓地片付け作業(19教区 亶理町 正福寺) 6名参加(6教区青年会作業に加担) 山形曹青 28名参加 15日蔵王町社会福祉課に支援物資を提供 19日境内片付け作業(11教区 東松島市 長音寺) 6名参加(11教区青年会作業に加担) 26日炊き出し支援(120食)(13教区 女川町 保福寺避難所) 28名参加</p>					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	32
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>5/4/20 10 石巻市立湊小学校 炊き出し 6/4/18 7 宗福院様境内 托鉢 7/4/22 1 聖徳寺様境内 托鉢 8/4/27 9 東松島市矢本 炊き出し 9/4/28 5 平泉寺様境内 托鉢</p>					
41 茨城智山青年会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	9
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>4月8日 3名 宮城県岩沼市 支援物資の運搬・提供 社会福祉協議会でのボランティア活動(泥の除去) 4月14日 3名 福島県いわき市 支援物資の運搬・提供 住宅の清掃・泥の除去 4月27日 3名 福島県いわき市 支援物資の運搬・提供 住宅の清掃・泥の除去</p>					
46 高野山真言宗 東京青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	7
	<p>11日～14日 宮城県石巻市訪問 台湾の仏教団体から届いた支援飯の輸送 支援物資搬送・配給 津波被災者宅の泥出し 炊き出し(神奈川青年教師会主催、相模真友会と共に)</p>					
51 栃木県日蓮宗 青年会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	10

	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	日にち不明 被災地域清掃奉仕					
52 高野山真言宗 山梨宗務支所	直接支援回数	5	延べ日数	8	述べ参加者	6
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>4月6～8日 宮城県大崎市へ支援物資配送(野菜、牛乳、ヨーグルト)</p> <p>4月11日 岩手県釜石市へ支援物資配送(野菜、お菓子、調理用カセットコンロ用ガスボンベ500個) * 副住職様より市内の被災地をご案内頂き、現場について説明を受ける。岩手県大槌町へ支援物資配送(お菓子、スキンケア用クリーム) * 役場の支援物資担当者が必要な物資についてお話を聞く。</p> <p>4月21日 岩手県大槌町へ支援物資配送(栄養ドリンク、栄養補給薬) * 役場の支援物資担当者が必要な物資についてお話を聞く。</p> <p>4月26日 岩手県大槌町へ支援物資送付(使い捨て手袋、ねずみ取り、ゴキブリ駆除剤など)</p> <p>4月28～30日 岩手県大槌町へ支援物資配送(敷き布団100枚、ゴキブリ駆除剤100個、カップ麺など) * 役場の支援物資担当者に必要物資について話したが、ベビーカーなど調達が難しい要望があり、対応できず。</p>					
53 高野山真言宗青年 教師会 相模真友会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	10
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	25
	<p>9日 神奈川青年教師会さまより「義捐飯」移送ボランティア募集の案内を頂く。</p> <p>11日 教区内にて集めてあった支援物資の積み込み。東北道のSAにて神奈川青年教師会などと合流 翌日の予定を打合せ。</p> <p>12日 午前中、石巻市の畳店倉庫にて義捐飯の移送。午後、二組に分かれ、石巻市内、渡波駅前にて炊き出し、支援物資の配給。と石巻市内にて住宅の泥だし。</p> <p>13日 午前 遠野市内の倉庫にて義捐飯の移送。 午後大槌町にある6カ所の避難所(比較的規模は小さい)に支援物資を配給。</p> <p>16日 午後 教区主導の元、茅ヶ崎駅前にて托鉢</p>					
54 東九州臨青会	直接支援回数	1	延べ日数	6	述べ参加者	3
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	30
	<p>4月6日 臨済宗妙心寺派 九州東教区役員会にて、被災地支援を決定。先発隊として、臨青会を派遣することなど話し合う。 4月24日大分発。軽トラックに物資などを積み込んでフェリーで出発。現地では禅興寺様の手配で宿泊施設、食事、活動場所、内容、道案内などすべてお世話をかけてしまった。 日時ははっきりしないが、東九州臨青会会員で当分の間、月1回くらいのペースで大分市中心部を托鉢することを決定。5月から7月まで同様。</p>					

55 高野山真言宗愛媛青年教師会	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	12
	間接支援回数	15	延べ日数	15	述べ参加者	75
	福島県いわき市、撤去作業(詳細は活動報告書参照)					
57 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	直接支援回数	3	延べ日数	7	述べ参加者	100
	間接支援回数	3	延べ日数	10	述べ参加者	300
	1日茨城県筑西市台湾救援物資 30t引取り・仕分け等(千葉県日青等支援) 5日甲府市立本寺「アース事務局」台湾救援物資 10t引き取り・仕分け等 13日アース「支援バス」気仙沼市「東陵高校」避難住民に毛布、マスク、菓子等を配布 14日石巻市「久円寺」物資仕分け処に菓子を配布。地盤沈下による浸水地域調査 20日宮城県本吉町「アース拠点」開設 26日東京仏光山寺にて「台湾留学・育英資金」について検討会開催					
63 社会慈業委員会(通称:ひとさじの会)	直接支援回数	4	延べ日数	12	述べ参加者	10
	間接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	20
	3日 浄土宗報恩明照会(以下、明照会と略す)より支援金をあつまり、福島での炊き出しに必要な器具を調達。 4日 ひとさじの会の炊き出しにて、明照会メンバーと福島県浜通り組浄土宗青年会メンバー、及びひとさじの会メンバーの顔合わせ・支援活動内容の確認を行う。 6日 【石巻組】文京区白山にある浄土宗心光寺住職の運転で仙台を経由して石巻へ向かう。仙台にてワンファミリー仙台事務所に寄り、ホームレス支援全国ネットの支援物資と情報を受け取る。 7日 【石巻組】石巻へ移動。女性ばかり十名が避難生活をしている石巻市浄土宗西念寺へ行き、必要な物資をおろしてニーズの聞き取りを行う。続いて石巻市門脇中学校避難所へ行き、物資をおろしてニーズの聞き取りを行う。そのまま避難所のなかで子ども会活動とニーズの聞き取り、避難所生活のお手伝いを8日まで行う。 【福島組】炊き出しに必要な機材や食材を乗せた車でいわき市へ移動。いわき市浄土宗満蔵寺にて調理を行い、御厩小学校避難所へ向かう。御厩小学校避難所にて煮炊きし、御厩小学校避難所・高坂小学校避難所・沼の内公民館避難所配食。 【東京】四七日に合わせて「被災者とともに～生を祈り、死を悼む～」(場所:増上寺慈雲閣)を行う。 8日 【石巻組】石巻からワンファミリー仙台事務所へ移動。石巻で得た情報をそこに集まっているホームレス支援全国ネットのメンバーに報告。東京へ戻る。 【福島組】7日同様、満蔵寺にてひとさじメンバーと東京の浄土宗青年会メンバー、浜通り組浄土宗青年会メンバーの他、満蔵寺檀信徒婦人が協力して調理を行う。御厩小学校避難所で煮炊きし、御厩小学校避難所・高坂小学校避難所・内郷コミュニティーセンター避難所、沼の内公民館避難所にて配食。7日～8日の活動においては、合わせてニーズの聞き取りも行った。					

	<p>14日 五七日に合わせて「被災者とともに～生を祈り、死を悼む～」(場所:増上寺慈雲閣)を行う。</p> <p>19日 【気仙沼組・石巻組】車に炊き出しに必要な機材を載せた後、食材を購入して仙台に向かう。【石巻組】は仙台で下車し、バスで石巻門野脇中学校避難所へ向かう。【気仙沼組】はそのまま車で気仙沼浄土宗浄念寺避難所へ移動。</p> <p>20日 【気仙沼組】午前3時より炊飯開始。朝食・昼食・夕食の三食を炊き出し、浄念寺避難所で毎日調理をしておられた女性たちに休息の時間をつくる。夕食の片づけを終えてから車で仙台へ移動。【石巻組】はチョコレートや飴などを避難所に配って歩きながら避難所の情報収集を行う。シャボン玉などの遊具を避難所の子どもたちに配るとともに、避難所で留守番をしている子どもたちと遊ぶ。夕方にバスで仙台へ移動。【気仙沼組・石巻組】仙台で合流。</p> <p>21日 早朝に東京へ到着。</p> <p>六七日に合わせて「被災者とともに～生を祈り、死を悼む～」(場所:増上寺慈雲閣)を行う。</p> <p>28日 七七日に合わせて「被災者とともに～生を祈り、死を悼む～」(場所:増上寺慈雲閣)を行う。</p>
--	---

平成 23 年 5 月の活動団体は 50 団体

団体名	平成 23 年 5 月					
1 高野山足湯隊	直接支援回数	6	延べ日数	10	述べ参加者	90
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	2 日～6 日、第 2 陣高野山足湯隊を南三陸町へ派遣する。 高野山真言宗宮城県大崎市の弘法寺(現地対策本部)で宿泊し、南三陸町へ通う。 2 日 馬場中山生活センター避難所へガソリンと食料等を運ぶ。 3 日 旭が丘コミュニティセンター避難所で足湯傾聴ボランティア。 4 日 旭が丘コミュニティセンター避難所で足湯傾聴。 5 日 自然の家避難所(戸倉)で足湯傾聴。 6 日 弘法寺にて本堂、檀信徒会館で清掃の下座行、ふりかえり(足湯隊参加者によるシェアリング)。 16 日～20 日 第 3 陣高野山足湯隊、岩手県釜石市へ派遣。 高野山真言宗釜石教会で宿泊。 16 日 足湯の準備。大崎市弘法寺 17 日 岩手県釜石市市民体育館避難所で足湯傾聴ボランティア。 18 日 釜石中学校と中妻体育館避難所で足湯傾聴。 19 日 大槌町小槌伝承館で足湯傾聴。 20 日 釜石教会					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数	6	延べ日数	10	述べ参加者	91
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	2 日～6 日、第 2 陣高野山足湯隊、南三陸へ。 16 日～20 日、第 3 陣高野山足湯隊、岩手県釜石へ。 釜石グループの足湯に必要な道具のセッティング、発送。					
3 真言宗智山派 東京西部教区 智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	1-2 日 岩手県陸前高田市 寺院法具清掃					
4 埼玉第二教区智山 青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	5月31日 岩手県陸前高田市 金剛寺にて瓦礫撤去					
5 真言宗智山派埼玉第 四教区智山青年会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	5
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	5 月 16 日 福島県いわき市 側溝清掃 1 名 5 月 17 日 岩手県陸前高田市 瓦礫撤去 1 名 5 月 31 日 岩手県陸前高田市 瓦礫撤去 3 名					

6 名古屋の坊主	直接支援回数	2	延べ日数	5	述べ参加者	13
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>5日 名古屋を夜行バスにて出発 6日 早朝に仙台駅に到着。レンタカーをして、まず、仙台教務所に立ち寄り災害支援の現状、必要な支援と物資などの情報を収集する。その後、山元町ボランティアセンターへ行き、ボランティア登録ののち、瓦礫撤去と引越しの手伝い。活動終了後、ミーティングをして仙台駅に戻る。仙台駅にて今回のボランティアについてと、これからの私たちの動きについて話しあう。その後、仙台駅を出発(夜行バスにて)。 7日 早朝に名古屋着。解散。 30日 今回のボランティアについてミーティングをしたのち、名古屋を出発(夜行バスにて)。 31日 早朝に仙台駅に到着。今回は七ヶ浜町へ行くため、仙台駅に到着したのち、電車で現地入りして瓦礫撤去に向かうチームと調査チームに分かれる。調査チームは仙台教務所に立ち寄り現地情報を聞き、レンタカー店の開店を待って現地入りする。現地入り後、現状を確認しながら被害状況を直接見て回る。現地のNPO法人の企画(足湯)に参加する。その後、現地の地元商店に立ち寄り、直接話を聞く。その後、瓦礫撤去チームと合流して、今回のボランティアについてと、これからの活動について話し合う。その後、仙台駅を出発(夜行バスにて)。</p>					
8 真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク(でらボラ NAGOYA)	直接支援回数	3	延べ日数	11	述べ参加者	15
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>5月4~5日 宮城県山元町で、「瓦礫」撤去、家財道具移動。 5月5日 ボランティア隊の報告会・準備会(以後、毎月数回実施) 5月15~20日 岩手県陸前高田市、大船渡市、宮城県登米市、亶理町で、遺体安置所での勤行、「瓦礫」撤去、真宗大谷派東京教区と合同で炊き出し。 5月30~6月1日 宮城県七ヶ浜町で、「瓦礫」撤去・足湯。</p>					
9 真宗大谷派奥羽教区ボランティア有志の会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	不明
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>12日 岩手県大槌町・浪板交流センター避難所 バーベキュー 19日 岩手県山田町・大槌町 午後・青空喫茶・無料バザー・山田町大沢地区避難所 夕方より・缶詰居酒屋・大槌町浪板交流センター 20日 岩手県山田町・大槌町 午前、午後、青空喫茶・無料バザー・山田町大沢地区避難所 夕方より・缶詰居酒屋・大槌町浪板交流センター</p>					

10 高野山真言宗 播磨 友師会	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	30
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	14
	5月13日 支援会議 (15名) 今後の支援方法 支援物資 活動資金 等を審議 15~19日 山元町支援活動 (6名) 山元町避難所公民館前にて足湯傾聴活動 交流会(お茶会 こうやくん カフェ) いちご農家 被害ハウス 撤去作業等 横死者霊位 行脚供養 山元 坂元地区周辺 帰宅後 ○日 反省会 ミーティング (14名)					
11 だるまの会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	16
	義援托鉢 5月2日 愛知県犬山市 観音寺周辺 57,549円 6名 5月13日 愛知県犬山市 臨溪院周辺 98,000円 10名 ※中日新聞社会事業団の東日本大震災義援金に全額寄託					
12 東京曹洞宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	7
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	29日~31日 場所:気仙沼市・海蔵寺 SVA(シャンティ国際ボランティア会)拠点・清涼院視察。 内容:海蔵寺様の震災で亡くなられたお檀家様方のために慰霊供養法要、 並びに雅楽奉納演奏を行う。					
15 浄土宗神奈川教区 青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	10
	11日 義捐金托鉢 於:川崎銀柳街 浄財総額45,557円					
18 松泉寺有志会	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	5
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	10日~13日 瓦礫撤去作業 避難所での炊き出し					
20 浜〇かふえ (浄土宗福島教区浜通 り組青年会)	直接支援回数	10	延べ日数	10	述べ参加者	57
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	毎週、月曜日・水曜日、青年会有志4名程度にて瓦礫撤去等の災害ボラン ティア。満蔵寺住職・寺族・檀信徒婦人・東京教区城南組青年会有志とともに 炊き出し。 2日 満蔵寺にて調理を行い、「平体育館避難所」にて夕食時に配食。 3日 満蔵寺にて調理を行い、「内郷コミュニティセンター避難所」にて昼食時 に配食。(メニュー:ごはん・クラムチャウダー・煮物・浅漬)					

22 高野山真言宗埼玉 青年教師会有志一同	直接支援回数	2	延べ日数	4	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	まだ残っている、板井安置所を回る。					
24 雲龍寺ボランティア会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	3	延べ日数		述べ参加者	
	募金活動、送金(地元関係団体、又は宗) 被災者当家代々の位牌預かり (～現在まで継続中)					
26 真言宗智山派埼玉 第八教区智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	5月31日 岩手県陸前高田市金剛寺にて瓦礫撤去。1名参加 智山青年会連合会及び埼玉ブロック智山青年会から呼びかけがあり、前泊して作業を行った。 金剛寺は、震災発生当初から一時避難所となっていたが、当時は避難所は解散されていて、仮設の入浴設備等の片付けや境内の瓦礫撤去作業を行った。					
27 曹洞宗 一步の会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	11
	18日 八王子駅周辺にて募金活動 25日 八王子駅周辺にて募金活動					
28 日蓮宗東京都西部 青年会	直接支援回数		延べ日数	1	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3日に気仙沼に行き民家の清掃を行った					
33 栃木県天台 仏教青年会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	3
	間接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	25
	5月1日～2日普及支援及び炊き出しに参加 5月10日 宮城県石巻市にて普及支援活動 5月13日 托鉢(於:足利市アピタ) 5月18日 関信越仏青会長会議(於:神奈川県横浜市)にて情報交換 5月24日 足利市中央消防署消防士を講師に招き救護の勉強会					

34 全国曹洞宗青年会 (全曹青)	直接支援回数		延べ日数	16	述べ参加者	362
	間接支援回数		延べ日数	6	述べ参加者	
	炊き出し:宮城県気仙沼市・東松島市 福島県郡山市(2回)行茶:岩手県釜石市(5回)・山田町(7回)・野田村(2回) 宮城県気仙沼市・石巻市・山元町 福島県郡山市(6回)・須賀川市(2回)・伊達市(2回)寺院: 宮城県山元町(2回) 一般:岩手県釜石市・陸前高田市(2回)・野田村 宮城県山元町(9回) 福島県相馬市・新地町(2回)					
35 いわてゆいっこ	直接支援回数	2	延べ日数		述べ参加者	20
	間接支援回数	28	延べ日数		述べ参加者	200
	1日 北上市 北上市さくらの西館1階で「北上なう」イベントを開催、三陸の海産物の販売、まるすず(陸前高田市魚屋)出店、温泉足湯、フラダンスショー、佐々木由香利ライブ、豚汁サービスなど。 2日 北上市の事務所 テレビ朝日報道ステーション取材対応。 3日 北上市 北上市さくらホールでチャリティライブを行う。プレゼント:CD350枚、DVD10枚、CDデッキ3台。 5日 北上市 北上市詩歌の森公園でチャリティランニング・ウォーキングを実施、参加者30名。 6日 大船渡市、陸前高田市 大船渡市役所に布団の搬入、松峯団地や米崎小学校避難所にCDとCDデッキを搬入、高田保育所に預かった物を渡す。 15日 陸前高田市松峯団地、金剛寺 松峯団地でフラダンスショー(参加者約150名)、歯科衛生(7名)、金剛寺に女性用長靴を届ける。 18日 北上市和賀町 物資の運搬、ニーズ調査 21日 北上市水神温泉 大船渡市からの避難者に物資を届ける。 22日 北上市和賀町 避難者9名を花巻の倉庫へ送迎し、物資調達。 23日 盛岡市 ハートニットプロジェクトの打ち合わせ 26日 北上市和賀町水神温泉 水神温泉で避難生活を送っている被災者の方を北上市中心部へ送迎(買い物、美容院、銀行等) 31日 宮古市 宮古市田老字八幡 県立宮古北高校でジャージの受け取り					
36 高野山真言宗 長野宗務支所	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	16
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	18
	10日長野宗務支所代議員による対策検討会議。 16日(6名)第3回救援ボランティア栄村 栄村にて一般家屋がれき撤去 25日(6名)第4回救援ボランティア栄村 栄村にて水田水路復旧作業(山からの雪解け水利用の水路) 26日長野宗務支所代議員・青年会役員による対策検討会議。 31日~(6月3日まで)(4名)第5回救援ボランティア釜石 現地状況把握、がれき撤去等※以下、釜石教会を拠点として活動、釜石市ボランティアセンターを通じて活動。					

37 レインボーキャンプふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数	31	述べ参加者	80
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	1名 ずっと活動 5月9日～15日 釜石・大槌町にて高野山足湯隊活動 釜石市市民体育館 甲子林業センター 釜石中学校 大槌町伝承館					
38 埼玉天台仏教青年会	直接支援回数	2	延べ日数	6	述べ参加者	14
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	9
	2日 川越駅周辺にて被災地支援活動の支援金の托鉢を行う。 8日 天台宗埼玉教区宗務所にて東日本大震災物故者慰霊法要を行う。 8日 慰霊法要後、代表4名が支援物資や作業道具などを積み込み埼玉から仙台へ移動。仙台泊。 9日 仙台発—麓岳麓峯寺—南三陸町石浜集会所—東松島萬寶院—仙台泊 ※麓峯寺ご住職の紹介で避難所となっている石浜集会所を訪れ、今後石浜地区を当会で継続的に支援していく約束をする。萬寶院ご住職からは震災当時や被災地の現状のお話を聞かせて頂く。 10日 仙台から南三陸町の石浜地区へ移動。瓦礫の撤去作業などを行う。作業終了後、埼玉へと帰路につく。 16日 24日からの被災地支援活動の事前説明会を行う。 18日 関東信越地区天台仏青会長連絡会緊急会議で被災地の様子や支援活動のやり方などの情報交換を行う。 24日 支援物資や作業道具などを積み込み埼玉から仙台へ移動。仙台泊。 25日 仙台から南三陸町の石浜地区へ移動。側溝の土砂や瓦礫の撤去作業を行う。作業終了後、仙台へ移動。仙台泊。 26日 仙台から南三陸町の石浜地区へ移動。前日の続きの作業を行う。作業終了後、埼玉へと帰路につく。					
39 宮城県曹洞宗青年会(略称:宮曹青)	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	29
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	13日 炊き出し支援(80食)(唐桑町さんさん館避難所) 17名参加 24日 炊き出し支援(500食)(東松島市宮戸地区縄文村避難所) 12名参加 神奈川宗務所 22名参加 (神奈川県第二宗務所炊き出しに加担)					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	6	延べ日数	6	述べ参加者	23
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	5/10 7 南郷体育館 下二郷コミュニティセンター 炊き出し 5/14 1 宮城県石巻市渡波地区 労働 5/18 5 石巻女子高等学校 炊き出し 5/21 1 宮城県石巻市渡波地区 労働 5/25 7 石巻女子高等学校 炊き出し 5/30 2 東松島市さつき苑付近仮設住宅 物資輸送					

41 茨城智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	7
	ボランティア活動についての話し合い、義援金についての話し合い。					
50 臨済宗妙心寺派 信越教区青年部	直接支援回数	3	延べ日数	13	述べ参加者	8
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	9日 マイクロバスで長野県を出発 宮城県牡鹿半島で活動 14日 マイクロバスで長野県を出発 宮城県牡鹿半島で活動 22日 マイクロバスで長野県を出発 宮城県牡鹿半島で活動					
51 栃木県日蓮宗 青年会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	10
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	日にち不明 清掃奉仕 石巻沿岸部慰霊行脚					
52 高野山真言宗 山梨宗務支所	直接支援回数		延べ日数	8	述べ参加者	3
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	5月2日 岩手県大槌町へ支援物資送付(使い捨て手袋、フック、鏡など) 5月4日 岩手県大槌町へ支援物資送付(目覚まし時計、乾電池、マグネット) 5月8日 岩手県大槌町へ支援物資送付(クレンジングオイル、保湿クリーム) 5月22日 岩手県大槌町へ支援物資送付(クレンジングオイル) 5月30日 岩手県釜石市へ支援物資配送(お菓子、お米、タオルなど) * 副住職様より市内の被災地をご案内頂き、現場について説明を受ける。 岩手県大槌町へ支援物資送付(クレンジングオイル、栄養ドリンク剤など)					
54 東九州臨青会	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	3
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	30
	妙心寺派、現地対策本部の元活動					
55 高野山真言宗愛媛 青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	12	延べ日数	12	述べ参加者	60
	托鉢					
56 神奈川県第一部日 蓮宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	5
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	・炊き出し ・捜し物 ・泥かき ・学校整備 ・供養					

57 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	直接支援回数	4	延べ日数	12	述べ参加者	30
	間接支援回数	3	延べ日数	20	述べ参加者	200
	<p>2日支援物資積み込み。 3～5日宮城県本吉・大船渡・遠野・気仙沼方面に現地支援展開 6日仙台市「宮城県私立中学・高等学校協議会」にて「台湾留学・育英資金」について提案 10日九州教区より「伝道車1台」被災地支援の一助として提供(立本寺にて受け渡し式)江島大分県前宗務所長(九州前教区長)自ら九州より運転され届けられる 11日マレーシアからの支援物資「ミネラルウォーター」16t受け入れ宮城県本吉「アース拠点」に移送 14日宮城県塩釜市北浜地区「モスバーガー」提供 22日「夏がけ布団」等の支援物資受入れ要請開始(ラジオ・新聞等で呼びかけ)全国寺院・寺庭婦人会等団体・個人より協力(全国より600枚集まる)</p>					
59 日蓮宗 岡山立正青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>5月22日 岡山駅から公共交通機関を乗り継ぎ、仙台着。翌日の作業が早朝の為、仙台泊。23日 津波復興支援センターで受付後、作業場所へ自転車で移動。作業場所は仙台市宮城野区岡田地内、依頼者所有の畑。スコップ・レーキを使用しガレキの撤去作業。作業終了後、帰岡が不可能の為、仙台泊。24日 仙台駅より公共交通機関を利用し岡山着。</p>					
61 臨済宗妙心寺派 東北教区第二部宗務支所	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	花園禅塾のボランティアに参加(大槌町)					
63 社会慈業委員会 (通称:ひとさじの会)	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	10
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>17日 (財)全国青少年教化協議会事務所(以下、全青協と略す)に集合。全青協ボランティアメンバーとひとさじメンバーの顔合わせをした後、築地で食材を調達。東松島市へ移動。夜東松島市の旅館に到着。翌日の活動に関する綿密なミーティングを行う。 18日 東松島市を出発し、石巻市門脇中学校避難所へ移動。映画の上映会とチョコフォンデュの提供を同時に行う。映画終了後、子ども会スタート。大道芸などを披露する。機材を片付けて東松島の旅館へ戻る。旅館にて翌日の活動についての綿密なミーティングを行う。 19日 東松島市を出発し、石巻市牡鹿半島にある曹洞宗洞源院に移動。チョコフォンデュと炊き出しの準備をしている間に、お楽しみ会—歌と大道芸—を行う。チョコフォンデュを玄関先で行う。最後に夕食の炊き出しを行い、機材を片付けて東松島市の旅館へ移動。旅館にて活動の反省ミーティングを行う。 20日 東松島から仙台へ移動。仙台のワンファミリー仙台事務所にて情報交換を行い、東京の全青協事務所へ向かう。</p>					

平成 23 年 6 月の活動団体数は 52 団体

団体名	平成 23 年 6 月					
1 高野山足湯隊	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	57
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6月10日～14日、第4陣高野山足湯隊を南三陸町へ派遣。第4陣より現地の避難所で宿泊することになる。 10日 旭が丘コミュニティセンター避難所で足湯傾聴ボランティア。 11日 避難所になっている民宿ながしず荘の玄関先で足湯傾聴。 同日夕 自然の家避難で足湯傾聴、炊き出し(すき焼き風煮物・焼きうどん・パン)320食 12日 自然の家で足湯傾聴。揚げ餅 50食 12日夜 清観荘避難所でナイター足湯。就寝前に足湯をするとよく眠れるという。揚げ餅 20食 13日 平成の森避難所で足湯傾聴と炊き出し(焼きそば)200食 14日 弘法寺で下座行、ふりかえり。					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	57
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6月1日～3日、南三陸町。第4陣高野山足湯隊のため視察と打ち合わせ。 10日～14日、第4陣高野山足湯隊を南三陸町へ。					
3 真言宗智山派 東京西部教区 智山青年会	直接支援回数	3	延べ日数	5	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	5-6日 福島県中の作港周辺地域 下水溝清掃作業 22-23日 宮城県石巻 寺院周辺 下水溝清掃作業					
4 埼玉第二教区 智山青年会	直接支援回数	2	延べ日数	3	述べ参加者	10
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6月16日から17日福島県いわき市小名浜にて側溝の泥かき 6月23日 宮城県石巻市 普誓寺にて側溝の泥かき					
5 真言宗智山派埼玉 第四教区智山青年会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6月17日 福島県いわき市 側溝清掃 3名 6月23日 宮城県石巻市 側溝清掃 1名					
6 名古屋の坊主	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	1日 早朝に名古屋着。解散。 16日 今回のボランティアについてミーティングをしたのち、名古屋を出発(夜行バスにて)。					

	<p>17日 早朝に仙台駅に到着。今回はまず、レンタカーにて七ヶ浜に現地入りして、瓦礫撤去チームと今後の可能性を考えるチームに分かれて行動する。今後の可能性を考えるチームでは、瓦礫の中から見つけれられた持ち主の分からない位牌や思い出の品々がテントの中に並べられていたところを発見。そこで一巻お勤めする。その後、仮設住宅の集会場へ行き、被災された方に話を聞いた後、七ヶ浜町役場へ行き、地域の被害状況を聞く。その後、前回お会いした地元商店の奥さんと話す。瓦礫撤去チームと合流して、今回のボランティアについてと、現状確認、今後について話し合う。その後、仙台駅を出発(夜行バスにて)。</p> <p>18日早朝に名古屋着。解散。</p>					
7 真宗大谷派高岡教区内有志 災害復興支援ネットワーク	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	20
	間接支援 原発事故による放射能の勉強会					
8 真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク(でらボラNAGOYA)	直接支援回数	5	延べ日数	13	述べ参加者	20
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>6月5日 宮城県石巻市、山元町で仙台 BOP(仏教青年協議会・お風呂・プロジェクト)と協力してお風呂、無料バザー、炊き出し。</p> <p>6月5~9日 仙台仏青とともにお風呂設営、無料バザー、念珠作り、炊き出し、物資の仕分け。</p> <p>6月7~9日 福島県南相馬市、新地町で仙台仏青とお風呂設営、炊き出し、聞き取り。</p> <p>6月17日 宮城県七ヶ浜町で「瓦礫」撤去。</p> <p>6月20~22日 岩手県大船戸市、宮城県仙台市で、東京・長崎教区と合同で炊き出し、救援物資の搬入・整理。</p>					
9 真宗大谷派奥羽教区ボランティア有志の会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	6
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	10
	<p>14日 秋田県能代市・真宗大谷派奥羽教務所 ボランティア有志の会会議</p> <p>19日 岩手県山田町大沢地区在宅 夕方・居酒屋・炊出し・ホルモン鍋</p> <p>20日 岩手県山田町大沢地区在宅 午後・無料バザー 夕方・居酒屋・炊出し・牛すじ煮込み</p>					
10 高野山真言宗 播磨 友師会	直接支援回数	2	延べ日数	6	述べ参加者	54
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	15
	<p>6月8~10日 山元町 (3名)</p> <p>本山 対策本部依頼の職員を引率し次回活動下見と各場所との計画報告</p> <p>亘理町 光明寺訪問</p> <p>山元町公民館次回活動計画提出 供養実施案提出 坂元駅/小学校視察</p> <p>28~30日 亘理 山元町 (15名)</p> <p>亘理町 明光院での横死者追善供養法要</p> <p>支援物資搬入 いちご農家作業等</p> <p>帰宅後 ○日 反省会 ミーティング (15名)</p>					

11 だるまの会	直接支援回数	8	延べ日数	7	述べ参加者	13
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	7
<p>現地ボランティア活動</p> <p>6月22日 1名 宮城県七ヶ浜町 妙心寺派同性寺のCDケース組み立てと詰め替え</p> <p>6月23日 1名 宮城県七ヶ浜町 妙心寺派同性寺の仮設テントの避難物品移動</p> <p>6月24日 2名 宮城県七ヶ浜町 妙心寺派同性寺の書類等の泥水落とし</p> <p>6月25日 3名 宮城県七ヶ浜町 妙心寺派花園会員・遠藤工務店の側溝掃除、木材洗浄作業</p> <p>6月26日 1名 宮城県七ヶ浜町 妙心寺派同性寺の書類等の泥水落とし</p> <p>6月26日 1名 岩手県陸前高田市慈恩寺、宮城県気仙沼市地福寺、宮城県七ヶ浜町金剛寺、慰問</p> <p>6月27日 2名 宮城県石巻市 妙心寺派慈恩院の境内掃除、掛軸等の泥水落とし</p> <p>6月28日 2名 宮城県石巻市 妙心寺派慈恩院の境内掃除、掛軸等の泥水落とし</p> <p>義援托鉢</p> <p>6月23日 愛知県名古屋市 泰雲寺周辺 52,811円 7名</p> <p>※中日新聞社会事業団の東日本大震災義援金に全額寄託。</p>						
12 東京曹洞宗青年会	直接支援回数	3	延べ日数	10	述べ参加者	44
	間接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	60
<p>12日～15日</p> <p>場所:石巻市北上町にっこりサンパーク避難所</p> <p>内容:炊き出し(ロコモコ丼)</p> <p>八王子青年会・一歩の会主催の炊き出し企画に参加。香積寺様を拠点に炊き出しの準備を行いました。</p> <p>18日～19日</p> <p>場所:板橋区 松月院</p> <p>内容:東京曹洞宗青年会主催 禅のつどい開催日にあたる6月18日が震災から丁度100日ということで震災物故者百ヶ日供養、並びに復興祈願法要を執り行う。</p> <p>(一般参禅者、青年会員を含めた約60人での法要)</p> <p>18日～20日</p> <p>場所:石巻市北上町白浜荘避難所</p> <p>内容:落語会・ハンドマッサージ・メイクアップ・花火大会</p> <p>26日～28日</p> <p>場所:南三陸町歌津小野花匠園</p> <p>内容:炊き出し(煮魚・豚の紅茶煮弁当)</p>						

13 大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	23
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
3日:京都の大谷大学からボランティアバスパックを運行。希望する教職員学生総勢23名を連れ、宮城県石巻市にむけ出発。 4日:石巻市ボランティアセンターの指示により、被災家屋のヘドロだし作業、マンションのヘドロ出し作業を行う。 5日:土嚢袋にヘドロを詰める作業を繰り返し、マンション2世帯、家屋(酒屋)の泥出しを完了。夕刻現地を出発。 6日:早朝帰学						
15 浄土宗神奈川教区 青年会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	20
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
7日~8日 全国浄土宗青年会「被災寺院復興支援活動」(墓地に流入した瓦礫の撤去作業)於:仙台市若林区荒浜・浄土寺						
16 宮城智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
宮城教区殉難者慰霊法要(教区事業への青年会助法) 7月11日・12日・13日 会場 宮城県名取市、宮城県石巻市、宮城県気仙沼市大島						
18 松泉寺有志会	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
13日から16日瓦礫撤去作業、傾聴						
20 浜〇かふえ(浄土宗 福島教区浜通り組青年 会)	直接支援回数	8	延べ日数	8	述べ参加者	32
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
毎週、月曜日・水曜日、青年会有志による瓦礫撤去等の災害ボランティア。						
21 宗教法人 妙興寺	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	40
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
21日 早朝 大雄寺 大野祥雲師先導により、雲水5名、その他2名、計8人が車2台に分乗し妙興寺を出発 夜、岩手県一関市郊外薪流会の活動拠点に到着。 22日 気仙沼ボランティアセンターで登録後、指示された気仙沼港近くの商店で瓦礫撤去を行なう。 23日上記センターで指示された一般住宅の瓦礫撤去と住宅洗浄を行なう。 24日岩手県陸前高田市中心部で鎮魂の読経。陸前高田市 慈恩寺で墓地の草刈、清掃を行なう。 25日 一関を車を出発し、夜 妙興寺に帰着。						

22 高野山真言宗埼玉 青年教師会有志一同	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	顔見知りになった、宮戸地区の方に野菜を届ける。					
24 雲龍寺 ボランティア会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数		述べ参加者	
	募金活動、送金(地元関係団体)					
26 真言宗智山派埼玉 第八教区智山青年会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	8
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6月16日 福島県いわき市小名浜地区にて側溝土砂除去作業。6名参加 6月17日 内容は16日と同様。1名参加 6月23日 宮城県石巻市普誓寺にて墓地及び周辺地域側溝清掃作業。 1名参加					
27 曹洞宗 一步の会	直接支援回数	2	延べ日数	6	述べ参加者	8
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	12~15日 宮城県石巻市にて視察・炊き出し活動 26~27日 宮城県石巻市にて視察・炊き出し活動					
28 日蓮宗東京都西部 青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	25
	11日に百箇日慰霊法要を厳修 新宿のお寺の門前にて募金活動 バザーを実施売り上げを全額NPO法人に寄付					
30 宗教法人 芳朝寺	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	25
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	17日東松島市において蕎麦・うどんの炊きだし1000食分 18日石巻市において蕎麦・うどんの炊きだし1000食分					
31 神奈川智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	16日4月25日に行なわれたそうかいにおいて可決された見舞金を、岩手教区圓滿寺に送付。23日 宮城教区普誓寺においてボランティア活動。					
32 埼玉第9教区 智山 青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	3
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6月17日 福島県いわき市小名浜地区側溝の土砂撤去					

33 栃木県天台 仏教青年会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	7
	間接支援回数	4	延べ日数	5	述べ参加者	29
	6月1日 炊き出し(於:石巻市立女子高) 8日 炊き出し(於:東松島市矢本具ルータウン) 10日 東日本大震災物故者慰霊法要及び震災支援会議(於:足利市鳳仙寺) 15日 炊き出し(於:東松山市矢本グリーンタウン) 16日東日本大震災物故者慰霊法要並びに地藏菩薩開眼法要(於:足利市龍泉寺) 18日 托鉢(於:日光市中禅寺) 29日から30日 仏青連盟九州結集にて(於:福岡市)情報交換					
34 全国曹洞宗青年会 (全曹青)	直接支援回数		延べ日数	21	述べ参加者	476
	間接支援回数		延べ日数	5	述べ参加者	
	炊き出し:福島県郡山市 宮城県松島町 行茶:岩手県釜石市(11回)・陸前高田市・山田町(7回)大槌町 宮城県石巻市(2回)・山元町(2回)・亘理町 福島県福島市(3回)・須賀川市(2回)・郡山市(4回)・相馬市(2回)・ 新地町・国見町(2回)・伊達市 寺院:宮城県(11回) 一般:岩手県釜石市(2回) 宮城県山元町(4回)・石巻市 福島県相馬市・南相馬市					
35 いわてゆいっこ	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴 ・ 必要に応じて物資の配給 ・ 県外からのボランティア派遣 ・ 被災地の情報発信 ・ 高齢者対象運動指導ボランティア派遣 ・ 地域の運動教室コーディネート(組織運営指導) 					
36 高野山真言宗長野 宗務支所	直接支援回数	5	延べ日数	19	述べ参加者	19
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	(5月31日)~6月3日まで(4名)第5回救援ボランティア釜石 現地状況把握、がれき撤去等 13日~16日(4名)第6回救援ボランティア釜石がれき撤去、住宅清掃等 20日~23日(4名)第7回救援ボランティア釜石がれき撤去、仮設住宅へ 救援物資等の搬入手伝い 22日~25日(4名)第8回救援ボランティア釜石がれき撤去、住宅清掃等 27日~30日(3名)第9回救援ボランティア釜石がれき撤去、住宅清掃等 ②各班共実働2~3日(現地までの移動に約10時間以上かかるため)					

37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数	30	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数	3	述べ参加者	15
	1名 ずっと活動 6月15日 福岡に被災児童受入打診電話 福岡で受入協力団体を探す 支援金集め開始 6月19日 飛行機会社との折衝 会議 6月23日 福岡市・福岡県・筑前町・朝倉市後援依頼 新聞各社に後援依頼 会議					
39 宮城県曹洞宗青年 会(略称:宮曹青)	直接支援回数	6	延べ日数	6	述べ参加者	95
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3日境内片付け作業 (13教区 石巻市 洞仙寺)16名参加 8日境内片付け作業 (13教区 石巻市 多福院)17名参加 11日 月命日供養・行茶活動(3教区 七ヶ浜町 養松院)25名参加 参 列者 130名 16日境内・墓地片付け作業(19教区 山元町 普門寺)14名参加 兵庫 第二宗務所青年会 7名参加 22日 炊き出し支援(160食)(松島町品井沼農業改善センター避難所) 9 名参加 27日境内・墓地片付け作業(19教区 山元町 普門寺)14名参加 山形曹青 38名・栃木曹青 8名参加					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	7	延べ日数	8	述べ参加者	22
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	16/6/15 石巻女子高等学校 炊き出し 17/6/3~6/4 1 岩手県大槌町 労働 18/6/8 2 東松島大塩地区仮設住宅 炊き出し、心のケア、カフェ 19/6/15 3 東松島大塩地区仮設住宅 心のケア、カフェ 20/6/22 3 東松島大塩地区仮設住宅 心のケア、カフェ 21/6/25 3 東松島大塩地区仮設住宅 物資輸送、心のケア、カフェ 22/6/29 5 東松島大塩地区仮設住宅 回向、心のケア、グリーンカーテン、 カフェ					
41 茨城智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6月2日 2名 福島県いわき市 住宅の清掃・泥の除去					
46 高野山真言宗 東京青年教師会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	7
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	7日~9日 岩手県釜石市訪問 ボランティアセンターの依頼で津波被災者宅の泥出 し、田畑の瓦礫除去、集積所への搬送					

51 栃木県 日蓮宗青年会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	10
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	日にち不明 清掃奉仕					
52 高野山真言宗 山梨宗務支所	直接支援回数	2	延べ日数	4	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6月14日岩手県大槌町へ支援物資配送(クレンジングオイル、栄養ドリンク剤、缶コーヒーなど) 6月18日岩手県釜石市へ支援物資送付(とうもろこし)					
53 高野山真言宗青年 教師会 相模真友会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	18日・神奈川青年教師会主催の震災犠牲者百ヶ日法要へ会員2名が参加 宮城県南三陸町防災センター前にて読経。 以後、当会が情報を発信した支援活動は行っていない。 各会員が個人で他の団体や個人的に被災地に入り活動を行っている。					
54 東九州臨青会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	30
55 高野山真言宗 愛媛青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数	7	述べ参加者	35
	托鉢					
57 特定非営利活動法 人 災害危機管理シ テム Earth	直接支援回数	7	延べ日数	15	述べ参加者	300
	間接支援回数	1	延べ日数	20	述べ参加者	800
1～3日宮城県本吉町寺谷地区コミュニティセンター等への 「夏がけ・タオルケット」100枚配布(在宅避難者用) 4日 南三陸町「平成の森避難所」支援「夏がけ」物資発送準備 7日「平成の森避難所」「夏がけ・タオルケット」300枚配布 9日 宮城県気仙沼市本吉地区「モスバーガー」提供 18日宮城県南三陸町歌津「平成の森避難所」 「モスバーガー」提供 マレーシアより「ミネラルウォーター」14.4t(15,500本) 松山油脂より石鹼 5000個。宮城県本吉町「アース拠点」に移送 20～21日台湾 NGO 仏光会「台湾留学・育英資金」東北三県贈呈式(岩手・福島・宮城) 22～23日気仙沼市本吉寺谷地区・大谷中学校仮設住宅「無料フリーマーケット」開催 「夏物衣類 1000点・寝具 300点・日用品 200点・無添加石鹼 3000個とうもろこし 700本など」仮設住宅 186戸を対象 Earthに提供された九州教区伝道車、現地支援活動に導入する 1～20日「無料フリーマーケット」開催準備						

59 日蓮宗 岡山立正青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6月12日 檀信徒に向け御経本、CD、チャリティーバンドを販売。売り上げを義援金とする。					
63 社会慈業委員会(通称:ひとさじの会)	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	6
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>15日 炊き出しの食材等の買い出しを行う。</p> <p>16日 仙台市へ移動し、浄土宗社会福祉推進委員会スタッフと合流してNPOワンファミリー仙台・社団法人パーソナルサポートセンターを訪問し、これまでの震災支援の在り方と今後の方向性について話を聞く。その後、仙台市浄土宗慈恩寺に炊き出しの機材を搬入。仙台市内の宿にて翌日以降のミーティングを行う。</p> <p>17日 石巻市浄土宗西光寺へ移動。西光寺百箇日忌法要の準備のため、本堂内部の清掃と整備を手伝う。</p> <p>18日 西光寺百箇日忌法要のお手伝い(受付や案内、記録等)を行う。法要後、門脇中学校避難所へ移動し、子どもたちと交流(鬼ごっこやバルーンアートと一緒に遊ぶ他、野球の指導などを行った)。石巻市を出発して東京へ移動。</p>					

平成 23 年 7 月の活動団体は 37 団体

団体名	平成 23 年 7 月					
1 高野山足湯隊	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	54
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
5日 高野山真言宗播磨青年教師会より要請を受け足湯講習会をおこなう。兵庫県姫路市商工会議所 7月22日～26日、第5陣高野山足湯隊を南三陸町へ派遣。 22日 自然の家避難で足湯傾聴ボランティア。 同日 夜、自然の家避難で炊き出し(焼きうどん)300食 23日 朝、ながしず荘(長清水)で足湯傾聴。 同日 午前中、旭が丘コミュニティセンター避難所を慰問、物資支援。 同日 夜、ながしず荘避難所でボランティア交流会 24日 平成の森避難所(歌津)で足湯傾聴、炊き出し(焼きうどん)60食、かき氷320食 25日 ベイサイドアリーナ避難所(志津川)で足湯傾聴、かき氷280食 26日 弘法寺で下座行、ふりかえり。						
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	54
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
5日 兵庫県姫路市商工会議所で足湯講習会(高野山真言宗播磨青年教師会主催) 22日～26日、第5陣高野山足湯隊を南三陸町へ。						
4 埼玉第二教区 智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
7月5日から6日福島県いわき市 海星高校にて校庭清掃						
6 名古屋の坊主	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	4
	間接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	3
14日 今回のボランティアについてミーティングをしたのち、名古屋を出発(夜行バスにて) 15日 早朝に仙台駅に到着。今回は企画を実行。企画として、念珠作り、名古屋の銘菓でお茶、マッサージ師によるマッサージの3企画を行った。 途中、線香も配った。企画終了後、仙台駅に戻り、今回の企画、支援について、話し合う。その後、仙台駅を出発(夜行バスにて)。 16日早朝に名古屋着。解散。 26日 全日本仏教会から送っていただいた腕輪念珠を現地の送る計画を立て、七ヶ浜へ案内のハガキを送る。七ヶ浜町内全七箇所の仮設住宅を対象(町内全7ヶ所の仮設住宅421戸)に送った。 28日 七ヶ浜に案内ハガキが到着。到着後、現地の審査会にかけられ、配布可能か否か決定が下る。 31日 現地のNPO法人にお願いして、全戸に配布してもらう。						

7 真宗大谷派高岡教区内有志災害復興支援ネットワーク	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	5
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	直接支援岩手県大船渡市仮設住宅にてバザー・茶話会等					
8 真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク(でらボラ NAGOYA)	直接支援回数	6	延べ日数	19	述べ参加者	20
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>7月4～8日 岩手県大船渡市、陸前高田市で、「瓦礫」撤去、仙台仏青、東京教区の有志と合同で炊き出し、仮設住宅集会所での法要。</p> <p>7月10～13日 岩手県大船渡市、宮城県気仙沼で、「瓦礫」撤去、東京教区の有志と炊き出し。</p> <p>7月14～16日 宮城県七ヶ浜町 教区内の団体とともに念珠作り、マッサージ、茶話会。</p> <p>7月15～18日 宮城県仙台市、岩手県大船渡市、陸前高田市で、子どもとのコミュニケーション、茶話会、家財道具移動、「瓦礫」撤去。</p> <p>7月27日 真宗大谷派現地復興支援センター(仙台教務所内)へ、教区内有志の支援物資輸送を支援。</p> <p>7月27～28日 福島県いわき市、南相馬市で被災地域の聞き取り、ボランティア隊の打ち合わせ</p>					
9 真宗大谷派奥羽教区ボランティア有志の会	直接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	37
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>6日 岩手県大槌町浪板仮設 炊出し居酒屋・主メニュー・ビーフシチュー</p> <p>7日 岩手県山田町船越地区 青空喫茶と無料バザー</p> <p>20日岩手県大沢上条地区 無料バザー</p> <p>21日岩手県大沢下条地区 午前・青空喫茶・午後・無料バザー、念珠作り・夕方・炊出し</p> <p>30日岩手県山田町山田保育園 保育園納涼会でのお手伝い</p>					
10 高野山真言宗播磨友師会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	54
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	10
	<p>7月9日 支援物資調達</p> <p>7月11～13日 亙理町 山元町 角田市(婦人研修センター) (18名) 物資搬入(山元町 角田市) 炊き出し(そうめん流し) 足湯 傾聴活動 カフェ 角田婦人研修センター(そうめん流し 子供達と花火) 帰宅後 ○日 反省会 ミーティング (10名)</p>					

11 だるまの会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	2
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	10
	<p>現地ボランティア活動</p> <p>7月10日 1名 宮城県東松島市 仮設住宅の支援物資運搬作業</p> <p>7月11日 1名 宮城県石巻市 妙心寺派慈恩院の仏具等の泥水落とし</p> <p>義援金 7月2日 岐阜県美濃加茂市 小山寺周辺 94,000円 10名※中日新聞社会事業団の東日本大震災義援金に全額寄託。</p>					
13 大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—	直接支援回数	2	延べ日数	4	述べ参加者	46
	間接支援回数	2	延べ日数		述べ参加者	
	<p>第2便</p> <p>1日:京都の大谷大学からボランティアバスパック第2便を運行。教職員学生総勢23名を連れ、宮城県石巻市にむけ出発。</p> <p>2日:宮城県石巻市内の側溝のドロカき作業。石巻ボランティアセンターの指示を受け、指定された地域の側溝のふたを開け、中に詰まっていたヘドロを書き出し土嚢袋に詰める。</p> <p>3日:上記作業継続夕刻現地を出発。</p> <p>4日:早朝帰学</p> <p>第3便</p> <p>8日:京都の大谷大学からボランティアバスパック第2便を運行。教職員学生総勢23名を連れ、宮城県七ヶ浜にむけ出発</p> <p>9~10日:七ヶ浜の浜辺の清掃作業。七ヶ浜ボランティアセンターの指示に従い作業。夕刻現地を出発。11日:早朝帰学</p> <p>【間接支援】</p> <p>岩手県宮古市の寺院避難所より、夏物衣類その他に関する支援の要望があった。学内外に呼びかけて物資を収集し、搬送。第2・第3便バスで仙台まで運び、そこで他の団体へ引き継ぐ。</p>					
15 浄土宗神奈川 教区青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	8
	間接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	14
	<p>5日~6日</p> <p>義捐金托鉢 大本山光明寺「宗祖法然上人八百年大御忌法要」奉修期間中の境内にて浄財総額131,069円</p> <p>22日</p> <p>全国浄土宗青年会「被災寺院復興支援活動」(墓地に流入した瓦礫の撤去作業)於:宮城県石巻市門脇町・西光寺</p>					
20 浜〇かふえ(浄 土宗福島教区浜 通り組青年会)	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	毎週1日、青年会有志2名程による瓦礫撤去等の災害ボランティア(この時期になると、いわき市では災害ボランティアのニーズが減少してきた)					

22 高野山真言宗 埼玉 青年教師会有志 一同	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	個人的に、25日～27にちまで支援に行く。 お盆のためいけなかったため。					
26 真言宗智山派 埼玉 第八教区智山 青年会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	7月6日 福島県いわき市いわき海星高校にて土砂除去。1名参加 7月7日 内容は6日と同様。3名参加 7月13日 智山青年連合会を通じて義捐金送金					
28 日蓮宗東京都 西部青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	7日に気仙沼にて民家の清掃を行った					
31 神奈川 智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	神奈川智山青年会会員寺院における施餓鬼会において募金活動を行なう。					
32 埼玉第9教区 智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	7月11日 宮城県石巻市「普誓寺境内」 東日本大震災殉難者慰霊法要・復興祈願法要					
33 栃木県天台 仏教青年会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	8
	間接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	52
	7月8日 震災支援会議(於:足利市鳳仙寺) 13日 炊き出し(於:矢本グリーンタウン) 14日「みんなのとしょかん」仕分け作業(於:足利市) 20日 炊き出し(於:矢本グリーンタウン) 21日 震災支援会議(於:京都市)にて情報交換 26日 震災支援会議 (於:足利市鳳仙寺)					
34 全国曹洞宗 青年会 (全曹青)	直接支援回数		延べ日数	16	述べ参加者	213
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	行茶:岩手県釜石市(12回) 福島県相馬市・国見町(2回)・新地町 寺院:宮城県(3回)一般:岩手県釜石市(2回)					

35 いわてゆいっこ	直接支援回数	5	延べ日数		述べ参加者	50
	間接支援回数	25	延べ日数		述べ参加者	80
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴 ・ 必要に応じて物資の配給 ・ 県外からのボランティア派遣 ・ 被災地の情報発信 ・ 高齢者対象運動指導ボランティア派遣 ・ 地域の運動教室コーディネーター(組織運営指導) 					
37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数	31	述べ参加者	6
	間接支援回数		延べ日数	5	述べ参加者	50
	<p>1 名ずつと活動</p> <p>7月2日 釜石市 大槌町 役場に後援依頼 釜石カリタスジャパンに協力要請 遠野市まごころネットに協力要請</p> <p>7月10日 ボランティア会議</p> <p>7月17日 現地説明会 釜石カリタスジャパンにて</p> <p>7月23日 会議 現地の様子</p> <p>7月26日 最終事前会議</p> <p>7月29日 福岡より1名付き添い派遣</p> <p>7月30日 釜石駅集合 子ども15名 付き添い大人4名 バスにてJR新花巻駅 新幹線にて東京駅 羽田空港から福岡空港へ 福岡空港着 福岡ドームにて野球観戦 南福寺宿泊</p> <p>7月31日 福岡の子供たちと南福寺にて合宿 福岡市動物園見学 飯盒炊飯 流しそうめん</p>					
38 埼玉天台 仏教青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	9
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>6日 支援物資や作業道具などを積み込み埼玉から仙台へ移動。仙台泊。</p> <p>7日 仙台から南三陸町の石浜地区へ移動。芝刈りや側溝の土砂や瓦礫の撤去作業を行う。作業終了後、仙台へ移動。仙台泊。</p> <p>8日 仙台から南三陸町の石浜地区へ移動。前日の続きの作業を行う。 作業終了後、埼玉へと帰路につく。</p>					
39 宮城県 曹洞宗青年会 (略称:宮曹青)	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	84
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>8日 韓国曹溪宗・曹洞宗合同東日本大震災物故者慰霊法要(2教区 仙台市 林香院) 10名参加 (東北管区教化センターより随喜依頼)</p> <p>11日 日月命日法要・行茶活動(1教区 仙台市 東禅院)42名参加 参列者110名 栃木曹青15名参加</p> <p>19日 境内・墓地片付け作業(11教区 東松島市 長音寺)15名参加</p> <p>26日 墓地片付け作業 (19教区 山元町 普門寺)17名参加 栃木曹青6名・静岡曹青4名参加</p>					

40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	6	延べ日数	6	述べ参加者	13
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	23 7/5 2 石巻市～南三陸町歌津 炊き出し手伝い、物資搬送、視察 24 7/8 1 南三陸町歌津石浜地区、大塩仮設 労働、物資搬送 25 7/13 3 東松島大塩地区仮設住宅 心のケア、カフェ 26 7/20 2 東松島大塩地区仮設住宅 心のケア、カフェ 27 7/25 2 亘理郡山元町 労働、マッチング 28 7/27 3 東松島大塩地区仮設住宅 心のケア、カフェ					
51 栃木県日蓮宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	清掃奉仕					
52 高野山真言宗山梨宗務支所	直接支援回数	1	延べ日数	-	述べ参加者	3
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	7月11日 岩手県釜石市へ支所内住職3名でボランティアセンターに登録し、ボランティア支援。 内容は被災住宅の家具移動、瓦礫運搬など。					
54 東九州臨青会	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	1
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	30
	妙心寺派、現地対策本部の元活動					
55 高野山真言宗愛媛青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	35
	托鉢					
57 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	30
	間接支援回数	3	延べ日数	20	述べ参加者	200
	各方面に支援米の提供を求める。連日、全国より支援米・支援物資受入れ(日蓮宗女性教師の会・寺庭婦人会・篤志寺院) 10～15日全国から寄せられた2トンの支援米を、各戸配布用5キロ袋詰め作業 16日積み込み作業 17日気仙沼市本吉地区・大谷小学校仮設住宅「支援米・生活用品」各戸訪問配布					
59 日蓮宗岡山立正青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	7月22日 バザー開催。売り上げを義援金・災害支援金とする。					

63 社会慈業委員会(通称:ひとさじの会)	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	8
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
<p>24日 仙台市へ移動。明照会で準備した炊き出し機材を仙台市浄土宗青年会に使用してもらおうべく、ひとまず仙台市慈恩寺へ搬入。続いて、ホームレス支援全国ネットの郡山倉庫から必要物資の提供を受ける。合わせて郡山倉庫の川浪師から仙台市内の仮設住宅の情報を聞く。その後、翌日の炊き出しで必要な食材の買い出しを行う。仙台市内の宿泊所で翌日以降の活動のミーティングを行う。</p> <p>25日 石巻市へ移動し、西念寺に必要物資をおろし手近況を確認。さらに西光寺へ移動して物資をおろす。石巻駅周辺で最後の買い出しを行い、門脇中学校避難所にて炊き出しとスイカ割を行い、そのまま子どもたちと交流。石巻より仙台市に移動して宿泊。</p> <p>26日 【大船渡組】と【石巻組】の2隊に分かれて移動。【石巻組】は、門脇中学校避難所で子ども会を行い、終了後に東京へ戻る。【大船渡組】は、大船渡市の避難所で生活しながら支援を行っている方(全国ホームレス支援全国ネットメンバー)の案内のもと、大船渡市を視察。源智支援者が使用しているアセスメントシートなどの情報を収集。遠野市にある現地支援者の事務所に宿泊。</p> <p>27日 大船渡中学校仮設住宅の納涼会に参加。大雨で納涼会は中止となるが、臨時で子どもたち向けのバルーンアート教室を行う。夕方に大船渡を出発して東京へ戻る。</p>						

平成 23 年 8 月の活動団体数は 31 団体

団体名	平成 23 年 8 月					
1 高野山足湯隊	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	300
	27 日 21 世紀高野山医療フォーラムにて講演。 「仏足頂礼 高野山足湯隊」-被災地における傾聴ボランティア-					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	300
	27 日 21 世紀高野山医療フォーラムにて講演。 「仏足頂礼 高野山足湯隊」-被災地における傾聴ボランティア					
3 真言宗智山派 東京西部教区 智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	24-26 日 宮城県・岩手県 慰霊法要 清掃作業					
4 埼玉第二教区 智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	8月5日 福島県いわき市 瓦礫撤去					
6 名古屋の坊主	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	6
	5 日 「名古屋の坊主」にハガキが届きだす。8 日 念珠の梱包後、仮設住宅個人宅へ郵送開始。					
7 真宗大谷派高 岡教区内有志 災害復興支援 ネットワーク	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	8
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	直接支援宮城県七ヶ浜町にて、バザー、茶話会、お念珠作り					
9 真宗大谷派 奥羽教区 ボランティア有志 の会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	11
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3 日 岩手県大槌町浪板仮設 夕方・炊出し居酒屋					
10 高野山 真言宗 播磨 友師会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	10
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	8 月 30~31 日 山元 坂元地区 仮設 (5名 現地メンバー2 名含)					

次回支援活動打合せ 坂元公民館 岩佐参事様 足湯 傾聴活動(東田仮設 中山仮設)						
12 東京曹洞宗 青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	17
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	14
	13日 場所:代々木公園野外ステージ(インドフェスティバル 2011) 内容:東日本大震災犠牲者追悼・復興祈願法要 4月の炊き出しボランティアの際に、インドフェスティバル実行委員長の方と現地でお出会った事が契機となり実現。毎年10万人以上来場されるインドフェスティバル内において、供養法要を執り行う。 21日~23日 場所:石巻市・法山寺 北上町追分温泉避難所 内容:法山寺盆踊り大会・落語会・花火大会・ハンドマッサージ					
18 松泉寺 有志会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	3
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3日~5日床下のドロ出し					
22 高野山 真言宗埼玉青年 教師会有志一同	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	8月25日~27日まで、宮戸地区夏祭り手伝い。					
28 日蓮宗東京 都西部青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	20
	8月3日バザーを開催 売り上げ約30万円をNPO団体に寄付 慰霊法要を厳修					
31 神奈川智山 青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	神奈川智山青年会会員寺院における施餓鬼会において募金活動を行なう。募金額合計240034円 上記募金額を全真言宗青年連盟経由にて日本赤十字社に送付。					
33 栃木県天台 仏教青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	30
	8月4日 托鉢(於:日光市中善寺) 8日 托鉢(於:日光市中善寺) 8日 「みんなのとしょかん」仕分け作業(於:足利市) 24日 震災支援会議(於:栃木市定願寺) 25日 「みんなのとしょかん」仕分け作業(於:足利市)					

34 全国曹洞宗 青年会(全曹青)	直接支援回数		延べ日数	7	述べ参加者	70
	間接支援回数		延べ日数	7	述べ参加者	
	<p>「会津で遊ぼう！～こども自然ふれあい広場」を開催。東京電力福島第一原発事故による放射能汚染の影響で、野外での自由な活動が制限された地域の小学生を対象。放射線量の低い会津地方に子ども達を招待。</p> <p>第1回 3～4日 曹洞宗福島県青年会・(財)全国青少年教化協議会主催 第2回 22～23日 全国曹洞宗青年会・曹洞宗福島県青年会 行茶：岩手県釜石市 福島県相馬市・須賀川市・国見町(2回)一般：岩手県陸前高田市 宮城県山元町</p>					
35 いわてゆい っこ	直接支援回数	5	延べ日数		述べ参加者	50
	間接支援回数	25	延べ日数		述べ参加者	80
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴 ・ 必要に応じて物資の配給 ・ 県外からのボランティア派遣 ・ 被災地の情報発信 ・ 高齢者対象運動指導ボランティア派遣 ・ 地域の運動教室コーディネーター(組織運営指導) 					
36 高野山 真言宗 長野宗務支所	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	8
	<p>22日 長野宗務支所代議員による対策検討会議。</p>					
37 レインボーキ ャンプふくおか 実行委員会	直接支援回数		延べ日数	10	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数	7	述べ参加者	75
	<p>8月1日 デパート見学 久留米青少年科学館見学 筑前町移動 光照寺夕食 民泊 8月2日 夜須高原祈念の森 野外活動 バーベキュー 光照寺夕食 コンサート 民泊 8月3日 工場見学 筑前少年大使館 太刀洗平和記念館 博多に移動 ホテル宿泊 8月4日 福岡空港 出発 1名付き添い 羽田空港着 新幹線にてJR新花巻駅着 バス乗車 釜石駅着解散 8月5日 釜石市役場大槌町役場挨拶 1名福岡帰還 8月9日 大槌町 海の盆に参加のため出発 8月10日 福岡に帰還 8月23日 反省会</p>					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	9
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>29 8/5 2 東松島大塩地区仮設住宅 物資輸送 30 8/13 1 東松島大塩地区仮設住宅 物資輸送</p>					

	31 8/24 4 東松島大塩地区仮設住宅 心のケア、カフェ 32 8/30 2 亙理郡山元町 マッチング、労働					
51 栃木県 日蓮宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	清掃奉仕					
52 高野山 真言宗 山梨宗務支所	直接支援回数	1	延べ日数	-	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	8月5日 岩手県釜石市の本宗寺院へ桃20KG送付。					
55 高野山 真言宗愛媛青年 教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	35
	托鉢					
57 特定非営利 活動法人 災害 危機管理システ ム Earth	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	40
	間接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	20
	10日 仮設住宅生活支援 生活物資 宮城県本吉町「アース拠点」に移送 配布(気仙沼市) 15日 東京仏光山寺「台湾留学・育英資金」開始					
63 社会慈業委 員会(通称:ひと さじの会)	直接支援回数	2	延べ日数	3	述べ参加者	13
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	14日 東京を出発し、大船渡北小学校仮設住宅へ向かう。手作りの仮設住宅夕涼み 会に参加。ホームレス支援全国ネットが物資提供を行い、地元民生委員や教職員組合 員、学生ボランティアによる屋台、「まそびアドベンチャー」メンバーによる宝探しと共 に、パネルシアターや風船ヨーヨー釣り、バルーンアートなどを行う。夜花巻市へ移動 し、宿泊。 15日 東京へ戻る。 31日 炊き出しの機材をもって新幹線に乗り、東京を出発。仙台に向かう。仙台市内で 炊き出し食材を調達し、車を浄土宗仙台事務所にて借用。遠野市へ移動し、宿泊。					

平成 23 年 9 月の活動団体数は 26 団体

団体名	平成 23 年 9 月					
1 高野山足湯隊	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	30
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	9日 高野山真言宗富山宗務支所・自治布教団より要請を受け、足湯講習会をおこなう。 24日～27日、第6陣高野山足湯隊を南三陸に派遣。 13日 現地視察、打ち合わせ 24日 弘法寺で足湯講習会 25日 吉野沢仮設住宅(歌津)で足湯傾聴ボランティア、炊き出し(芋煮会・おにぎり)200食 26日 自然の家仮設住宅で足湯傾聴、炊き出し(芋煮会・おにぎり)200食 こうやくん(高野山真言宗イメージキャラクター) 巡礼(自然の家仮設・戸倉中学校・ベイサイドアリーナ) 27日 弘法寺で下座行、ふりかえり。					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	30
	間接支援回数	2	延べ日数	4	述べ参加者	42
	9日 富山市で足湯講習会(高野山真言宗富山宗務支所・自治布教団主催) 12日～14日、南三陸。第6陣高野山足湯隊のため、視察と打ち合わせ。 24日～27日、第6陣高野山足湯隊、南三陸へ。					
8 真宗大谷派名古屋 教区内有志災害ボラン ティアネットワーク(でら ボラ NAGOYA)	直接支援回数	3	延べ日数	9	述べ参加者	15
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	9月14～17日 福島県二本松市、相馬市、新地町で、坊さんバンド G・ぷんだりーかと協力してコンサート、炊き出し、カフェ。 9月18日 福島県相馬市で、理髪ボランティア。 9月23～26日 岩手県西和賀町で、現地寺院でのイベントでのお茶会。納棺師・医療者とともに仮設住宅の状況調査					
9 真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	40
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6日 岩手県大槌町浪板仮設 夕方・炊出し居酒屋 7日 岩手県山田町大沢地区 夕方・炊出し居酒屋 29日 岩手県宮古市白浜地区 夕方・炊出し居酒屋 30日 岩手県大槌町浪板仮設 正午2・炊出し					

15 浄土宗神奈川教区 青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	7
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	14日 全国浄土宗青年会「被災寺院復興支援活動」(墓地に流入した瓦礫の撤去作業)於:宮城県石巻市門脇町・西光寺 14日 過去3回の義捐金托鉢で集まった浄財250,913円を日本赤十字社に寄託					
18 松泉寺有志会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	28日被災者の畑の復興支援作業					
20 浜〇かふえ(浄土宗 福島教区浜通り組青年 会)	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	10
	間接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	24
	上旬よりいわき市社会福祉協議会様と仮設住宅集会所での訪問カフェ開催の調整。 中旬に青年会会員にて資材・食材等の準備やカフェの運営について検討。 28日「高久第1応急仮設住宅 第1集会所」にて初めての「浜〇かふえ」開催。 白玉ぜんざい・ポップコーン・コーヒー・ほうじ茶等の無償提供。 開催後、反省点・改善点の洗い出しや傾聴による情報の共有の為、ミーティングを行った。					
22 高野山真言宗埼玉 青年教師会有志一同	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	30	述べ参加者	
	毎朝の勤行時に、東北復興を祈る。					
33 栃木県天台 仏教青年会	直接支援回数	2	延べ日数	4	述べ参加者	5
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	13
	9月5日 「みんなのとしょかん」仕分け作業(於:足利市) 8日 「みんなのとしょかん」設置手伝い(於:宮城県亶理町) 16日から18日 復旧支援活動(於:石巻市) 27日 震災支援会議(於:栃木市定願寺)					
34 全国曹洞宗青年会 (全曹青)	直接支援回数		延べ日数	15	述べ参加者	190
	間接支援回数		延べ日数	9	述べ参加者	
	8日 「復興支援ブログ」開始炊き出し:宮城県山元町 行茶:岩手県釜石市(10回) 宮城県亶理町 福島県相馬市・国見町(3回)					

	寺院:宮城県山元町一般:宮城県山元町(2回)					
35 いわてゆいっこ	直接支援回数	6	延べ日数		述べ参加者	50
	間接支援回数	20	延べ日数		述べ参加者	70
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴 ・ 必要に応じて物資の配給・県外からのボランティア派遣 ・ 被災地の情報発信・高齢者対象運動指導ボランティア派遣 ・ 地域の運動教室コーディネート(組織運営指導) 					
37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数	3	述べ参加者	15
	9月10日 報告書作成のため会議 あいさつ回り 9月12日 会計まとめ 9月29日 報告書会議					
38 埼玉天台 仏教青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	35
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	13日 支援物資や作業道具などを積み込み埼玉から仙台へ移動。仙台泊。 14日 仙台から南三陸町の石浜地区へ移動。今回は他県の天台仏青にも声を掛け35名での作業となった為、大きな水路の土砂や瓦礫の撤去作業を行う。作業終了後、仙台へ移動。仙台泊。 15日 仙台から南三陸町の石浜地区へ移動。津波で山に打ち上げられた漁船を港に戻す作業を行う。午後からは前日の続きを行う。作業終了後、埼玉へと帰路につく。					
39 宮城県曹洞宗 青年会 (略称:宮曹青)	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	35
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	11日 月命日法要・行茶活動(4教区 名取市 セラホール名取)35名参加 参列者210名 30日 復興支援バザー前日準備(17教区 栗原市築館 双林寺)					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	3	延べ日数	4	述べ参加者	6
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	33 9/13 3 亙理郡山元町 労働 34 9/28 2 東松島市、石巻市 ニーズ調査 35 9/30~10/1 1 亙理郡山元町、石巻市、東松島市 傾聴活動、マッチング					
41 茨城智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	2

	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	9月15日 2名 福島県いわき市 住宅の清掃・泥の除去					
51 栃木県日蓮宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	清掃奉仕					
55 高野山真言宗愛媛青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	35
	托鉢					
57 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	60
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	15日 気仙沼大谷幼稚園 園児プレゼント おもちゃ・菓子 25日 仮設住宅生活支援物資配布					
63 社会慈業委員会 (通称:ひとさじの会)	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	10
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	<p>1日 遠野市を出発し、大槌町浄土宗大念寺へ移動。念佛回向の後、炊き出しを行う。大船渡へ移動。大船渡市内にある浄土宗浄願寺にて念佛回向の後、市内の仮設住宅を訪問。【帰京組】と【活動継続組】とに分かれる。【帰京組】は大船渡市を出発して仙台へ車を返し、新幹線で東京へ戻る。【活動継続組】は大船渡市の公営施設に宿泊。</p> <p>2日 浄土宗の檀信徒であり、大船渡市民生委員を務めるT氏に震災からこれまでの状況をうかがい、陸前高田市・気仙沼市・女川市などを視察しながら石巻へ移動。門脇中学校避難所にてヨーヨー釣りやバルーンアートを用いた子ども会を行う。終了後、西光寺にてお念佛回向を行い、石巻に宿泊。</p> <p>3日 西光寺にお参りをしてから仙台へ移動。仙台市内の荒井小学校用地仮設住宅へ行き、「東通秋まつり」開催地を事前視察。その後、慈恩寺とホームレス支援全国ネット郡山倉庫へ行き、おまつりに使用する輪投げを準備。仙台市の浄土宗青年会メンバーと浄土宗仙台事務所メンバーと翌日の打ち合わせを行う。</p> <p>4日 ホームレス支援全国ネット郡山倉庫へ立ち寄り、そのまま荒井小学校用地仮設住宅集会場へ向かう。椅子やテーブルの運搬など、会場設営を手伝う。おまつり内の子どものお楽しみブースを担当する。夕方にお祭りの片づけを終え、郡山倉庫に借りた機材などを返却して仙台駅へ移動。新幹線で東京に戻る。</p>					

平成 23 年 10 月の活動団体数は 33 団体

団体名	平成 23 年 10 月					
1 高野山足湯隊	直接支援回数	1	延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数		述べ参加者	
	4日 高野山真言宗主催心の相談員養成講習会で足湯講習会をおこなう。滋賀県長浜ドーム研修センター。 17日～18日第7陣高野山足湯隊のため、現地視察と打ち合わせ。南三陸町へ					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数	1	延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	3	述べ参加者	30
	4日 滋賀県長浜ドーム研修センターで足湯講習会(高野山真言宗主催心の相談員養成講習会主催) 17日～18日第7陣高野山足湯隊のため、現地視察と打ち合わせ。南三陸町へ					
4 埼玉第二教区 智山青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	10月27日 福島県いわき市 瓦礫撤去					
8 真宗大谷派名古屋教 区内有志災害ボランティ アネットワーク(でらボラ NAGOYA)	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	10月1日岩手県北上市へ支援物資輸送。 10月4日岩手県釜石市、大船渡市、陸前高田市で、現地寺院の報恩講、同朋の会などに参加し交流。 10月19日真宗大谷派現地復興支援センター(仙台教務所内)へ教区内有志の支援物資輸送を支援。 10月20日岩手県西和賀町、大槌町の寺院のイベントに参加、支援物資の配布、お茶会、子ども会。					
9 真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	56
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	8
	6日 秋田県能代市 奥羽教務所・ボランティア会議 12日 岩手県大沢地区 午後無料バザー・夕方・炊出し居酒屋 13日 岩手県大槌町浪板仮設 午後無料バザー・夕方・炊出し居酒屋 17日 岩手県山田町 山田保育園・人形劇・名古屋児連 19日 岩手県山田町 山田中学校仮設・無料バザー					
10 高野山真言宗 播磨 友師会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	30

	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	10
	10月4～6日(10名) 山元町 東田仮設集会場 芋煮会(600食) 東田地区横死者追悼法要 足湯 傾聴活動 20日(1名) 11月開催鎮魂祭の亘理地区寺院への説明 開催承認挨拶 帰宅後 ○日 反省会 ミーティング(10名)					
11 だるまの会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	16
	義援托鉢 10月8日 愛知県小牧市 眞福寺周辺 127,436円 6名 ※福島県東日本大震災災害孤児等支援金に全額寄附。 10月20日 愛知県名古屋市 大須観音周辺 62,542円 10名 ※中日新聞社会事業団の東日本大震災義援金に全額寄託					
13 大谷大学ボランティア有志 ー共に歩み隊ー	直接支援回数	2	延べ日数	4	述べ参加者	46
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	第4便 7日:京都の大谷大学からボランティアバスパック第4便を運行。教職員学生総勢23名を連れ、宮城県石巻市雄勝町にむけ出発 8日:名振仮設住宅で炊き出しと衣料品・日用品バザー。合わせて、漁具を収める倉庫建設の補助。 9日:同上 夕刻現地を出発。 10日:早朝帰学 第5便 21日:ボランティアバスパック第5便を運行。教職員学生総勢23名を連れ、宮城県にむけ出発。 22日:バザー 23日:芋煮会と名古屋音楽大学演奏会の補助 夕刻現地を出発。 24日:早朝帰学					
15 浄土宗神奈川教区青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	9
	14日 義捐金托鉢 大本山光明寺「十夜法要」奉修期間中の境内にて 浄財総額138,225円 神奈川新聞厚生文化事業団に寄託					
18 松泉寺有志会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	31日畑側溝のドロ出し					

20 浜〇かふえ(浄土宗 福島教区浜通り組青年 会)	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	35
	間接支援回数	6	延べ日数	6	述べ参加者	37
	<p>4日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 5日「高久第1応急仮設住宅 第1集会所」にて 15:00～18:00に開催 いわき市管轄の雇用促進住宅での開催の為 いわき市社会福祉協議会様との調整 11日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 12日「平山崎雇用促進住宅内 広場」にて 14:00～16:00に開催 いわき市社会福祉協議会よりテーブル・イス等の貸与を受ける 18日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 19日「下船尾雇用促進住宅 集会所」にて 15:00～17:30開催 檜葉町民が避難生活を送る仮設住宅での開催の為、檜葉町災害対策本部い わき出張所との調整 25日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 26日「檜葉町 中央台高久第9・10 応急仮設住宅 第1集会所」にて 13:00～16:30に開催</p> <p>※毎回、開催終了後、1時間程度のミーティングあり</p>					
22 高野山真言宗埼玉 青年教師会有志一同	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	20
	秋の大祭の中で、東北復興祈願をする。					
26 真言宗智山派埼玉 第八教区智山青年会	直接支援回数		延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	10月23日 福島県いわき市 解体家屋内片付け。1名参加					
28 日蓮宗東京都西部 青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3日に民家の清掃を行った					
29 日蓮宗青森県 立正青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	7
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	青森からの岩手沿岸部への移動は5～6時間はかかるので前泊をして 10月18日岩手県被災各寺院を訪れ、和讃奉唱・回向供養を捧げた					

33 栃木県天台仏教青年会	直接支援回数	2	延べ日数	3	述べ参加者	5
	間接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	26
	10月2日 震災支援会議(於:小山市光明寺) 6日 南信越仏青会長会議(於:埼玉県大宮市)にて情報交換 12日 代議員会・常任委員会(於:大津市)にて情報収集 17日~18日 復旧支援活動(於:宮城県気仙沼市) 25日 震災支援会議(於:栃木市定願寺) 26日 復旧支援活動(於:石巻市)					
34 全国曹洞宗青年会(全曹青)	直接支援回数		延べ日数	16	述べ参加者	164
	間接支援回数		延べ日数	9	述べ参加者	
	行茶:岩手県釜石市(12回) 宮城県亘理町 福島県国見町(6回)・新地町(2回)一般:宮城県山元町(3回)					
35 いわてゆいっこ	直接支援回数	7	延べ日数		述べ参加者	60
	間接支援回数	23	延べ日数		述べ参加者	80
	・ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴・必要に応じて物資の配給・県外からのボランティア派遣・被災地の情報発信・高齢者対象運動指導ボランティア派遣・地域の運動教室コーディネート(組織運営指導)					
36 高野山真言宗 長野宗務支所	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	11日同宗災害対策会議(於、東京別院)支所長出席					
37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数	2	述べ参加者	15
	10月3日 報告書会議 10月17日 今後の検討会					
39 宮城県曹洞宗青年会(略称:宮曹青)	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	37
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	143
	1日復興支援バザー(17教区 栗原市築館 双林寺)前日準備含め143名参加 来場者465名 11日 月命日法要・行茶活動(11教区 東松島市 菩提樹矢本)37名参加 参列者80名					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	3	延べ日数	13	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	

	10/13 3 東松島市グリーンタウン矢本仮設住宅 心のケア、カフェ 10/17~18 8 亘理郡山元町テラセンコーディネイト、労働 天台仏青連盟 90 名 10/28 2 東松島市グリーンタウン矢本仮設住宅 心のケア、カフェ					
41 茨城智山青年会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	10月7日 2名 福島県いわき市 住宅の清掃・泥の除去 10月20日 2名 福島県いわき市 住宅の清掃・泥の除去					
46 高野山真言宗 東京青年教師会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	6
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	18日~20日 岩手県釜石市訪問 ボランティアセンターの依頼で津波被災者宅の泥出し、 高圧洗浄作業、瓦礫除去、集積所への搬送					
51 栃木県日蓮宗 青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	清掃奉仕					
55 高野山真言宗愛媛 青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	10
	托鉢					
57 特定非営利活動法人 災害危機管理シス テム Earth	直接支援回数	2	延べ日数	7	述べ参加者	50
	間接支援回数	1	延べ日数	25	述べ参加者	80
	8日 気仙沼市本吉地区復興「芋煮会」「モスバーガー」おもちゃ提供 22日 冬物衣料「アース拠点」に移送 1~25日 気仙沼フリーマーケットにて配布物資 支援米調達					
63 社会慈業委員会 (通称:ひとさじの会)	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	8
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	11日 東京にてハーブティーやチョコ、果物等の買い出しを行う。 12日 新幹線にて新花巻に移動し、レンタカーで遠野市浄土宗善明寺へ移 動。堂内の荘厳を整えて、遠野市の仮設住宅避難者や遠野市に居住する支援 者等を招き、別時念佛会を開催。遠野に宿泊。 13日 遠野より大船渡へ移動。大船渡中学校仮設団地集会場で出前カフェ 「チョコ坊」を行う。合わせて仮設住宅生活者にニーズの聞き取りを行う。大船 渡市に宿泊。 14日 大船渡北小学校仮設住宅へ行き、大船渡北小学校児童館「ゆうゆう」に て出前カフェ「チョコ坊」を開催。片付けの後、岩手県沿岸部を視察。新花巻へ 移動し、新幹線にて東京へ戻る。新幹線内で次回活動を打ち合わせる。					

平成 23 年 11 月の活動団体数は 27 団体

団体名	平成 23 年 11 月				
1 高野山足湯隊	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者 45
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者
	4 日～7 日、第 7 陣高野山足湯隊を南三陸町へ派遣する。 4 日 自然の家仮設住宅(戸倉)で足湯傾聴ボランティア、炊き出し(芋煮会)150 食、物資支援 5 日 吉野沢仮設住宅(歌津)で足湯傾聴、炊き出し(芋煮会)150 食、カラオケ、物資支援 6 日 田ノ浦仮設住宅(歌津)で足湯傾聴、炊き出し(芋煮とサツマイモ)、物資支援(衣料品・毛布) 7 日 弘法寺で下座行、振り返り				
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者 45
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者
	4 日～7 日、第 7 陣高野山足湯隊を南三陸町へ派遣する。 18 日 NHK ラジオ第二放送「宗教の時間」- 仏足頂礼で磨く大円鏡智の心 - 放送				
8 真宗大谷派名古屋 教区内有志災害 ボランティアネットワーク (でらボラ NAGOYA)	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者 5
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者
	11 月 27～30 日 宮城県七ヶ浜町、大槌町、岩手県山田町へ支援物資輸送、念珠作り、勤行。				
9 真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者 24
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者
	16 日 岩手県宮古市 夕方・桜公園仮設・炊出し居酒屋 17 日 岩手県宮古市 午後・愛宕公園仮設・無料バザー 21 日 岩手県宮古市 午後・愛宕公園仮設・無料バザー				
10 高野山真言宗 播磨 友師会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者 69
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者 不明
	11 月 2 日 準備作業 道具 塔婆 発送作業 11 月 4～6 日 (23 名) 山元町(東田仮設) 坂元中学校 坂元ダイスキ鎮魂祭参加 東田仮設 鎮魂祭 巨理郡横死者塔婆供養 采灯護摩供 帰宅後 ○日 反省会 ミーティング				

11 だるまの会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	6
18 松泉寺有志会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
1日から2日畑の瓦礫拾い						
20 浜〇かふえ(浄土宗 福島教区浜通り組 青年会)	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	40
	間接支援回数	10	延べ日数	10	述べ参加者	42
1日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 2日「中央台高久第1応急仮設住宅 第1集会所」にて15:00~18:00に開催 7日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 9日「平山崎雇用促進住宅 広場」にて14:00~16:00に開催 14日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 16日「下船尾雇用促進住宅 集会所」にて15:00~18:00に開催 28日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 30日「檜葉町 上荒川第1・2・3応急仮設住宅 第2集会所」にて13:00~16:30に開催※ 開催場所毎に事前に関係各所との日程時間等の調整・確認あり ※毎回、開催終了後、1時間程度のミーティングあり						
28 日蓮宗東京都 西部青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
10日に民家の清掃を行った						
33 栃木県天台 仏教青年会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	9
	間接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	24
11月6日 スティールパンコンサート主催・カフェ開催(於:亶理町・矢本グリーンタウン) 7日「みんなのとしょかん」仕分け作業(於:足利市) 9日「みんなのとしょかん」設置 手伝い(於:宮城県亶理町) 10日 傾聴ボランティア活動(於:福島県南相馬市) 11 日 中央布教研修会(於:東京都大正大学)にて情報交換 20日 震災支援会議 (於:小山市興法寺) 27日 托鉢(於:栃木県岩舟町コスモホール)						
34 全国曹洞宗青年会 (全曹青)	直接支援回数		延べ日数	10	述べ参加者	132
	間接支援回数		延べ日数	14	述べ参加者	
19日 フェイスブックで発信開始行茶:宮城県山元町(2回)・亶理町 福島県 福島市・国見町(4回)・新地町一般:岩手県宮古市(3回)						

35 いわてゆいっこ	直接支援回数	5	延べ日数		述べ参加者	40
	間接支援回数	20	延べ日数		述べ参加者	70
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴 ・ 必要に応じて物資の配給・ 県外からのボランティア派遣 ・ 被災地の情報発信・ 高齢者対象運動指導ボランティア派遣 ・ 地域の運動教室コーディネート(組織運営指導) 					
37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	12
	間接支援回数		延べ日数	1	述べ参加者	7
	11月1日 釜石へ出発 報告書を持って配るため 参加児童宅訪問 11月4日 福岡帰還 月13日 現地の状況報告会					
38 埼玉天台 仏教青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	13
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	16日 支援物資や作業道具などを積み込み埼玉から仙台へ移動。仙台泊。 17日 仙台から南三陸町の石浜地区へ移動。側溝の土砂や瓦礫の撤去作業を行う。作業終了後、宿泊が可能になった近くの民宿に泊まる。 18日 側溝の土砂や瓦礫の撤去作業を行う。作業終了後、埼玉へと帰路につく。					
39 宮城県曹洞宗青年 会(略称:宮曹青)	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	40
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	11日 月命日法要・行茶活動(12教区 石巻市北上 観音樹)40名参加 参列者130名					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	4
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	39 11/22 4 東松島市グリーンタウン矢本仮設住宅 心のケア、カフェ					
51 栃木県日蓮宗 青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	12
	日にち不明 清掃奉仕 宮城県内慰霊行脚					
55 高野山真言宗愛 媛青年教師会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	21
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	10

		宮城県山元町にて(詳細は活動報告書参照)				
56 神奈川県第一部 日蓮宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	7
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	・行脚 ・供養会					
57 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	10	述べ参加者	50
	1~10日 気仙沼フリーマーケットにて配布物資 支援米調達					
59 日蓮宗 岡山立正 青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	11月28日 街頭募金を行う。募金を義援金とする					
63 社会慈業委員会(通称:ひとさじの会)	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	8
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	8日 新花巻へ移動し、浄土宗東京教区教化団メンバーと合流。遠野市へ移動し、活動の準備と現地支援団体(遠野まごころねっと等)との打ち合わせを行う。大船渡市へ移動し、大船渡中学校にてお楽しみ会(パネルシアターとチョコフォンデュ、ハーブティー等)を開催。大船渡から遠野市に戻り、宿泊。 9日 再び遠野より大船渡へ向かい、大船渡盛町付近の2か所の仮設住宅で行われる遠野まごころねっとの「おちゃっこ」支援に参加協力。大船渡より遠野を経由して、東京へ戻る。					

平成 23 年 12 月の活動団体数は 23 団体

団体名	平成 23 年 12 月					
	1 高野山足湯隊	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	50
	12 日～13 日 第 8 陣高野山足湯隊を南三陸町へ派遣する。 12 日 「被災地の声に耳を傾ける集い」を開催する。自然の家仮設住宅自治会長・ 禰宜・病院関係者・ 地元ボランティア・戸倉地区復興支援団などから話を聴く。 13 日 自然の家仮設住宅で炊き出し(芋煮会)150 食。カトリック教会(ジョシュア神父)よりサンタクロースの衣装を借りる。 23 日 スピリチュアルケア公開講座で「仏足頂礼 高野山足湯隊」講演。					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	34
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	2
	12 日～13 日、第 8 陣高野山足湯隊を南三陸町へ。 23 日、大阪太融寺でスピリチュアルケアワーカー養成講習会(JSCWA 主催) 「仏足頂礼 高野山足湯隊」					
8 真宗大谷派名古屋 教区内有志災害ボラン ティアネットワーク(でらボラ NAGOYA)	直接支援回数	2	延べ日数	10	述べ参加者	40
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	12 月 23～31 日 名古屋別院にて福島の子どもたちの家族を一時保養として受け入れるプロジェクト「福 島と名古屋をむすぶ子ども会 in 東別院」実行委員会・スタッフとして協力。 12 月 25 日 真宗大谷派現地復興支援センター(仙台教務所内)へ、教区内有志の支援物資輸送を 支援。					
9 真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	直接支援回数	3	延べ日数	9	述べ参加者	50
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	14 日 岩手県山田町 午後・山田町大沢地区・牡蠣小屋にて炊出し居酒屋 15 日 岩手県大槌町 午後・大槌町浪板仮設・山田町山田中学校・炊出し 23 日～29 日 福島学童保養 in 青森「のびのびあそぼう！青森県」 原発事故の影響で、屋外で思うように遊べない福島の子供たちを、青森 県に招待した。弘前市内の僧侶、歯科医師、一般を実行委員として、開催には 学生ボランティアも参加した。					

10 高野山真言宗 播磨友師会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	30
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	不明
	12月19～20日(15名) 東田仮設集会所 中山仮設集会所 東田仮設 クリスマス会 中山仮設 老人施設(足湯 傾聴活動) 東田仮設 足湯 傾聴活動 帰宅後 ○日 反省会 ミーティング					
17 福島中央智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	托鉢					
18 松泉寺有志会	直接支援回数	2	延べ日数	5	述べ参加者	7
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6日～8日畑の復興支援 13日～14日畑の復興支援					
20 浜○かふえ(浄土宗福島教区浜通り組青年会)	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	52
	間接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	50
	5日 浜○かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 7日「中央台高久第1応急仮設住宅 第1集会所」にて15:00～18:00に浜○かふえ開催 17日 浜○かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 18日 浜○かふえ開催・お米配布会の必要資材・食材の買い出し・準備 19日 (滋賀教区浄土宗青年会、滋賀より米運搬)事前打ち合わせ 20日「中央台高久第1応急仮設住宅 第1集会所」にて滋賀教区浄土宗青年会「米一升運動」にて 集められた佛供米の配布会と炊き出し交流会を開催 滋賀教区浄土宗青年会8名とともに住民参加型にて炊き出しの調理を行った。 その後、お米の配布会。住民100名超の参加有。 21日「下船尾雇用促進住宅 集会所」にて15:00～18:00に浜○かふえ開催 26日 浜○かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 28日「檜葉町 上荒川第1・2・3 応急仮設住宅 第2集会所」にて13:00～16:30に浜○かふえ開催 ※開催場所毎に事前に関係各所との日程時間等の調整・確認あり ※毎回、開催後、1時間程度のミーティングあり					
22 高野山真言宗 埼玉青年教師会有志一同	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	10
	星供にて、東北復興を祈る					
24 雲龍寺ボランティア会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数		述べ参加者	
	支援物資郵送(現地)					

34 全国曹洞宗青年会 (全曹青)	直接支援回数		延べ日数	5	述べ参加者	93
	間接支援回数		延べ日数	17	述べ参加者	
14~15日 (株)アトックス、コープふくしま協力の下、伊達市霊山町下小国地区(同地区には特定避難勧奨地点が存在する)、現地本部周辺、及び成林寺境内地にて除染作業を実施。 行茶:岩手県釜石市(2回)・大槌町・山田町 宮城県山元町(2回)・亶理町 福島県国見町(3回)一般:宮城県山元町						
35 いわてゆいっこ	直接支援回数	6	延べ日数		述べ参加者	50
	間接支援回数	20	延べ日数		述べ参加者	50
<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴 ・ 必要に応じて物資の配給 県外からのボランティア派遣 ・ 被災地の情報発信 高齢者対象運動指導ボランティア派遣 ・ 地域の運動教室コーディネート(組織運営指導) 						
37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数	2	述べ参加者	8
12月2日 来年度検討会 12月10日 来年度検討会						
39 宮城県曹洞宗青年会 (略称:宮曹青)	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	59
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
5日傾聴行茶活動(山元町内仮設住宅) 2名参加(全曹青活動に加担) 6日傾聴行茶活動(亶理町内仮設住宅) 2名参加(全曹青活動に加担) 11日 月命日法要・行茶活動(13教区 石巻市 梅溪寺)55名参加 参列者 500名(13教区と共催) 山形第3宗務所 10名参加						
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	10
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
40 12/11 2 岩手県一関市 千厩仮設住宅 傾聴、カフェ 41 12/13 5 亶理郡山元町テラセン コーディネイト、労働 42 12/23 3 東松島市グリーンタウン矢本仮設住宅 心のケア、カフェ						
51 栃木県日蓮宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
清掃奉仕						
55 高野山真言宗 愛媛青年教師会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	3
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	10
福島県いわき市 叶 物資配布						

57 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	12
	間接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	6
	6~7日 東日本大震災3・11市民追悼のつどい企画、打合せ会議(大船渡) 8日 仏教NGOネットワーク・セミナー報告(新宿・常円寺) ~以下「東日本追悼のつどい」企画・準備					
63 社会慈業委員会(通称:ひとさじの会)	直接支援回数	1	延べ日数	4	述べ参加者	15
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	23日 東京を出発して全青協の仙台事務所へ移動。翌日の渡波仮設住宅におけるクリスマス子供会のお楽しみ袋を準備。翌日以降の活動のミーティングを行う。仙台事務所宿泊。 24日 全青協メンバーとひとさじメンバーに加えて、文京区浄土宗心光寺住職と執事、稚内市浄土宗大林寺副住職、浄土宗仙台事務所メンバー等と合流して、渡波第二仮設住宅にてクリスマス子供会を開催。全青協メンバーによる歌の披露、子どもの遊び部屋、バルーンの着ぐるみ、チョコフォンデュ、ハーブティなど、さまざまな出し物を用意。子どもたちにはお楽しみ袋を手渡した。撤収作業を終えた後、全青協仙台事務所に戻り、翌日の活動のミーティングを行う。 25日 仙台から大船渡へ移動し、大船渡中学校仮設住宅にてクリスマスお楽しみ会を開催。ここでは、クリスマスケーキ「ブッシュドノエル」を仮設住民と作成、その後、バルーン着ぐるみ等で子どもたちと遊んだり、ネイル僧によるネイルケアを行うなど、癒しのひと時を得ていただいた。撤収後、大船渡市に宿泊。 26日 大船渡中学校仮設に立ち寄り、その後東京へ戻る。					

平成 24 年 1 月の活動団体数は 24 団体

団体名	平成 24 年 1 月					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	50
	真言宗智山派智山教化センターで足湯講習会(真言宗智山派主催)					
7 真宗大谷派高岡教区 内有志 災害復興支援ネ ットワーク	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	20
	間接支援 地元での東日本大震災を心に刻む学習会の開催 福島、宮城県より講師のお願い					
8 真宗大谷派名古屋教 区内有志災害ボランティア ネットワーク(でらボラ NAGOYA)	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	6
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	1月27~29日福島県二本松市、新地町でコンサート、カフェ、居酒屋を行う					
9 真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	7
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	12日 岩手県大槌町 小釜第4仮設・無料バザー 13日 岩手県大槌町・山田町 正午・小釜第4仮設・炊出し 午後・山田町山田中学校仮設・炊出し					
17 福島中央智山 青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	一周忌法要(被災者)					
20 浜〇かふえ(浄土宗福 島教区浜通り組 青年会)	直接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	45
	間接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	40
	3日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 4日「中央台高久第1応急仮設住宅 第1集会所および駐車場」にて「餅つき大会&浜〇かふえ」を9:00~15:00に開催 住民の方々にも餅つきの準備からご参加頂き、交流を深めて頂きました。 100名程参加あり。 9日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 11日「檜葉町 内郷白水応急仮設住宅 集会所」にて13:00~16:30に浜〇かふえ開催 16日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 18日「下船尾雇用促進住宅 集会所」にて14:00~16:00にお米配布会・浜〇かふえ開催					

	<p>23日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 25日「檜葉町 上荒川第1・2・3 応急仮設住宅 第2集会所」にて 13:00～16:00 に浜〇かふえ開催 コーヒーをご支援頂いている浄土宗南米開教区(ブラジル)日伯寺住職 佐々木上人にお越しいただき、お話を頂きました。 30日 浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備 ※開催場所毎に事前に関係各所との日程時間等の調整・確認あり ※毎回、開催終了後、1時間程度のミーティングあり</p>					
22 高野山真言宗埼玉青年教師会有志一同	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	3
	新年祈願にて、東北を祈る					
26 真言宗智山派埼玉第八教区智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	1月26日 阪神大震災の慰霊で灯された「希望の灯り」をいわきへ徒歩で運ぶという企画に賛同し、支援金を 送金。					
33 栃木県天台仏教青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	1
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	12
	1月9日 托鉢(於:佐野市薬師寺) 25日 支援物資搬送(於:矢本グリーンホール)					
34 全国曹洞宗青年会(全曹青)	直接支援回数		延べ日数	7	述べ参加者	50
	間接支援回数		延べ日数	13	述べ参加者	
	行茶:岩手県釜石市(2回) 福島県福島市・国見町(3回)・新地町 寺院:宮城県山元町					
35 いわてゆいっこ	直接支援回数	5	延べ日数		述べ参加者	50
	間接支援回数	20	延べ日数		述べ参加者	50
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴 ・ 必要に応じて物資の配給・県外からのボランティア派遣 ・ 被災地の情報発信・高齢者対象運動指導ボランティア派遣 ・ 地域の運動教室コーディネート(組織運営指導) 					
38 埼玉天台仏教青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数		述べ参加者	
	17日 石浜地区付近にある仮設住宅に不足していた日用品等を送付する。					

39 宮城県曹洞宗青年会 (略称:宮曹青)	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	9
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	11日 月命日法要 (15教区 南三陸町志津川 徳性寺・同歌津 西光寺・南三陸町防災対策庁舎)9名参加					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	1	延べ日数	7	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	43 1/22 7 山形県米沢市 労働、屋根の雪下ろし					
46 高野山真言宗 東京青年教師会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	5
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	5
	10日 募集した支援物資(衣料品・調味料類・電気あんか等)の仕分け・梱包作業 13日 福島県いわき市訪問 薄磯区災害対策本部へ支援物資寄託					
51 栃木県日蓮宗 青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	清掃奉仕					
55 高野山真言宗 愛媛青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数	2	述べ参加者	10
	托鉢					
57 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数	15	述べ参加者	60
	東日本大震災 3・11 市民追悼のつどい企画、準備					
63 社会慈業委員会 (通称:ひとさじの会)	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	3
	23日 東京から仙台へ移動。全青協仙台事務所へ宿泊。 24日 仙台市内で行われる全青協主催「グリーンケア講座」のお手伝いをする。現地支援者と交流し、情報交換を行う。仙台から東京へ戻る。					

平成 24 年 2 月の団体活動数は 27 団体

団体名	平成 24 年 2 月					
1 高野山足湯隊	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	20
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	4
	17 日 高野山真言宗の同行二人プロジェクト会議に出席する。大阪市。 22 日～23 日 第 9 陣高野山足湯隊のため、現地視察と打ち合わせ。南三陸町へ					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	3
	20 日～23 日第 9 陣高野山足湯隊のため、現地視察と打ち合わせ。南三陸町へ					
5 真言宗智山派埼玉 第四教区智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	3	延べ日数	4	述べ参加者	4
	26 日 越谷市→常総市 徒歩練行支援 1 名 27 日 常総市→土浦市 徒歩練行支援 2 名 28 日・29 日 土浦市→日立市 徒歩練行支援 1 名					
6 名古屋の坊主	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	11
	23 日 3 月に現地で配る線香とロウソクのセットを一軒ずつ封筒に入れる作業を行う					
8 真宗大谷派名古屋 教区内有志災害ボラン ティアネットワーク (でらボラ NAGOYA)	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	5
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	2 月 21～22 日岩手県陸前高田市で、子どものあそび場、居酒屋。					
9 真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	9
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	2 日 岩手県宮古市 宮古市白浜地区仮設 夕方・炊出し居酒屋 13 日 岩手県山田町 町内幼稚園に大館市名物の飴っこを配布。山田幼稚園にて餅つき開催。					
10 高野山真言宗 播磨 友師会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	一周忌法要準備打合せ 名取市内 2 回					

12 東京曹洞宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	22
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	18日～20日 場所:石巻市・西蔵寺 南三陸町歌津小野花匠園 北上町にっこりサンパーク仮設住宅集会所 内容:西蔵寺震災一周忌法要・沖縄民謡・ハンドマッサージ・法律相談					
20 浜〇かふえ(浄土宗福島教区浜通り組青年会)	直接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	60
	間接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	36
	1日「中央台高久第1応急仮設住宅 第1集会所」にて「豆まき&浜〇かふえ」を15:00～18:00に開催。 いわき総合高校家庭倶楽部の生徒が作成した「繭玉雛人形」をともに配布。 6日(浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備) 8日「檜葉町 作町一丁目応急仮設住宅 集会所」にて13:00～16:00に浜〇かふえ開催 13日(浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備) 15日「常磐下船尾雇用促進住宅 集会所」にて14:00～16:00に浜〇かふえ開催 20日(浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備) 22日「檜葉町 上荒川第1・2・3 応急仮設住宅 第2集会所」にて13:00～16:00に浜〇かふえ開催 27日(浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備) 29日「檜葉町 内郷白水応急仮設住宅 集会所」にて13:00～16:00に浜〇かふえ開催 地元TV「KFB 福島放送」の取材→3月5日放送 ※開催場所毎に事前に関係各所との日程時間等の調整・確認あり ※毎回、開催終了後、1時間程度のミーティングあり					
22 高野山真言宗埼玉青年教師会有志一同	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	12
	奈良久米寺にて仁王会をし、東北を祈る					
26 真言宗智山派埼玉第八教区智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	2月7日～9日及び2月26日～28日 「希望の灯り」徒歩練行に参加。1名					
27 曹洞宗 一步の会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	6
	18～20日 宮城県石巻市にて視察・ハンドケア					

31 神奈川智山青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	2
	福島第一教区智山青年会「希望の灯り」徒歩練行随伴					
33 栃木県天台仏教青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	2
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	22
	2月13日 震災支援会議(於:宇都宮市) 17日 「みんなのとしょかん」設置手伝い(於:宮城県石巻市) 21日 震災支援会議(於:足利市鳳仙寺)					
34 全国曹洞宗青年会(全曹青)	直接支援回数		延べ日数	6	述べ参加者	39
	間接支援回数		延べ日数	15	述べ参加者	
	行茶:岩手県釜石市(2回) 宮城県亘理町 福島県二本松市・国見町(3回)・新地町 寺院:宮城県山元町					
35 いわてゆいっこ	直接支援回数	7	延べ日数		述べ参加者	60
	間接支援回数	20	延べ日数		述べ参加者	40
	・ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴 ・必要に応じて物資の配給・県外からのボランティア派遣 ・被災地の情報発信・高齢者対象運動指導ボランティア派遣 ・地域の運動教室コーディネート(組織運営指導)					
37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数	3	述べ参加者	16
	2月6日 2回目検討会 2月10日 福岡市助成金説明会参加 2月16日 レインボーキャンプふくおか2012実行委員会発足					
39 宮城県曹洞宗青年会(略称:宮曹青)	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	25
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	11日 月命日法要(身元不明者遺骨慰霊法要)(16教区 気仙沼市斎場)25名参加					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	18
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	44 2/10 7 東松島市グリーンタウン矢本仮設住宅 心のケア、カフェ 45 2/11 1 山形市総合スポーツセンター 避難者子供スケート教室 46 2/22 10 柏山寺 東日本大震災復興祈願大般若					

41 茨城智山青年会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	8
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	2月27日 1名 徒歩練行参加 2月28日 2名 徒歩練行参加 2月29日 5名 徒歩練行参加					
55 高野山真言宗愛媛 青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	10
	托鉢					
57 特定非営利活動法 人 災害危機管理シ テム Earth	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	20
	間接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	18
	6日～7日東日本大震災3・11追悼のつどい現地打ち合わせ会議(大船渡) 「東日本追悼のつどい」～声明と二胡のしらべ～ 企画・準備 24日程農化師打ち合わせ／東京佛光山寺打ち合わせ(池袋・熊野町)					
63 社会慈業委員会 (通称:ひとさじの会)	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	東京にて震災より一年を迎える次の3月11日からの支援のための準備を行う。					

平成 24 年 3 月の活動団体数は 31 団体

団体名	平成 24 年 3 月					
	1 高野山足湯隊	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	13日～15日、第9陣高野山足湯隊、南三陸町へ派遣。 13日 弘法寺にて準備、足湯研究会 14日 自然の家仮設住宅で足湯傾聴ボランティア、炊き出し(芋煮会)200食、焼き芋 こうやくん巡業(自然の家仮設住宅～旭が丘～吉野沢仮設住宅) 15日 戸倉の小屋っこで足湯傾聴、焼きいも、こうやくん巡業(吉野沢仮設住宅～歌津商店街～小森仮設住宅)、津の宮仮設住宅、視察。					
2 宝泉寺 ボランティアの会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	24
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	13日～15日、第9陣高野山足湯隊、南三陸町へ派遣					
7 真宗大谷派 高岡教区内有志 災害復興支援ネットワ ーク	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	4
	間接支援 真宗大谷派井波別院にて 学習会時の炊き出しの練習					
8 真宗大谷派 名古屋教区内有志災害 ボランティアネットワーク (でらボラ NAGOYA)	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	20
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3月11日 名古屋別院で開催された、愛知ボランティアセンター主催チャリティーイベント で、東北被災地から仕入れた物販、支援グッズ販売、パネル展示を行った。					
9 真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	18
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	6日 岩手県山田町 午後・山田中学校仮設にて、念珠ストラップ講座 夕方・山田町大沢地区牡蠣小屋にて、炊出し居酒屋 7日 岩手県大槌町 午後・小槌第4仮設集会所にて、喫茶、法話					
10 高野山真言宗 播磨 友師会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	11日 名取市 ベルコホール 高野山真言宗主催 一周忌法要参加 12日 東田仮設 坂元地区 次回活動の打合せ等					
12 東京曹洞宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	6

	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	90
	<p>10日～12日場所:石巻市・香積寺、法山寺 内容:香積寺震災一周忌法・法山寺一周忌石巻港での読経 震災発生より、拠点とさせて頂いていた香積寺様の一周忌法要へ随喜。(11日)並びに法山寺様では遺族が書かれた「亡くなられた方への手紙」の灰を石巻港へ流しました。 26日場所:東京グランドホテル(曹洞宗宗務庁) 内容:東日本大震災復興支援講演 震災から1年が経過し、被災された方や地震の記憶を忘れないように務めることが今の私たちにとって必要であると考え震災復興支援講演を行う。 講師①石巻市北上町 西藏寺住職 青山英幸老師 ②石巻市鹿妻山 法山寺副住職 北村暁秀老師※御寺院・寺族・一般の方を含めた約90名が参加。</p>					
20 浜〇かふえ(浄土宗福島教区浜通り組青年会)	直接支援回数	6	延べ日数	6	述べ参加者	65
	間接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	40
	<p>5日(浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備) 7日「中央台高久第1応急仮設住宅 第1集会所」にて浜〇かふえを15:00～18:00に開催。 12日(浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備) 14日「檜葉町 中央台高久第8応急仮設住宅 談話室」にて13:00～16:00に浜〇かふえ開催 19日(浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備) 21日「常磐下船尾雇用促進住宅 集会所」にて14:00～16:00に浜〇かふえ開催 「平山崎雇用促進住宅 広場」にて14:30～16:00にお米配布会を開催 26日(浜〇かふえ開催の必要資材・食材の買い出し・準備) 28日「檜葉町 上荒川第1・2・3 応急仮設住宅 第2集会所」にて10:00～16:00の時間で 宮城教区浄土宗青年会による炊き出し「おくずかけ」の提供後、浜〇かふえ開催 「檜葉町 内郷白水応急仮設住宅 集会所」にて13:00～16:00に浜〇かふえ開催※開催場所毎に事前に関係各所との日程時間等の調整・確認あり※毎回、開催終了後、1時間程度のミーティングあり</p>					
22 高野山真言宗埼玉青年教師会有志一同	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	24
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3月10日～12日 東松島市野蒜地区にて医周期法要、柴灯護摩をする					
28 日蓮宗東京都西部青年会	直接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	10
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	3月10日気仙沼にて慰霊行脚&法要民家の清掃を行った					
33 栃木県天台仏教青年会	直接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	5

	間接支援回数	4	延べ日数	4	述べ参加者	23
	3月5日 復旧支援活動（於：茨城県） 8日 BNN連続セミナー（於：東京都新宿区常円寺）にて情報交換 10日 東日本大震災慰霊法要（於：日光市輪王寺） 13日 南信越仏青会会長会議（於：東京都港区）にて情報交換 14日 仏青連盟特別委員会にて（於：京都市）情報交換 29日 支援物資搬送（於：宮城県）					
34 全国曹洞宗青年会 (全曹青)	直接支援回数		延べ日数	12	述べ参加者	127
	間接支援回数		延べ日数	11	述べ参加者	
	11日 福島県伊達市・成林寺に於いて、主に被災地以外の加盟団体・個人が随喜・参列するための受け皿として、全日本仏教青年会が主催し、全曹青を主管とする「慰霊・復興祈願法要」を厳修。また、法要の様子を USTREAM でネット配信。 13日 福島市内のご寺院様指導の下、宗教者災害支援連絡会の方々と共に除染作業。 18日 成林寺に於いて、「復興慰励イベント」を開催。SVAと落語芸術協会の主催による復興応援寄席の他、三重曹青の和太鼓チーム『鼓司』と織姫太鼓、霊山太鼓の交流演奏会を実施。国見町の仮設住宅に入居されている飯舘村の住民の他、会場近隣の住民、計80人あまりが参加。 行茶：宮城県亘理町(2回)・山元町 福島県福島市(2回)・二本松市・南相馬市(3回)・新地町(2回)・国見町(3回)一般：岩手県大槌町					
35 いわてゆいっこ	直接支援回数	8	延べ日数		述べ参加者	50
	間接支援回数	20	延べ日数		述べ参加者	30
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど毎週仮設住宅に通い、住民の傾聴 ・ 必要に応じて物資の配給・県外からのボランティア派遣 ・ 被災地の情報発信・高齢者対象運動指導ボランティア派遣 ・ 地域の運動教室コーディネート(組織運営指導) 					
37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数	2	述べ参加者	15
	3月3日 レインボーキャンプふくおか2012実行委員会会議 ニーズ掘り起こしのため派遣決定 組織 マンパワー確保					
38 埼玉天台 仏教青年会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	11日 埼玉教区宗務所にて東日本大震災物故者一周忌法要を行う。					
39 宮城県曹洞宗青年会 (略称：宮曹青)	直接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	103

	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	5日 東日本大震災一周忌法要並びに復興祈願法要(仙台市 仙台サンプラザホール)84名参加 (両猊下御親修・宗務庁主催法要に加担) 来場者 1500名(宗門寺院・寺族・青年会含む)月命日法要(19教区 亶理町 長徳寺)13名参加(19教区主催一周忌法要に加担) 11日 全曹青主催 東日本大震災一周忌法要(福島県伊達市成林寺)2名参加 12日 傾聴行茶活動(亶理町内仮設住宅) 2名参加(全曹青活動に加担) 13日 傾聴行茶活動(亶理町内仮設住宅) 2名参加(全曹青活動に加担)					
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	直接支援回数	5	延べ日数	5	述べ参加者	9
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	47 3/2 2 南三陸町志津川、山元町てらせん ニーズ調査 48 3/3 1 山形市総合スポーツセンター 49 3/11 3 宮城県亶理郡山元町 普門寺 1 周忌慰霊祭 50 3/16 2 福島県福島市 南福島保育園 飲料搬送 51 3/23 1 東松島市グリーンタウン矢本仮設住宅 火事見舞い、調査					
41 茨城智山青年会	直接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	6
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	20
	3月1日 2名 徒歩練行参加 3月2日 1名 徒歩練行参加 3月10日 3名 いわき市御速夜法要の参加 3月11日 20名 東日本大震災慰霊法要					
46 高野山真言宗 東京青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	間接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	3
	7日 募集した支援物資(毛布類・座布団・調味料類)の仕分け・梱包・薄磯区災害対策本部へ発送					
51 栃木県日蓮宗青年会	直接支援回数	1	延べ日数	1	述べ参加者	
	間接支援回数	2	延べ日数	2	述べ参加者	20
	清掃奉仕一周忌法要を宮城県沿岸部随所にて					
54 東九州臨青会	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	2
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	気仙沼地福寺様での1周忌法要加担					
55 高野山真言宗愛媛青年教師会	直接支援回数		延べ日数		述べ参加者	

	間接支援回数	3	延べ日数	3	述べ参加者	30
	3月11日 松山市にて托鉢後、供養祭。新居浜市にて2回托鉢					
56 神奈川県第一部 日蓮宗青年会	直接支援回数		延べ日数	3	述べ参加者	5
	間接支援回数		延べ日数		述べ参加者	
	・一周忌法要 ・仕出し ・行脚					
57 特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	直接支援回数	1	延べ日数	3	述べ参加者	1000
	間接支援回数	9	延べ日数	9	述べ参加者	40
	「東日本追悼のつどい」～声明と二胡のしらべ～ 企画・準備 11日東日本大震災一周年「鎮魂と追悼のつどい」 二胡と声明のしらべ音楽法要(大船渡港)					
63 社会慈業委員会(通称:ひとさじの会)	直接支援回数	1	延べ日数	5	述べ参加者	5
	間接支援回数	1	延べ日数	2	述べ参加者	3
	10日 東京より新幹線で一ノ関へ移動。一ノ関でレンタカーして大船渡へ移動。地域の方の祈りの場であり、地縁の象徴ともいえる観音霊場とその祈りの道の再興を目的とする「気仙三十三観音霊場再興プロジェクト」始動。気仙三十三観音霊場現地調査を開始。霊場数か所をめぐる。大船渡泊。 11日 陸前高田市浄土宗浄土寺一周忌法要に参列。共々に念佛回向をさせていただく。午後には大船渡中学校仮設住宅集会所にてご廻向をしてほしいとの依頼があり、仮設住宅集会場にて海に向かい、住民の方々々と念佛回向を営む。その後、再び三十三観音霊場現地調査を再開。大船渡市宿泊。 12日 霊場の現地調査を行う。夕方より図書館にて資料の収集を行う。大船渡市宿泊。 13日 東海新報社や陸前高田市役所、郷土史家のもとを訪問し、情報の収集と協力の呼びかけを行う。その他の時間は、霊場をめぐる調査を進めた。大船渡市宿泊。 14日 NPO夢ネット大船渡を訪問。その後、複数の霊場をめぐった後、陸前高田市三日市公民館にて気仙念佛を伝承している女性たちより、津波の話とお念佛の話を聞き、伝承念佛を学ぶ。陸前高田市を出発して一ノ関駅へ向かう。一ノ関より新幹線にて東京へ戻る。					

月別の活動以外の特記事項

団体名	月別の活動状況以外の特記事項があればご記入ください。
4 埼玉第二教区 智山青年会	埼玉ブロック智山青年会より、福島第一教区青年会へ復興支援活動のために軽トラック寄付に協力
7 真宗大谷派高岡教区 内有志 災害復興支援 ネットワーク	北陸3県の真宗大谷派僧侶と連絡を取り合い、情報交換や意見交換を行っている
8 真宗大谷派名古屋教 区内有志災害ボランティ アネットワーク (でらボラ NAGOYA)	現在の月に1回以上は、現地での継続した活動を行っております。 現地へ赴くことが出来ない会員のために、名古屋市に居ながらにして東北とつながる方途を企画しております。 1. 福島へ安心して食べれる野菜等を輸送。 2. 被災した地域から町おこしグッズを取り寄せ、販売。 3. 東北支援バージョン「月めくり法語カレンダー」制作・配布。 4. こころに響く本の提供「いのちの図書館」プロジェクト。 5. 名古屋別院で毎年実施されている「ごぼう夏まつり」で、東北物販、被災した魚屋から仕入れたイカを調理してバザー出展。
9 真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	奥羽、仙台、山形の3教区合同による、福島のこどもたちのつどいを開催。 (2012年5月3日～5日・岩手県八幡平プータロウ村・参加者300人程)
15 浄土宗神奈川教区 青年会	・浄土宗神奈川教区並びに浄土宗神奈川教区寺庭婦人会等と連携し、神奈川県内の浄土宗寺院からの義捐金の寄託先を、浄土宗神奈川教区に一本化しました。(義捐金の分散を避けるため) ・浄土宗から各寺院へ、被災地への支援物資(毛布)供給への協力要請があった際、会員にも情報を流し、積極的協力を呼びかけました。 ・全国浄土宗青年会による「御遺跡復興基金」(被災した浄土宗寺院・浄土宗寺院檀信徒への支援に特化した義捐金)への協力を会員に呼びかけ、集まった51,488円を全国浄土宗青年会に寄託しました。
22 高野山真言宗埼玉 青年教師会有志一同	東松島市宮戸地区室浜へ使い古しの蠟燭を送り、支援を継続中。平成24年4月16日～17日 仙台にて法要
25 被災者支援チーム TEN	活動内容については、内容やニッ巢などほぼ毎日と言うのが現状でとても書ききれません。できましたら当方のブログを参照してください。「晴耕雨読で和顔愛語」
27 曹洞宗 一步の会	義援金・支援金を各団体等へ預託
29 日蓮宗青森県 立正青年会	当青年会賛助会員の上人が津波によって親を亡くした子供を支援するためにTOVOというプロジェクトを立ち上げ、チャリティーグッズを企画・販売しておりますインターネットでTOVOを検索すればご覧いただけると思います。 また県内宗門寺院や各店舗の協力のもと、グッズを販売し、その収益を「あしなが育英会」を通じて親を亡くした子供の支援に充てています
31 神奈川智山青年会	平成24年6月25日 福島県いわき市の被災地において慰霊法要を行なう。6月26日 仮設住宅において足湯ならびにお茶接待を行なう。
34 全国曹洞宗青年会 (全曹青)	・『観世ふおん』・虹の架け橋文通プロジェクト ・仮設住宅ワークショップ(アクリルたわし・ミサンガ製作) ・仏壇プロジェクト

37 レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	レインボーキャンプふくおか実行委員会は、平成23年は、レインボーキャンプふくおか2011 と銘打って活動し、平成24年は、レインボーキャンプふくおか2012 と銘打って活動しました。 それぞれ実行委員会形式で動いています。主となるメンバーは、渡辺を含め4人不動です
38 埼玉天台仏教 青年会	・役員内にボランティアチームを作り、随時石浜地区の自治会長さんと連絡を取り合い、毎月の役員会時に現地の様子やニーズを報告し、必要な支援物資や今後の活動方針を話し合った。
40 TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	山形県復興支援会議、支援者交流会、JCNミーティング等々に積極的に参加しました。コーディネイトをしていたこともあり、上記に記載されていないが、ニーズ調査とマッチングでたびたび被災地を訪れました。
41 茨城智山青年会	各所への義援金支援
57 特定非営利活動法 人 災害危機管理シ ステム Earth	東日本大震災後、日蓮宗各管区にて災害についての意識が高まり、全国で講演活動を行う 主な開催地： 熊本県・大分県・福岡県・長崎県・和歌山県・岡山県・福井県・愛知県 埼玉県・千葉県・栃木県・兵庫県・茨城県・静岡県・大阪府・東京都など 各教区・管区宗務所、社教会、布教師会より依頼 日蓮宗宗務院内防災研修会（講師担当団体）毎年12月開催
59 日蓮宗 岡山立正青年会	平成24年5月～11月 直接支援回数 1回 延べ日数 1日 延べ参加者 10名 間接支援回数 3回 延べ日数 3日 延べ参加者 30名
61 臨済宗妙心寺派 東北教区第二部 宗務支所	震災以後、部内寺院より檀家様へ義援金、物資の提供をお願いしました。

表 2-7-1 震災発生から1年間の活動状況（月別）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動 団体数	43	48	50	52	37	31	26	33	27	23	24	27	31

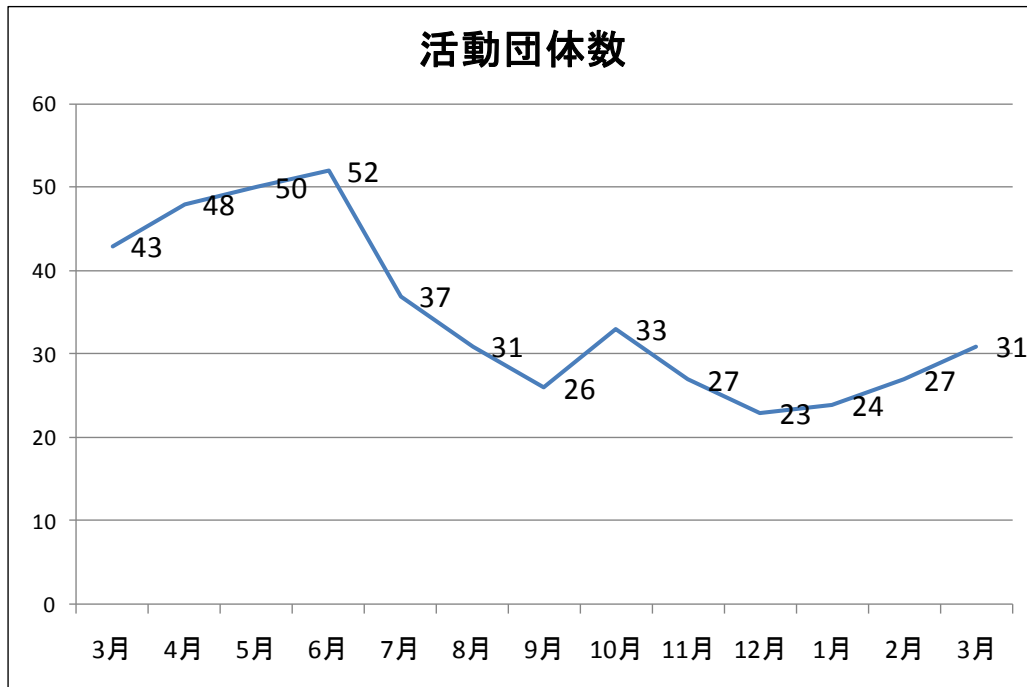


図 2-7-1 震災発生から1年間の活動状況（月別）

問 2-7-1 は、震災発生から1年間の活動状況についての質問であり、有効回答団体の月別の活動団体数を示している。震災発生月から6月までは被災地域への交通機関の復旧や具体的な支援が求められていたため活動団体は52団体までになった。一方7月以降は減少したが、7月から翌3月までの平均活動団体は28.7団体で、継続的な支援を実施していた。

表 2-7-2 震災発生から1年間の活動状況（月別詳細）

* 「最小」値は、「0」を除いた最小値として算出した。

* 「1 はじめに」で述べているように本データには、非公開分の数値も含まれている。

平成23年3月			平成23年4月			平成23年5月		
直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者	直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者	直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者
件数 24	件数 23	件数 25	件数 37	件数 38	件数 39	件数 36	件数 39	件数 38
最高 15	最高 15	最高 1300	最高 15	最高 30	最高 635	最高 10	最高 31	最高 362
最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1
平均 3.58	平均 4.52	平均 84.76	平均 3.32	平均 6.29	平均 42.18	平均 2.58	平均 5.56	平均 29.76

平成23年6月			平成23年7月			平成23年8月		
直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者	直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者	直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者
件数 39	件数 42	件数 42	件数 26	件数 26	件数 27	件数 21	件数 21	件数 22
最高 8	最高 30	最高 476	最高 6	最高 31	最高 213	最高 5	最高 10	最高 88
最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1
平均 2.82	平均 5.69	平均 37.93	平均 2.15	平均 5.38	平均 27.37	平均 1.90	平均 3.24	平均 21.27

平成23年9月			平成23年10月			平成23年11月		
直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者	直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者	直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者
件数 17	件数 17	件数 17	件数 24	件数 23	件数 22	件数 24	件数 24	件数 24
最高 6	最高 15	最高 190	最高 7	最高 16	最高 164	最高 5	最高 10	最高 180
最低 1	最低 1	最低 2	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1
平均 1.76	平均 3.35	平均 31.71	平均 1.75	平均 3.30	平均 24.00	平均 1.54	平均 2.58	平均 30.00

平成23年12月			平成24年1月			平成24年2月		
直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者	直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者	直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者
件数 18	件数 18	件数 18	件数 9	件数 9	件数 8	件数 17	件数 17	件数 18
最高 6	最高 10	最高 93	最高 5	最高 7	最高 50	最高 7	最高 7	最高 111
最低 1	最低 1	最低 3	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 2
平均 2.11	平均 3.39	平均 30.72	平均 1.89	平均 3.00	平均 21.63	平均 3.00	平均 3.18	平均 30.50

平成24年3月		
直接支援回数	直接支援日数	直接支援参加者
件数 26	件数 27	件数 27
最高 8	最高 12	最高 1000
最低 1	最低 1	最低 2
平均 2.27	平均 3.26	平均 60.11

平成23年3月			平成23年4月			平成23年5月		
間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者	間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者	間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者
件数 24	件数 22	件数 22	件数 32	件数 31	件数 31	件数 21	件数 20	件数 20
最高 16	最高 20	最高 700	最高 15	最高 15	最高 2000	最高 28	最高 20	最高 200
最低 1	最低 1	最低 4	最低 1	最低 1	最低 2	最低 1	最低 1	最低 1
平均 4.17	平均 4.41	平均 61.91	平均 3.28	平均 3.81	平均 95.35	平均 3.95	平均 3.90	平均 38.55

平成23年6月			平成23年7月			平成23年8月		
間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者	間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者	間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者
件数 18	件数 20	件数 18	件数 16	件数 15	件数 16	件数 15	件数 16	件数 16
最高 4	最高 20	最高 800	最高 25	最高 20	最高 200	最高 25	最高 7	最高 300
最低 1	最低 1	最低 7	最低 1	最低 1	最低 3	最低 1	最低 1	最低 6
平均 2.00	平均 3.80	平均 65.50	平均 3.50	平均 3.73	平均 42.25	平均 4.20	平均 3.81	平均 63.69

平成23年9月			平成23年10月			平成23年11月		
間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者	間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者	間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者
件数 13	件数 14	件数 11	件数 20	件数 20	件数 20	件数 14	件数 15	件数 12
最高 20	最高 30	最高 70	最高 23	最高 25	最高 173	最高 20	最高 14	最高 70
最低 1	最低 1	最低 13	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 1	最低 6
平均 4.00	平均 5.64	平均 30.55	平均 3.30	平均 3.90	平均 39.50	平均 3.64	平均 3.67	平均 22.75

平成23年12月			平成24年1月			平成24年2月		
間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者	間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者	間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者
件数 16	件数 16	件数 15	件数 15	件数 16	件数 16	件数 16	件数 17	件数 17
最高 20	最高 17	最高 80	最高 20	最高 15	最高 100	最高 20	最高 15	最高 40
最低 1	最低 1	最低 2	最低 1	最低 1	最低 3	最低 1	最低 1	最低 2
平均 3.94	平均 4.13	平均 31.80	平均 2.73	平均 3.06	平均 27.50	平均 2.69	平均 2.88	平均 12.00

平成24年3月		
間接支援回数	間接支援日数	間接支援参加者
件数 16	件数 17	件数 17
最高 20	最高 11	最高 90
最低 1	最低 1	最低 3
平均 3.75	平均 3.18	平均 27.82

問3. 今後の活動について

問3-1 貴団体では、現在も震災支援活動に取り組んでいますか。

はい いいえ (どちらかに○を記してください)

表3-1 現在も震災支援活動に取り組んでいるか

	回答数	%
1.はい	49	75.38%
2.いいえ	13	20.00%
未記入	3	4.62%
合計	65	100.00%

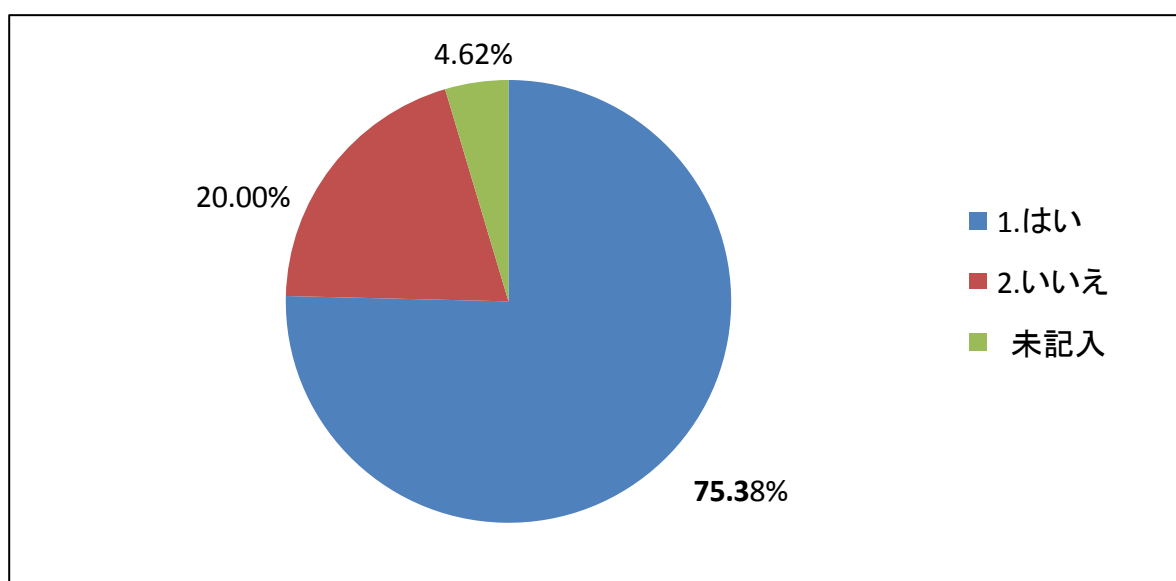


図3-1 現在も震災支援活動に取り組んでいるか

問3-1は、東日本大震災の支援活動に現在も取り組んでいるかを問う質問であり、「はい」が49件(75.38%)、「いいえ」が13件(20.00%)、未記入が3件(4.62%)であった。

問3-2. 今後の活動について

No	団体名	問3-2 今後の活動について
1	高野山足湯隊	地元のニーズに寄り添うかたちで、引き続きボランティア活動をおこなう予定です。
2	宝泉寺 ボランティアの会	高野山足湯隊とともに南三陸町で足湯傾聴ボランティアを継続していきたいと考えています。
4	埼玉第二教区 智山青年会	仮設住宅でのお盆供養(精霊棚を作り供養
6	名古屋の坊主	なかなか現地に足が運べないため、他団体と協力して支援を続け、私たちの団体として年に一回、3月11日前には現地に線香とロウソクを届けにいきたい。
7	真宗大谷派高岡教 区内有志 災害復 興支援ネットワーク	今まで通り、被災地での炊き出しやお念珠作りを通して、被災者との関係を築いていく。また福島の子どものいのちを守るため、真宗大谷派関係と連携をし、保養事業を進めていく
8	真宗大谷派名古屋 教区内有志災害ボ ランティアネットワ ーク(でらボラ NAGOYA)	今後も出来る限り長く今までの活動プロジェクトを続けていくつもりです。福島では、活動の場を絞りながら、より深く関わり続けていきたいと思えます。宮城・岩手の方は、向こうの状況に応じて、向こうのニーズを聞きながら、出来ることをその都度考えて、関わり続けていくつもりです。
9	真宗大谷派奥羽 教区ボランティア 有志の会	主に炊出しを中心とした支援活動を行っていき、みんなが出会う場をつくって行きたい。
10	高野山真言宗 播磨 友師会	当会では、仮設住民に対しての支援活動が24年4月以降困難になっているため(社協が支援センターに移り、各支援活動に対して決まり等が多くなり、私達の様な団体が入り難くなった。)同宗活動団体や宗団対策本部と話し合い、活動拠点にプレハブを設置 広場も設けて「こうやくん広場 ハウス」と命名、此所を拠点として各仮設の方々を送迎し傾聴活動を行っている。 又、拠点地区の活性化を目標に地区外に出られた方々を呼び戻す等の活動も行っております。
11	だるまの会	24年度3月以降もおかげさま托鉢を継続し、妙心寺や各地に義援金として、送っています。会員個人としては、岩手県の釜石観音や宮城気仙沼の地福寺の一周忌法要など、個々に慰霊法要に参加をしました。 また、本年4月より、だるまの会が協賛となり、東日本震災支援の会として、坐禅和讃写経による、祈りの塔建設事業を後援してきました。 全国の臨濟宗、黄檗宗寺院を始め、各檀信徒の多大なご協力により、気仙沼市の地福寺様境内に祈りの塔を建立することができました。 来年3月8日には、祈りの塔の開眼供養と震災三回忌法要を気仙沼市の地福寺にて、厳修いたします
12	東京曹洞宗青年会	① 他団体と協力し合い、また現地寺院との連絡を取り合い当会が力になれる部分を探していくと同時に現地活性化のための活動を行う。 ② 会員を小グループに分け、複数回支援に参加できる体制をとる。 ③ 三回忌法要など、今後の継続的な心のサポートを行う予定。
13	大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—	すでに平成24年3月以降、第6・7・8便と、同様にボランティアバスパックを運行しております。活動内容は第6便が石巻市山元町仮設住宅での食事提供とお茶会など、第7便は、復興支援センターに届けられていた支援物資の整理作業。第8便が、岩手県大船渡市での炊き出しとお茶会、宮城県仙台市若林地区寺院の清掃作業です。今後も継続的にボランティアバスパックを運行し、教職員学生有志を現地に派遣したいと思っています。

15	浄土宗神奈川教区 青年会	・震災義捐金箱設置(各寺院)・本山行事に於ける托鉢 ・震災支援事業の企画
16	宮城智山青年会	宮城智山青年会の上部団体・宮城教区における災害発生時の連絡網整備、 同じく各寺院における備蓄品の配備計画 救援活動の実施計画 上記についての協力
20	浜〇かふえ(浄土宗 福島教区浜通り組 青年会)	震災だけでなく、原発事故による避難という特殊な状況により、避難生活は 長期にわたることが予想される。今後も継続的にかつ定期的に仮設住宅やみ なし仮設を訪問させていただき、カフェという形を通して被災者の皆様との交流 を図り、また住民同士の交流を深めていただきたいと思います。 徐々に、ただ与えるだけの支援の形は行政側からも敬遠される傾向があり、 避難生活を送る方々の自立へ向けた動きを妨げることのないような心配りも求 められてきています。 手芸教室やにおい袋作り、入浴剤作りのような住民の皆さんが手を動かしま ながらお喋りできるようなものや、落語やお笑いなどの「笑い」を提供できる方と ともに「かふえ」を開設できたらと考えております。
21	宗教法人 妙興寺	平成25年3月7日(木)宮城県慈福寺にて東日本大震災気仙沼地蔵菩薩開眼 供養及び三回忌法要を行なう。
22	高野山真言宗 埼玉青年教師会 有志一同	我々の活動の根幹は、宗教者としてできる活動をすること、異折ること、供養 することはお金が無くてもできる支援だと思うので、現地に行って祈る姿を見せ て安心を与えることが大切だと思います。
23	名取市仏教会	必要に応じて
25	被災者支援チーム TEN	被災者の内職支援、物質援助 被災地の学校、保育所への支援
27	曹洞宗 一步の会	復興イベント 学生をつれての現地視察 ボランティア
29	日蓮宗青森県 立正青年会	平成24年度は、唱題行脚による義援金の勧募 岩手県青年会・岩手県内NPOと協力し傾聴や子供たちとの関わりへの参加
31	神奈川智山青年会	今後も、神奈川智山青年会会員寺院における施餓鬼法要において、募金活動 を行なう予定。また、被災地での物故者慰霊法要も行なう予定。
33	栃木県天台 仏教青年会	毎月第4木曜日に、矢本グリーンタウンにてキルティング教室を開催。今後もッ スティールパンコンサート主催を各所にて開催。支援物資搬送などにより、引 き続きや元グリーンタウン仮設住宅内の方を重点的に支援を行なう。
34	全国曹洞宗青年会 (全曹青)	①仮設住宅コミュニティ支援(行茶活動;サロン活動)と除染活動(ストックヤ ード整備事業) 復興支援のコミュニティ形成のイベントや除染活動などに使用する資機材を整 備し、同時にこれらの資機材をストックする物置を設置し、次の災害時におい て、貸し出しもしくは活動の際に使用するストックヤードを各地に整備する。 検証も兼ねた第一弾の整備を福島で行う予定。 ②地域のお寺などの施設を活かした、コミュニティと生活の中のこころの安らぎ 支援 これまで、避難所及び仮設住宅での行茶活動により、傾聴・コミュニティサロ ン活動を展開してきた。震災より1年8ヶ月が経過しようとする中で、仮設住宅の 住民と周辺住民にまだまだ微かな温度差がある。 また、仮設住宅の期間延長も避けられない。そのため、仮設住宅のコミュニ ティだけではなく、地域としてのコミュニティを考える必要がある。これは地域の 人が地域の課題を自分たちで見つけ、自分たちで解決していく地域のエンパ ワーメントを高めることにつながり、それは、自死の問題や孤立防止につな がることを目的とする。

		<p>③積極的な外部折衝と開かれた活動(連携と協働) 各種団体との支援の連携と協働は、被災地住民主体、地域主体のために必要であるとの観点から、各種支援者会議や研修に積極的に関与し、当団体だけの活動でなく、当団体が学ぶべきことは学び、ノウハウが必要とされれば提供をしていく。</p> <p>④研修会などを実施し、会員の活動の質を高めると同時に、防災意識の啓発を行う。</p> <p>発災直後より、福島県伊達市霊山町に「全曹青災害復興支援現地本部」を設置し、ここを拠点に情報収集と現地での活動調整を行ってきた。</p> <p>現在も、福島県内各地をはじめ、岩手県、宮城県においても各種支援活動を展開している。</p> <p>活動の主体である行茶(傾聴)活動は、地域の繋がりを強めていく触媒になるとともに、居住者の心のケア及び、ニーズの聴き取りができるという側面を持っている。</p> <p>そこから得られた情報を行政や社会福祉協議会と共有しつつ、肌理の細かい対応を図りながら、少しでも居住者の生活環境の改善、心の不安解消ができるよう活動を続けていく所存である。</p>
35	いわてゆいっこ	今後もこれまでのように被災地の地域づくりと住民に密着した支援を続けていきたい。
36	高野山真言宗 長野宗務支所	震災1年後程から現在まで釜石教会と協働して、(今も続行中) 被災地NPO協働センターの「まけないぞう」(タオルを象の形に縫い合わせた壁掛けタオル)の販売協力、材料のタオルの募集などの間接的支援を行っている。
37	レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	今年も同じく活動しました。被災地の教育委員会からは、今後、保護者は修学旅行の積み立ても出来なくなり、県外の学習が出来ないだろうから、息長く続けて欲しいとの要望がありました。 金銭的にも今後苦しくなっていくだろうと思われる中、どのような方法がベストかは被災地の方々と話し合っただけです。また、被災地児童のPTSDを含め、メンタルにも対応できるこちら側の学習も必要です。被災地児童受入に関していえば、福島の子供も達が今後保養地としての受入が重要課題となるだろうから、それに関してどうして行くべきだろうか？
38	埼玉天台 仏教青年会	これまでは土砂や瓦礫の撤去作業など労働系の支援を主として活動してきたが、今後は下記のような活動を一緒に行うことで、その結果、傾聴活動などの心のケアとなればと考えている。 平成24年の活動報告 4月 ワカメなどの収穫と加工作業の手伝い。 7月 石浜集会所にて石浜地区や近隣の方々を対象にお祭りを開催。(約100名来場) 10月 漁師さんの船に乗せて頂き、鮭漁の手伝い。
39	宮城県曹洞宗 青年会	・亡き人への手紙 震災により不幸にもお亡くなりになられた方々への思いを手紙に書いて頂き、心が整理され、自らが新たな一歩を踏み出すきっかけとなる事を目的とする亡き人への手紙を募集している。ポスター・チラシを作成し、県内寺院・特別会員施設、仮設住宅などに配布し広報をしている。尚、集まった手紙は開封せず、当会主催の震災三回忌法要にてお焚き上げ供養をする。 ・慰霊行脚 津波被災の沿岸部を歩きながら読経し、震災物故者への慰霊と、ご遺族・地域の方々の安穩を目的とする慰霊行脚を行っている。一回目慰霊行脚を平成24年7月28日(土)に気仙沼市内にて行った。また、二回目を同9月15日(土)

		<p>に石巻市内にて行った。</p> <p>・東日本大震災物故者三回忌法要 平成25年3月1日に第5教区柴田町洞昌寺にて「萬燈供養」にて行う。その際、上述した「亡き人への手紙」のお焚き上げ供養を行う。</p> <p>・研修会 「行茶活動の意義とこれまでの活動とこれからの活動を考える」と題し、平成24年7月5日に研修会を行った。</p>
40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	<p>昨年度は被災地での活動が主でしたが、今年度は県内での活動。県内へ放射能から逃れるために自主避難されてきた方の生活支援の方へ変わりつつあります。</p> <p>被災地では昨年同様、支援物資を届けたり、傾聴、または顔を出したりという事は津続いております。</p> <p>今年度は、山形県米沢市に子供が放射能を気にせず外で遊ぶ場所作りを行ってまいりました。10月26日に仮オープンし、アウトドアなイベントを行いました。約20組の親子さんにご参加いただきました。これから雪の季節になるため、来年度から本格的にオープンを計画しております。</p>
41	茨城智山青年会	托鉢 慰霊法要 ボランティア活動
46	高野山真言宗 東京青年教師会	・福島県いわき市を中心に、支援物資の募集と配給、児童向けの学習支援とレクリエーション活動、茶話会や体操による仮設住宅生活者の交流促進活動を継続中。
51	栃木県日蓮宗 青年会	<p>当会が所属する日蓮宗栃木県宗務所管内の高根沢地区の定期的な清掃奉仕(全壊寺院内・その近隣)会員各自坊での回向・祈願</p> <p>3月6～7日には檀信徒を連れて被災地慰霊団参を予定しております。</p> <p>今後も避難勧告が解除されるまでは清掃奉仕を活動していきます。</p> <p>また、母体である全国日蓮宗青年会主催の慰霊活動には奮って参加してまいります。</p>
52	高野山真言宗 山梨宗務支所	<p>季節の農作物などを定期的に現地の本宗寺院を介して、支援物資を被災者の方にお届けする。</p> <p>托鉢などで檀信徒より現地で今必要な支援物資を寄進いただき、現地に送付する。</p>
55	高野山真言宗 愛媛青年教師会	・毎月11日の支援金托鉢の実施 ・平成25年3月10日～12日福島県いわき市へ、物資配布、物故者三回忌法要 ・以降も、義援金と支援物資をいわき市へ送付していく
56	神奈川県第一部 日蓮宗青年会	慰霊法要 三回忌に石巻市法音寺、飛び地に慰霊塔建立。開眼法要を行う。
57	特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	<p>仮設住宅への生活支援物資配布 季節衣料の配布 平成25年3月11日 ～3・11【喪と復興の事業】～</p> <p>「東日本大震災二周年市民鎮魂と追悼のつどい」開催(岩手県山田町)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅へのモスバーガーの提供(午前) ・山田町「善慶寺」声明と二胡のしらべ音楽法要 ・山田港魚市場岸壁にて「希望の鐘」散華供養(津波到達時刻) <p>(散華の華葩は水溶性の紙を使用しています)</p>
58	臨済宗青年僧の会	震災を踏まえた上で、これからの寺院ならびに宗教者のあるべき姿を考えるため、被災地域の宗教者や医師などを講師として招き、震災に関連したシンポジウムを開催していきたい。
59	日蓮宗 岡山立正青年会	<p>災害対策支援金への寄付 NPO 認定『災害救援コーディネーター』の資格者2名を養成</p>

63	社会事業委員会(通称:ひとさじの会)	今年度は、下記の活動方針に順じた活動を行う予定である。すでに陸前高田市や住田町、大船渡市観光物産協会、地元新聞社東海新報社からも力強い応援をいただきながら活動を進めている。古くから心のよりどころとなっている観音霊場と祈りの道の再興が、被災地域の方々の心と産業の支えになるものと信じ、今後も活動を続けていく所存である。
64	東京南部日蓮宗青年会	日蓮宗東京南部社会活動部会と連動をして、被災地での傾聴ボランティアへの参加。 被災地寺院での東日本大震災物故者慰霊法要への出仕。 被災地での東日本大震災物故者慰霊唱題行脚。 その他の支援活動にも必要に応じて参加予定

問3-3 問3-1で「いいえ」に○を記した方のみお答えください。
どの時点で活動を完了しましたか、またその理由をお教えてください。
(該当するもの全てに()に○をつけてください。複数回答可)

表3-3 活動終了の理由

選択肢	回答数	%
1. 当初の目的を達成し、活動継続の必要性がなくなった	2	12.50%
2. 活動継続の必要性は感じているが、具体的なノウハウがない	3	18.75%
3. 活動継続の必要性は感じているが、人材がない	4	25.00%
4. 活動継続の必要性は感じているが、予算がない	2	12.50%
5. その他【具体的にご記入ください】	5	31.25%
小計	16	100.00%

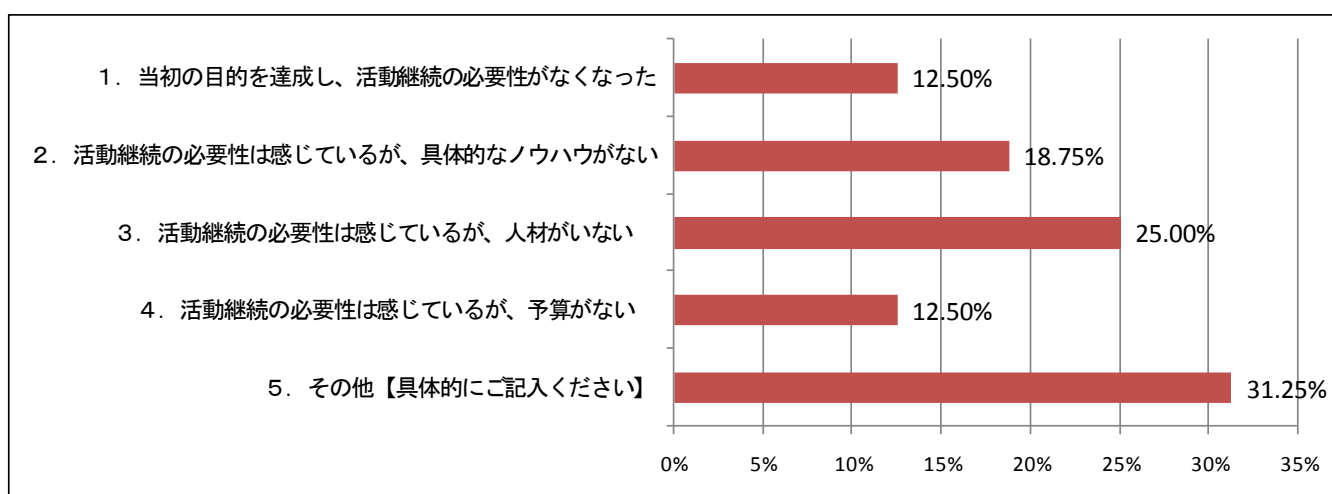


図3-3 活動終了の理由

問3-3は、「問3-1」で現在は震災支援活動に取り組んでいない（「いいえ」）に回答した団体に対する質問で、どの時点で活動を完了したのかを問う質問であり、「5. その他」が5件（31.25%）と最も多く、「3. 活動継続の必要性は感じているが、人材がない」が4件（25.00%）、「2. 活動継続の必要性は感じているが、具体的なノウハウがない」が3件（18.75%）、「1. 当初の目標を達成し、活動継続の必要性がなくなった」が2件（12.50%）、「4. 活動継続の必要性は感じているが、予算がない」が2件（12.50%）であった。

問3-3 活動中止の理由

5. その他（ ）【具体的にご記入ください】【自由記述】

No	団体名	記述内容
5	真言宗智山派埼玉第四教区 智山青年会	他団体の要請があれば、その都度人員を募って、活動している。完了したわけではない。
24	雲龍寺ボランティア会	個別の活動に移行したため(支援活動及び募金) 各個人
26	真言宗智山派埼玉第八教区 智山青年会	これまで連携して活動していた被災地元青年会から要請が、無くなった。 今後は、独自の活動を展開することが課題であろう。
28	日蓮宗東京都西部青年会	震災から1年が経ち一区切りとした
61	臨済宗妙心寺派 東北教区 第二部宗務支所	現地での需要が分からず、外部からの活動方法、必要なものが分からない。自分のお寺では義援金のお願いは継続中

問4. 今後の課題について

問4-1 今回の震災支援活動を通じて、明らかになった課題についてお教えてください。
(該当するもの全てに()に○をつけてください。複数回答可)

表4-1 今回の震災支援活動を通じて、明らかになった課題

選択肢	回答数	%
1.支援活動を担う人材不足	31	16.67%
2.支援活動を実施するための資金不足	32	17.20%
3.支援実施のためのノウハウの不備	24	12.90%
4.上部団体などのバックアップの不足	17	9.14%
5.行政とのトラブル	5	2.69%
6.距離や時間などの制約によるモチベーションの低下	23	12.37%
7.被災地側と支援者側のミスコミュニケーション	15	8.06%
8.被災者のニーズと支援団体側のタイムラグ (時間の経過によるニーズの変化)	20	10.75%
9.支援者側の問題ではなく、他団体などに起因するトラブル	4	2.15%
10.その他	15	8.06%
合計	186	100.00%

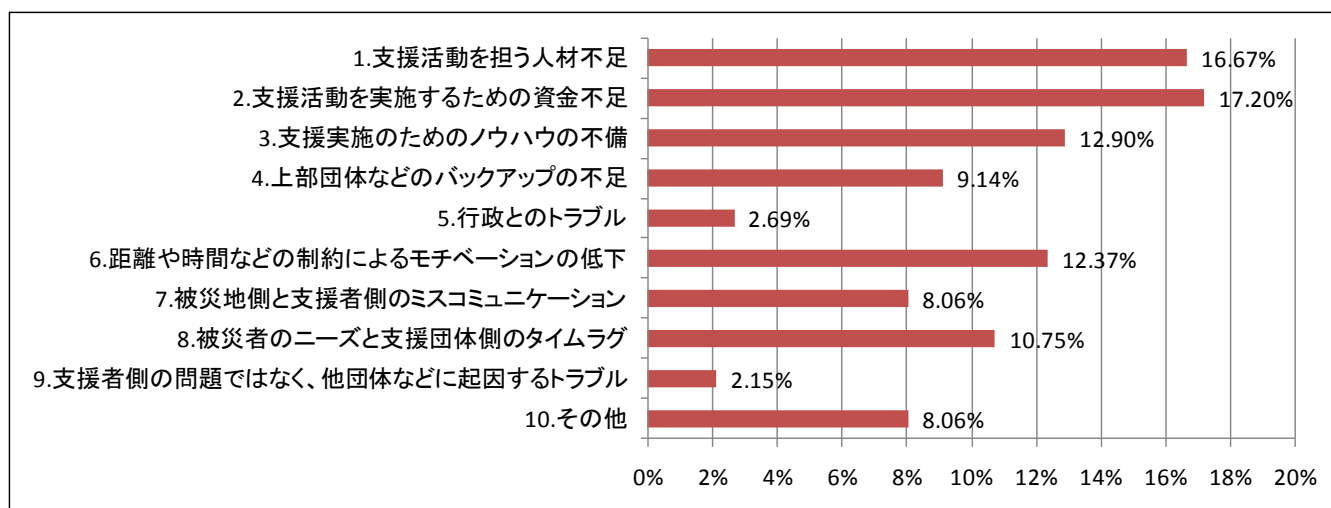


図4-1 今回の震災支援活動を通じて、明らかになった課題

問4-1は、今回の震災支援活動を通じて、明らかになった課題について、複数回答形式で問う質問であり、「2. 支援活動を実施するための資金不足」32件、17.20%、「1. 支援活動を担う人材不足」31件、16.67%、「3. 支援実施のためのノウハウの不備」24件、12.90%と「人・物・金」の3要素の不足が明らかになった。また、「6. 距離や時間などの制約によるモチベーションの低下」23件、12.37%、「4. 上部団体などのバックアップの不足」17件、9.14%、「7. 被災地側と支援者側のミスコミュニケーション」15件、8.06%になっている。

問4-1 今回の震災支援活動を通じて、明らかになった課題

10. その他 () 【下記の自由記述欄に、具体的にご記入ください】【自由記述】

No	団体名	記述内容
1	高野山足湯隊	支援する人をケアする必要があるように感じました。
2	宝泉寺ボランティアの会	人が人を支援する事のむつかしさを痛感しました
8	真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク(でらボラ NAGOYA)	課題は色々あると思うが、特に遠くて時間と費用がかかる事が一番大きい。自分たちで出来る事を、出来る限りするしかない。
11	だるまの会	だるまの会は任意の会で、自坊の仕事優先で会員個人が無理のないように活動してきましたので、どうしても、参加人数は限られました。
12	東京曹洞宗青年会	大きな問題はございません。
13	大谷大学ボランティア有志—共に歩み隊—	私たちの活動に関しては、基本的に大きな問題を感じておりません。もちろん十分な支援ができないという思いは毎回強く残りますが、それがまた次の活動への原動力となっています。私たちの活動形式は、バスパックを企画するたびにスタッフメンバーを募集します。学内でも周知され、募集をかけるとすぐに定員をオーバーしてしまいます。そのような形式での活動であるため、支援実施するためのノウハウを有しない学生が多いという問題も若干ありますが、素人の学生たちの不器用な活動を、現地の皆さんは温かく見守ってくださっています。完全有志の活動であるため、制約も少なく自由に活動できています
22	高野山真言宗 埼玉青年教師会有志一同	熊谷市役所に、交通費無料の申請に行ったがNPOかNGO又は現地からの依頼がないと無料交通許可証は発行できないと言われた。宗教法人が分かれば無料許可証は出してほしい。仏教団体が今後、国交省と掛け合ってほしい。
27	曹洞宗 一步の会	宗門僧侶の集まりである当会による活動は、純粋なボランティア活動ではなく、宗教活動や布教活動と捉えられ兼ねない。
29	日蓮宗青森県立正青年会	支援をしたくても、各寺院の法務や宗門行事、各会の会議などに時間や人員をとられ思うように活動できません。さらに距離もあるので日程はかなり無理をして、いつも支援に伺っています。距離があるので、車や宿泊にかかる金額も少なくありません。また、最近はどのような支援が求められているかがわからず苦悩している次第です
34	全国曹洞宗青年会(全曹青)	支援活動にあたり、多くの会員にご協力いただいているが、事務処理など間接的な活動の部分でごく一部の会員に負担を強いている現状がある。これからの活動と将来の災害支援を踏まえて、新たな人材の育成が望まれる。
37	レインボーキャンプふくおか実行委員会	◇ 支援とは何か？悩む ◇ 支援者と被災者との信頼関係があつてこそその活動だが、本当の信頼関係とは？ こちらが勝手に信頼されているとおもいこんでなか？先方は、一杯気を使って、私たちを安心させてくれているから、そう思う。 ◇ 引き際は、いつだろう？

40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	今まで活動してきてトラブルというものはなかったと思います。資金不足というのは、これから色々な団体で問題になってくるでしょう。 人材不足に当たっては、私が山形天台仏教青年会の事務局長でもあり、通常の業務とボランティアの方と両立してきました。そんなところに限界を感じることもありました。
46	高野山真言宗 東京青年教師会	宗教的な活動を行った場合に、既存の現地寺院(特に他宗や他派)との摩擦が起きないように調整できる機関が存在しない。他地域での避難生活者の宗教的なニーズ(供養や心境を吐露する場)はとても大きいため、社会福祉協議会等での仲介やルール作りが必要と思われる。
51	栃木県日蓮宗青年会	全日本仏教会様からの支援金、いつもありがたく存じます。大変ありがたいのと同時に、申し込み書に添付する写真について苦勞をしています。 前4回目はご辞退させて頂きましたが、その辞退に踏み切った理由は、写真撮影が困難ということでした。ご住職の許可がなくては写真は撮れません。しかしながら、ご家族などの気持ちを考えると支援金の為に写真を撮らせてくださいと中々言えず、困っております。以前提出した写真もお叱りを頂き、会員一同反省を致しました。いろいろと被災寺院のお気持ちを汲みながら活動するのが難しいと考えております。
54	東九州臨青会	震災後、多くの会員はすぐにでも駆けつけたいと思っていたが、実際何ができるのか、どこに行けばいいのか、何を携えていけばいいのか、行っても却って迷惑をかけるのではないかなど様々な思いが巡ってきた。実際、多少の食料やサ行道具など持ち込んで出かけたが、ほぼそれらは充足していた感じだった、というよりも、逆に全国から寄せられている物資の仕分けや片付けに手間取っている面がある。それよりも、それら多くの作業道具を使って作業する人手やガス、水道電気などのライフライン、風呂やトイレ、寝る場所などの生活環境の改善が必要ないように感じられた。
55	高野山真言宗 愛媛青年教師会	受け入れ窓口になっている人物や団体の個人的な考えによって、こちらの支援が振り回されている場合がある(ごく希ではあるが)
56	神奈川県第一部日蓮宗青年会	全国日蓮宗青年会から、むやみに行くなと言われたので、中々行動に移せなかった。
57	特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	・支援する側も仕事を抱えての参加となり、実働参加者の確保が大変だった。被災地までの交通費等もう少し長く補助できるような体制が欲しかった。 ・(被災地関係者に対する補助を行ったときに、一台ずつ書類を見せる為、支援者の車が渋滞に巻き込まれ時間的ロスがかなり出た) ・仮設住宅の戸数がまとまっているので、支援物資を調達するのに大変だった。
61	臨濟宗妙心寺派 東北教区 第二部宗務支所	知り合いがいたから物資を運べましたが、分からなければいかなかったと思います。どこにどんなものが必要で、誰が持っていても受け取ってもらえるのか知りたい。トラックなどの経費や確保に時間がかかった。警察での支援車両の許可が効率よく行えれば、半日早く出発できると思う。近隣の県(秋田県の場合)こちらでも物資不足なので、買占めをしていると思われる 支援物資を買いにくい状況にあった。

63	社会事業委員会 (通称:ひとさじの会)	特にいまのところ大きなトラブルもなく進められてきている。様々な支援団体から課題とされる内容は多々あるが、ここでは当会には該当しないため、特に記載しない
64	東京南部日蓮宗青年会	マニュアル作成。 災害時のための講習会参加。 日蓮宗災害対策実施要綱作成。

問4-1-1 上記(問4-1)の課題解決のために、具体的に何か取り組まれたことはありますか。【自由記述】

問4-2 今回の震災支援活動を通じて、今後の対策として、貴団体では今回の支援を教訓に、防災や支援の備えなど具体的に何か行っていますか。【自由記述】

No	団体名	問4-1-1 課題解決のために、具体的に何か取り組まれたことはありますか。	問4-2 今後の対策として、今回の支援を教訓に、防災や支援の備えなど具体的に何か行っていますか。
1	高野山足湯隊	・活動後、足湯隊に参加したボランティアが一日に活動をふりかえる場を多くするようつとめました。 ・活動記録を詳細にとどめおくことによってクールダウンし、翌朝、また新たな気持ちで元気いっぱい活動できるようにつとめました。	・細く長く活動を続けたいと願っています。 ・次代を担う後継者の育成を常に心がけています。
2	宝泉寺 ボランティアの会	活動後のふりかえり(シェアリング)の徹底を心がけました。	これからの足湯隊を担う後継者育成のため、足湯の普及活動を続けています
4	埼玉第二教区 智山青年会	時間の取れる会員に参加要請をした	傾聴ボランティア勉強会の開催
6	名古屋の坊主	特になし	自坊にて、災害時の寺の役割を考え、「起動する寺」と掲げて、檀家さんと共に考える会を毎月開いている。現時点では、災害時の炊き出しができるかを模索中、12月には一度、炊き出しを実践してみることにしている。
7	真宗大谷派高岡教 区内有志 災害復興 支援ネットワーク	資金面での不安が大きい。カンパ活動を行っているが、だんだんと少なくなってきた。	時になし
8	真宗大谷派名古屋 教区内有志災害ボ ランティアネットワ ーク(でらボラ NAGOYA)	費用面は我々「でらボラ」で毎月、別院の縁日がある時などに活動報告とカンパを募り、一部を補助している。その他、教区からも少しずつ補助して頂けるように働きかけをした	教区において、「災害対策会議室」を作ってもらって、とりあえず教区内僧侶の防災及び災害支援の意識の向上を高めてもらうための啓蒙・啓発活動を行っていく
9	真宗大谷派 奥羽教区ボランティ ア有志の会	ボランティア参加者確保の為に、早期の日程の告知などをしたが、実際のところ改善は出来なかった。	上部組織であるが、本山を通じ教区内で食糧、防災用品、水などの備蓄を行うことにした。
10	高野山真言宗 播磨 友師会	活動拠点の設置 人材派遣 常に被災地に入る人材を作る。(被災者のニーズと支援団体側のタイムラグを無くす為) 私達の支援活動を支援する本部へ、各活動毎に報告所感を提出し相互の信頼を得る。支援者が依存しない	高野山真言宗災害対策本部が各支援団体との意見交換により、今後の災害対策におけるプロジェクトチームが発足している。
11	だるまの会	会員人数の拡大。	年に5回程の托鉢の浄財のいくらかは貯蓄し、今後の災害時における義援金として活用できるようにしております。

12	東京曹洞宗青年会	未記入	東京臨海広域防災公園・そなエリア 東京での防災館研修
13	大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—	もろもろの課題・制約を解消するため、大学や教団など、既存の団体から距離を置く「完全有志」の形態をとりました。後方援助はいただいておりますが、おかげで基本的に自由に活動ができます。	人材を養成したいという考えから、新しいメンバーを常に加えて活動しています。毎回メンバー23人中、15人程度は初心者です。23というメンバー数は、バスを二席一人で使用するために定められた人数です。大学バスは長距離仕様ではないため、そのような定員としています。
16	宮城智山青年会	青年会上部組織における情報交換の効率化 青年会掲示版における個々の情報交換によって救援物資をお送りいただいた経緯	青年会上部組織における情報交換の効率化 青年会掲示版における個々の情報交換によって救援物資をお送りいただいた経緯
18	松泉寺有志会	ボランティア活動の経験のある団体からノウハウを教示して貰う事。 人材の募集。	傾聴に必要なスキルの習得。
20	浜〇かふえ(浄土宗 福島教区浜通り組 青年会)	・人材不足については、東京教区などの外部ボランティアの募集を行うことで対応。 ・ノウハウ不備については、青年会会員相互の話し合いや実際の経験を重ねる事で徐々に対応できるようになった。また、資材をより良いものを購入することによって対応した。 ・行政とのトラブルについては、いわき市は特定の宗教団体への便宜を図ることは行わない方針なので、浄土宗という名前ではなく、「浜〇かふえ」という名前にて宗教色を出さずに活動することで対応した。 ・準備と開催当日と週2日の拘束時間を短くするため、開催場所によって担当を決め、準備についてはなるべく担当が行うようにすることで、拘束時間によるモチベーションの低下を解消するよう努めた。	今後、別の災害が発生したときに、浜〇かふえのような訪問カフェ活動を行えるような資材とノウハウを別団体に提供できるような体制を取りたいと考えています。 また、青年会会員のお寺ではなるべく備蓄しておくよう促しています。
21	宗教法人 妙興寺	特になし	特別行なっていない
22	高野山真言宗 埼玉青年教師会 有志一同	市役所の窓口で、宗教者は祈ることが支援の一つだとくいさがったが無理だった。	法事などで話す。
24	雲龍寺 ボランティア会	基本的にはフットワークの軽い個人が行なう活動がボランティアだと考えますので、実働部隊が有効に活動できるような情報提供を上部団体にはお願いしたい。	会報などで防災又は被災地及び被災者支援を呼びかけている。

27	曹洞宗 一步の会	現在、現地のボランティア団体からの提案もあり、坐禅会の開催を検討中であるため、現地の団体や寺院等とも情報を交換しながら、上記の問題をクリアしての開催が可能かどうかを模索中である。	毎年当会では一般の方向けに坐禅会を開催しており、その中の催しでワークショップを開催した。
34	全国曹洞宗青年会 (全曹青)	各地で研修会等を行い、会員各自のスキルの向上に努めている。	活動資機材整備のためにストックヤード整備事業を展開する予定。平時からの防災やボランティアに関する研修会の実施など。
35	いわてゆいっこ	各財団から公募されている助成金申請支援。	防災用具の備蓄。
36	高野山真言宗 長野宗務支所	こまめに、直接被災地との連絡をとるよう心がけた。現地のニーズの把握。 (連絡が取れる場合に限り)	特に、行っていない。
37	レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	1.について 活動団体同士の横の連携。新聞社への記事として取り上げてもらうこと 2.について 講演活動の積極的な働き 講演収入や、イベント収入 3.について これと思われる人の一本ツリ 7.について 電話をちよくちよくする 8.について 7と同じ	◇ 九州内での支援活動の広報。みんなできるんだからという意識付けのため。 ◇ 九州に自然災害が起こったときに、まとまって協力し合えるようにマンパワーの育成。 ◇ 九州は、九州で支援しあいつこできたらいい。遠くまで行かなくいいと思えるようになりたい。そのために、各地に拠点や人材を作ってネットを作る。
38	埼玉天台 仏教青年会	・上部団体、同宗他教区の仏教青年会への協力要請。 ・当会会員に加え、教区内寺院にも支援金の協力を呼びかけた。 ・当会会員に対して、ボランティアへの参加要請。 ・参加者の増員をはかるべく、交通費の補助や広報活動を強化した。 ・当会会員の顔や名前を覚える為に、活動参加者の顔写真やプロフィールなどをまとめた名簿を作成して欲しいと、自治会長さんより依頼があった。(作成中) ・お祭りの開催など、より密接した関係の構築を図る。	・ボランティア等に対して、災害支援の為の予算を通常会計とは別に特別予算として取り入れる。
39	宮城県曹洞宗 青年会	「行茶活動の意義とこれまでの活動とこれからの活動を考える」と題し、平成24年7月5日に研修会を行った。また、今後もこのようなボランティアに関する研修を継続的に行っていく予定。	

40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	草の根活動を支援してくれるところに助成申請を出しましたが、落ちました。	私は日本防災士協会の講習会を受講し、防災士として認定されました。他に団体としては日本赤十字社による救急法を受講いたしました。また、協働している団体の方と今後、起こると予想されている首都直下地震、南海地震等々のワークショップなども行っております。
50	臨済宗妙心寺派 信越教区青年部	未記入	防災訓練 物資の備蓄
51	栃木県日蓮宗 青年会	被災寺院ご住職とお話を致しました。色々話し合った結果、写真は撮らずに今まで通りの活動をしていくこととなりました。なかなか、写真を撮るという行為は間違えば、被災者を傷つける行為と認識しております。	通信の確保としてアマチュア無線導入、免許不要350メガヘルツデジタル無線機の導入。
52	高野山真言宗 山梨宗務支所	現地の方とのコミュニケーション。	行っていない
53	高野山真言宗青年 教師会相模真友会	特になし	・会員各個人では物資の備蓄、避難所として寺院を提供できるか？などの意識をもっている。 との声を聞くことはあるが、会としての対策は行っていない。
54	東九州臨青会	再度地元に戻ってから、現地で活動できる人員の募集をしたが、中々確保できなかった。	特になし
55	高野山真言宗 愛媛青年教師会	・モチベーションを継続する意味で毎月托鉢を続けている。 ・上部組織は長に立つ人次第であるので、根強く働きかけていく	行っていない
57	特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	未記入	・ 支援物資の備蓄(今回支援してくれた個人・企業等との関係づくり) ・ 被災地が都会だった場合の想定でワークショップを行った(帰宅困難への) ・ 災害コーディネーター養成(人材育成)
58	臨済宗青年僧の会	震災に関連してシンポジウムなどを開催し、被災地で実際に活動されている様々な分野の方を講師として招き、課題や対応策を学ぶ。	現段階では、まだ何も講じておりません。
59	日蓮宗 岡山立正青年会	災害対策支援金への寄付 NPO 認定『災害救援コーディネーター』の資格者2名を養成	災害対策支援金への寄付 NPO 認定『災害救援コーディネーター』の資格者2名を養成
61	臨済宗妙心寺派 東北教区第二部 宗務支所	なるだけタイムリーに物資を届けられるように現地と連絡を取った。 レンタカーの車両を指定し、支援車両を固定して許可の期間を長めに申請した。	行っていないと思います

62	臨済宗 薪流会	先ず 現地入りして 直接 被災の声を聞き取ることから始めました	支援物資の備蓄は我々 弱小団体では限界があります 支援資金を基金として確保 会の組織の充実 会員の意識の充実
63	社会事業委員会(通称:ひとさじの会)	未記入	・元来進めてきている米一升運動の更なる推進。 ・都市ガスが多い東京において、プロパンガス器具をすぐに準備する経路の確立。
64	東京南部日蓮宗青年会	マニュアル作成。 災害時のための講習会参加。 日蓮宗災害対策実施要綱作成。	連動している社会活動部会では、新たに災害時に向けた備品・支援物資の購入。 防災講習の実施。

問4-3 今回の震災支援活動の経験を今後の諸活動に活かしていくために、特に地域における諸団体との連携などネットワーク化の必要性についてのお考えをお教えてください。(該当するものを一つ選び()に○をつけてください)

表4-3 震災支援活動の経験を今後の諸活動に活かしていくために、特に地域における諸団体との連携などネットワーク化の必要性について

選択肢	回答数	%
1.現在は、必要性を感じていない	5	8.77%
2.災害に限定したネットワーク化は必要	12	21.05%
3.普段から、情報共有の出来るレベルのネットワーク化は必要	26	45.61%
4.わからない	11	19.30%
5.その他	3	5.26%
合計	57	100.00%

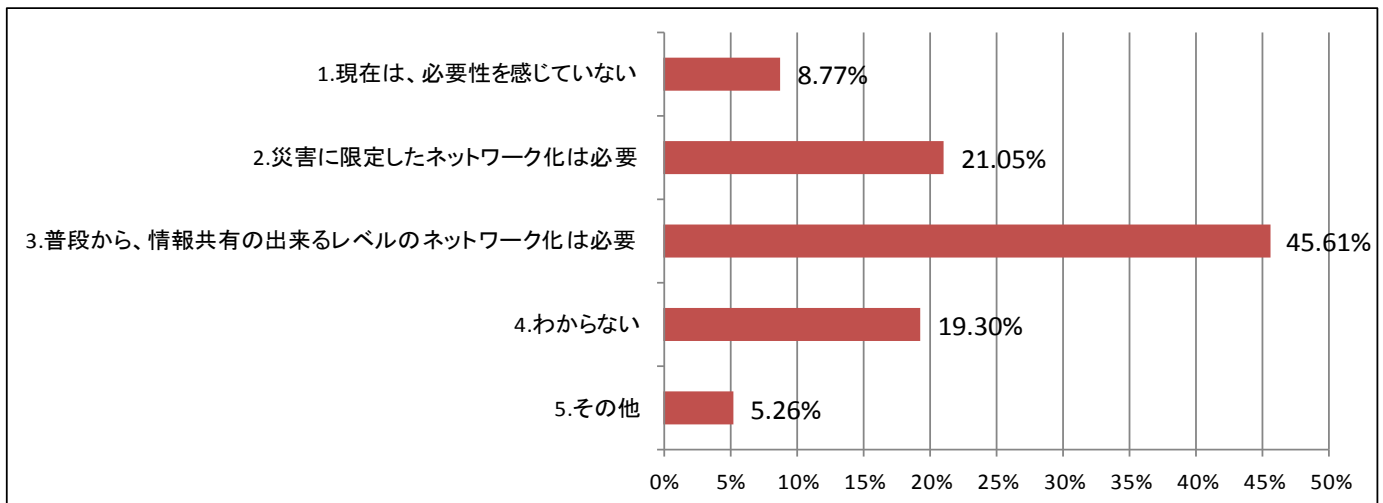


図4-3 震災支援活動の経験を今後の諸活動に活かしていくために、特に地域における諸団体との連携などネットワーク化の必要性について

問4-3は、今回の震災支援活動の経験を今後の諸活動に活かしていくために、特に地域における諸団体との連携など、ネットワーク化の必要性について問う質問であり、「3. 普段から、情報共有の出来るレベルのネットワークは必要」が26件(45.61%)と最も多く、次いで「2. 災害に限定したネットワーク化は必要」が12件(21.05%)、「4. わからない」が11件(19.30%)、「1. 現在は、必要性を感じていない」が5件(8.77%)、「5. その他」が3件(5.26%)であった。

問4-3 今回の震災支援活動の経験を今後の諸活動に活かしていくために、特に地域における諸団体との連携などネットワーク化の必要性についてのお考えをお教えてください。5. その他【具体的にご記入ください】

【自由記述】

No	団体名	記述内容
56	神奈川県第一部 日蓮宗青年会	現地のコーディネーター役の設置

問4-3-1 問4-3の選択肢2・3に○をつけた方のみお答えください。
具体的にどのような団体との連携が必要でしょうか。(複数回答可)

表4-3-1 具体的にどのような団体との連携が必要か。

選択肢	回答数	%
1.地域【市町村や県レベル】の宗門寺院	35	23.49%
2.地域の他宗寺院も含めた仏教会	25	16.78%
3.他宗教も含めた地域の宗教団体	18	12.08%
4.地方公共団体	16	10.74%
5.社会福祉協議会・市町村ボランティアセンター	25	16.78%
6.ボランティア団体	26	17.45%
7.その他	4	2.68%
合計	149	100.00%

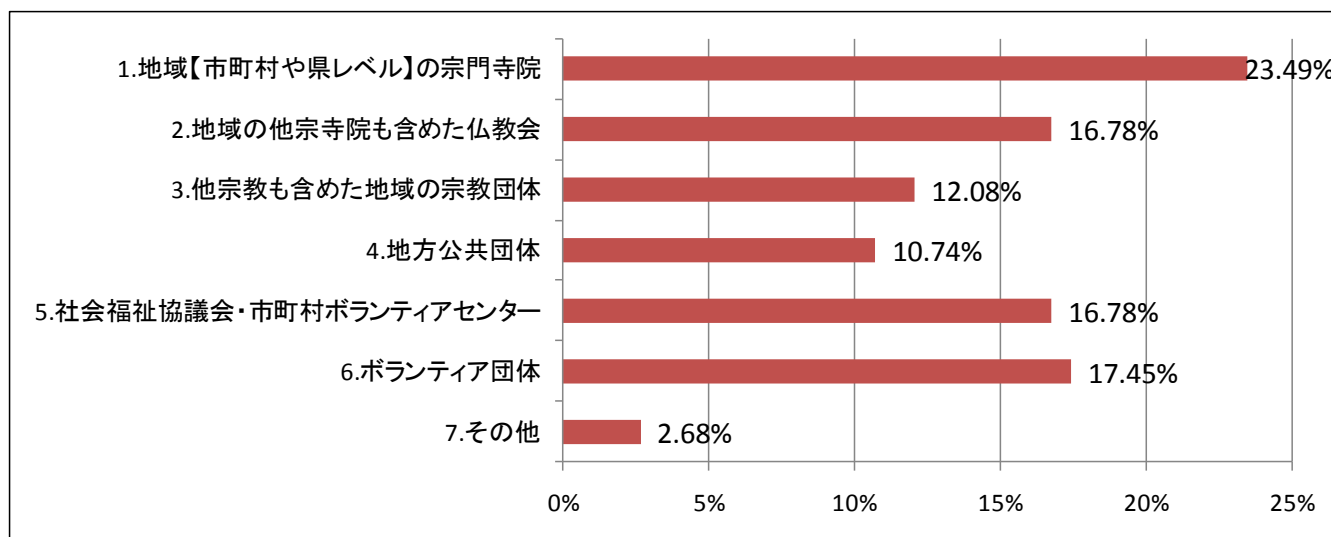


図4-3-1 具体的にどのような団体との連携が必要か。

問4-3-1は、「問4-3」の「選択肢2・3」に回答した団体に対する質問であり、具体的にどのような団体との連携が必要かを複数回答形式で問う質問である。「1. 地域【市町村や県レベル】の宗門寺院」が35件(23.49%)と最も多く、次いで「6. ボランティア団体」が26件(17.45%)、「2. 地域の他宗寺院も含めた仏教会」と「5. 社会福祉協議会・市町村ボランティアセンター」がともに25件(16.78%)、「3. 他宗教も含めた地域の宗教団体」18件(12.08%)、と「4. 地方公共団体」16件(10.74%)、「7. その他」が4件(2.68%)であった。

問4-3-1 具体的にどのような団体との連携が必要でしょうか。

7. その他【具体的にご記入ください】【自由記述】

No	団体名	記述内容
4	埼玉第二教区 智山青年会	地元消防団等
34	全国曹洞宗青年会 (全曹青)	特に各地の社会福祉協議会との連携は、支援活動を行う上で、トラブルを避けるためにも必須であり、また、震災後の各種法規制などによる制約が多い期間に即応的な行動を起こすためにも、常日頃からの連携が求められる。
62	臨済宗 薪流会	1~3に寺院とか他宗教とか宗教団体と有りますが 被災者全体を考え4~6が望ましく思います

問4-4 今回の震災支援活動の経験を今後の諸活動に活かしていくために、特に今回のアンケート調査の対象となっている仏教系諸団体との連携などネットワーク化の必要性についてのお考えをお教えてください。

(該当するものを一つ選び()に○をつけてください。)

表4-4 今回のアンケート調査の対象となっている仏教系諸団体との連携などネットワーク化の必要性について

選択肢	回答数	%
1.現在、必要性を感じていない	8	13.33%
2.広域災害などに限定したネットワーク化は必要	12	20.00%
3.普段から、情報共有の出来るレベルのネットワーク化は必要	26	43.33%
4.わからない	11	18.33%
5.その他	3	5.00%
合計	60	100.00%

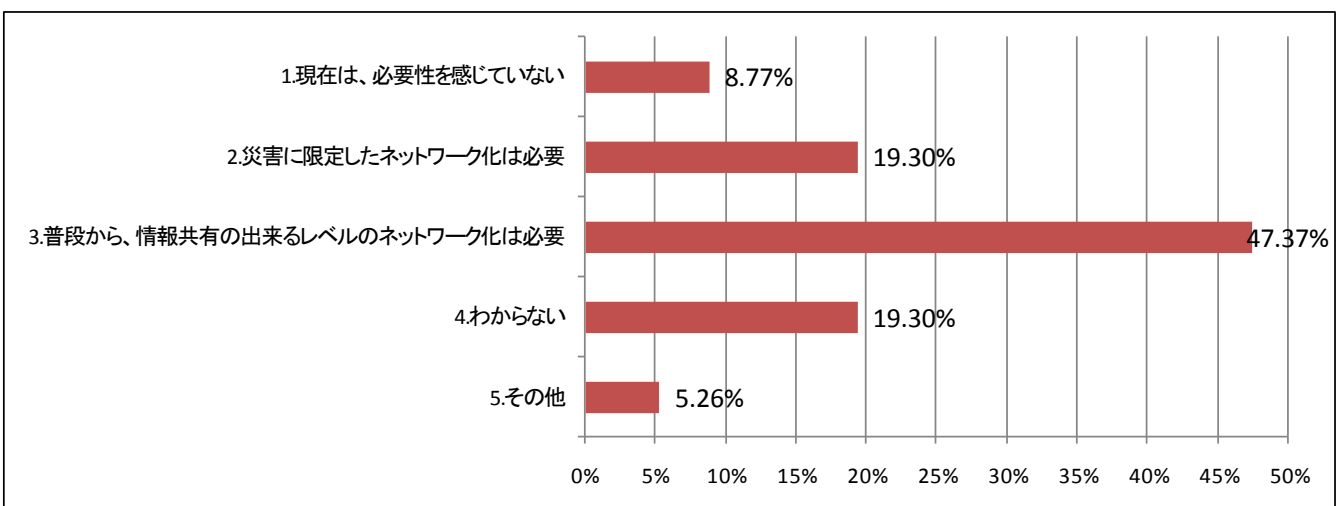


図4-4 今回のアンケート調査の対象となっている仏教系諸団体との連携などネットワーク化の必要性について

問4-4は、今回の震災支援活動の経験を今後の諸活動に活かしていくために、特に今回のアンケート調査の対象となっている仏教系諸団体との連携など、ネットワーク化の必要性について問う質問であり、「3. 普段から、情報共有の出来るレベルのネットワーク化は必要」が26件(43.33%)と最も多く、次いで「2. 広域災害などに限定したネットワーク化は必要」が12件(20.00%)、「4. わからない」が11件(18.33%)、「1. 現在は、必要性を感じていない」が8件(13.33%)、「5. その他」が3件(5.00%)であった。

問4-4 今回のアンケート調査の対象となっている仏教系諸団体との連携などネットワーク化の必要性について。5. その他【具体的にご記入ください】【自由記述】

No	団体名	記述内容
28	日蓮宗 東京都西部青年会	まずは各宗派が縦割りのネットワークを構築すべき その上で各宗派ごとの横のネットワークを構築して仏教界で情報を共有するのが望ましい
37	レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	阪神には、いまだにキリスト教による震災の支援センターがあります。その人たちは、今回真っ先に駆けつけて、現地のコーディネーターを開始しています。あらゆるキリスト教団体、海外キリスト教団体までも受け入れていました。このような組織が仏教にもあればと思いました。

問5. 支援活動全体を振り返って

問5-1 今回の震災支援活動を通じて、仏教者として信仰心はどのように影響したとお考えでしょうか。また、震災支援活動を通して意識の変化はありましたか。【自由記述】

No	団体名	問5-1 仏教者として信仰心はどのように影響したでしょうか。また意識の変化はありましたか。
		記述内容
1	高野山足湯隊	被災地で出会った方々とのつながりのなかにこそ、仏さまとのお縁を感じることがありました。
2	宝泉寺 ボランティアの会	被災地で出会った多くの方々との出会いから、人と人との間に「ほとけさま」の御縁を感じることがありました。
4	埼玉第二教区 智山青年会	命の大切さを改めて認識し、祈りの大切さを実感した
5	真言宗智山派 埼玉第四教区 智山青年会	死者行方不明者2万人という未曾有の惨状目の当たりにして、無力感を感じましたが、仏教者としては、犠牲者の為に祈ることしかないといい、毎日祈っています。
6	名古屋の坊主	宮城県では、震災直後に僧侶の勝手な行動により活動に制限を受けている。というのは、亡くなった人に勝手に御札を貼り付けたり、キリスト教の信者の亡骸に仏教のお経を勝手に勤めたりして、心を痛められた被災者が何人か居たということを知りました。そのことから、震災後、宮城県内で宗教活動が禁止になっていたこともあって、ボランティアに行っても何をやるわけではないのですが、変に気を使っていたように思います。仏教者として信仰心についてはよくわかりませんが、現在を生きていく上で私自身がどのように仏教に出遭っていくのか考えさせられています。
7	真宗大谷派高岡教区 区内有志 災害復興支援ネットワーク	特になし
8	真宗大谷派名古屋教区 区内有志災害ボランティアネットワーク(でらボラ NAGOYA)	傷みや悲しみを持った人の声に耳を傾けること。そこから傷みや悲しみを共有し、同時に如来の教えによって、権力や社会構造を相対化していく事の重要性を実感させられている。
9	真宗大谷派 奥羽教区 ボランティア 有志の会	信仰心への影響を考えれば、ないと言えないし、あると言えはあるという感じですが、具体的に変わったとかを思えば震災前と変わらない気がする。意識の変化については、震災当初は何かしなければという思いもあったが、いまでは、自然体で被災地の方々と接するのがいいと思う。ただ、会のメンバーは個々に違うと思うが、このような調査は行ってないので把握はしていません。
10	高野山真言宗 播磨 友師会	宗教者としての命 生かされている「いのち」を今一度考えました。
11	だるまの会	会員それぞれが、いろいろな思いで支援活動に従事してきたと思います。支援活動の中で、多くの人々と接する中で、改めて私たちは生かされているということに、仏教者というより、人として気づかされました。
12	東京曹洞宗青年会	被災地での慰霊法要等を執り行うことにより、多くの方々からの感謝の言葉を頂くことによって仏教の教えというものを再確認できた。私たちに出来ること、やるべき事の重さを改めて認識し、今後の活動を行っていかねばならない。

13	大谷大学 ボランティア有志 —共に歩み隊—	今回の活動に関して、個人の「信仰心」の影響の有無は、基本的には問う必要がないと考えています。仏教にもとづく大学であり、バックアップしていただいている復興支援センターも東本願寺が母体であるため、活動の朝や終了後は、必ず仙台の別院本堂でお勤めをしていますが、それが参加者にどのような影響を与えているのかはわかりません。 ただ、活動を通して多くのことを参加者が学んでいることは間違いのないことであり、その経験が、メンバーのその後の生き方や信念、仏教者像に大きな影響を与えていると考えられます。
15	浄土宗 神奈川教区青年会	個人としての感想になりますが、この世が娑婆世界であることをあらためて認識し、娑婆世界を抜け出すための手段として、お念仏という信仰を持っていることをありがたいと思い、お念仏の教えをさらにひろめていく必要を感じました。また、現地に足を運んでみたことで逆に、誰でも現地に足を運べるわけではない、現地での支援活動に従事するだけでなく、資金援助をする、亡くなった方々や復興のための危険な作業に従事する人々の無事を祈る、などそれぞれができることをし、その中でベストを尽くすことが大切と思うことができました。
16	宮城智山青年会	津波という災害の特殊性として、その集落全体が被災する事があげられる。それにより、自宅の仏壇・過去帳・位牌、寺院においては墓石・墓名碑・寺院過去帳など信仰の対象が根こそぎ奪われてしまう。信仰の対象がなくなるうえに、歴代の先祖の情報があわせて流出してしまう事が大きな問題と考えられる。教区・青年会としては2011年7月に行われた教区管内慰霊法要にて精霊位牌(簡易位牌)や数珠作り(教化センター職員による傾聴活動を含む)、全国寺院よりおくられた数珠配布をおこなったが、被災者には大変喜ばれた。身近な信仰が求められているという事を実感させられた経験だった。
18	松泉寺有志会	信仰心や意識についての影響はなかったと思う。仏教者という以前に一人の人間として出来るだけのことをしたまでの事である。
20	浜〇かふえ(浄土宗 福島教区浜通り組 青年会)	震災以前はごくごく当たり前だった何不自由のない生活自体、実は当たり前のものではなく、無常なものであったことを被災地の方々をはじめ東日本全体の人を感じたのではないだろうか。特に原発事故という「有り得ない」ことが起こった福島県においては、「神も仏もない」といった声も震災直後には聞かれたが、避難区域への一時帰宅にて持ち帰るものとしてまずは御位牌という方が多かったことに信仰心の深さを改めて感じた。日々の生活の無常さによって、信仰という普遍的なものへのありがたさが増したのではないだろうか。
21	宗教法人 妙興寺	僧堂の若い雲水中心に行なった実働3日間の短い震災支援活動であったが、雲水には僧堂での厳しい修行も重要であるが、今回経験したことは将来住職になったとき必ず役に立つと思われる。
22	高野山真言宗 埼玉青年教師会 有志一同	宗教者としてのプライドと言うか、祈ることが救うと言う確固たる信念が生まれた。あの遺体安置所にブルーシートにくるまれた数々の遺体を見たことが、宗教者としての今後を考えさせていただいた。
24	雲龍寺 ボランティア会	佛教者としてというより一人の人間として何かさせていただけないと現地の方と連絡を取り、被災寺院の復興支援活動を要請され、現地に赴いたところ、本堂、墓地の惨状を目の当たりにし、佛教者としてそして住職として檀家の方と出来る活動はやはり被災寺院の復興支援だったのだと痛感しました。
25	被災者支援チーム TEN	お寺でよかったと心から思っております。お寺同士協力して活動ができたこと、そして、全日本仏教会さまから支援金をいただけたこと、お寺だからこそ信頼していただけたことなど利点は数え切れません。

26	真言宗智山派 埼玉第八教区 智山青年会	「仏教者」としてというより、まず「人として」何が出来るかから始まった活動であった気がします。活動に参加することで、自己満足して、心の整理をしていきました。しかしながら被災地の方々と接したり、活動に参加している他の皆さんの考え方に触れるうちに、日常の有り難さや命あることの幸福を実感することとなった気がします。はっきりとした確信が有るわけではありませんが、参加した会員一人一人の意識は大きく変化したものと思われます。
27	曹洞宗 一步の会	私個人の意見としましては『信仰とは何か』と考えさせられる場面が多々ありました。一例を申しますとある仮設住宅で『あそこで炊き出しやってる〇〇寺さん、お寺が流されちゃって衣も何も無いんだよ。なんでもいいから、分けてやってくれねえか。俺、あその檀家じゃないから言えるような立場じゃないけどさ、頼むよ』と仰った方が印象に残っています。 活動を通じて、お寺とは何か、お袈裟とは何か、信仰とはどこにあるものなのか。仏教は誰の為にあるのか、仏様は拝む人を選ぶのか。信仰についてというよりも『信仰というもの』そのものについて考えるようになったように思います。 追記:20150517 法要など宗教者にしかできない支援もする事ができ、改めて仏教のありがたさを感じられた。
28	日蓮宗 東京都西部青年会	信仰心と震災は関係ないものとする 困っている人がいるから手を差し伸べるというのは日本人が持っているごく当たり前の気持ち、その気持ちを具体化する時間、お金などさまざまな要因があって初めて支援が出来るものである
29	日蓮宗青森県立正 青年会	平穏な日常に突然大きな変化をもたらした大震災は、当たり前のありがたみを痛感させる衝撃的な出来事であったとともに、被災地は宗祖の御在世を思わせるような過酷な環境だった。宗祖は逆境に負けず、布教に努めたがそのご苦労が如何に困難なことか理解できたような気がした。 信仰心に基づいた確固たる人間性、包容力というのが強く求められると感じました。教えを説くのではなく、悲しみを分かち合い寄り添うことが求められていると感じましたし、そのことが大変難しいことであるとも思いました。
30	宗教法人 芳朝寺	今回の炊きだしに参加してくれた方々の意識の変化に驚いた。震災直後のなにか自分できることをしなければならないという思いがひとつの大きな力になって活動しましたが、被災者のためにやっているというおごりの気持ちが、被災者のためでもあるが、自分のためでもあると気づかされた。
31	神奈川智山青年会	日ごろから、待ちの姿勢ではなく、自分たちから向かっていく必要性を感じた。
34	全国曹洞宗青年会 (全曹青)	菩薩行、慈悲行としての活動以上に、今回の震災では、共に生きるものとしての心から動かされた面は大きかったのではないかと思います。また、法衣をまとわなくとも、活動が別種の活動であっても必然的に手を合わせている場面もありました。お経を唱えなくとも、被災された方とともに涙を流してきたことは、現在の葬祭などでの私たちの心のありかたを、宗教者としてあらためて問われたようにも感じました。
35	いわてゆいっこ	寺院が中心となって避難場所を確保した地域が多く、緊急時の心身の拠り所として地域に根付いていることと実感した。
36	高野山真言宗 長野宗務支所	私自身、初めての災害ボランティア経験であったのかもしれないが、協力参加した事が良かったのか、は実際今でも疑問(わからない)である(判断できないという意味)。もう少し協力出来たのではないかと、また違った方法があったのではと繰り返し今でも考えている。 被災者の求めているものを与えることができたのか。今後も与え続けることができるのか。これから今後の私自身の課題にもなった。お互い時間をかけて問い続けけることが大事かとも思う。

37	レインボーキャンプ ふくおか実行委員会	意識変革はありました。縁が、まじまじと発動しています。被災地には。なるものはなる、ならないものはならない。仏の手というか、動かされていることをはっきりと感じました。
38	埼玉天台 仏教青年会	今回の災害で石浜地区とご縁をいただいたのは、被災された方が箕岳箕峯寺を参拝したことに始まる。被災者の信仰心を端緒に、当会がどれだけ報いられるのかが支援活動の根本にあったと思う。ただし規模の大きさから、現実的に支援先を網羅できないので、石浜地区を唯一の支援先として活動することに決めた。 実際には仏教者として行えることは少なく、一人の人間として支援していく姿が見られていたのだと思う。おかげでお互いの信頼関係が強くなり、今後は慰霊法要などの仏教者としての本分も必要とされ始めた。 被災者の方々は信仰がなくなることはないと思うので、宗教・宗派など関係なく、信頼関係の延長上に宗教者として行えることがあれば、それを継続的に活動していきたい。
39	宮城県 曹洞宗青年会	震災復興支援やボランティアの思いは、まさしく仏教の説く「慈」と「悲」の現れ、すなわち「四摂法(布施・愛語・利行・同事)」の実践であると思います。今回の活動に対して、各会員の思い・思い入れはそれぞれ違いはあるにしろ、少なからず、その根底にはこの信心があったと思います。
40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	天台宗では伝教大師さまが「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」という言葉を残されています。お言葉を少し具現化させていただいただけだと感じております。困っている人に手を差し伸べること。これが本来、人としての努めではないのでしょうか？
46	高野山真言宗 東京青年教師会	会員や関係寺院の支援活動への熱意が、予想以上に強かった。支援したくとも個人では活動できない方々に対し、会として活動の機会を投げかけた事で具体的な活動として結実した。 托鉢や現地での作業中に、僧侶が活動することへの感謝と驚きの言葉を多く頂いたことが、参加した方々の意識に変化をもたらしていると思われる
51	栃木県 日蓮宗青年会	変化はない。宗教者として出来ることよりも、一人の人間として出来ることをするのが大切だと考えております。衣を脱いで、皆で寄り添いながら活動していきたい。 意識の変化としては、必ず来るであろう次の震災への準備をするようになりました。
53	高野山真言宗青年 教師会 相模真友会	実際に被災地に入った時期が震災後の間もない頃であった為、「仏教者として」という感覚はなく、何かしなくては？自分たちに何ができるのか？という感覚で活動したように思う。 被災地へ行って活動することも大事なのだろうが、我々は仏教者として「祈る」こともできる。被災地へ行くのには時間的にも資金的にも負担がかかってくる。真言宗の宗祖 弘法大師は国家の安泰を祈りました。 我々も実際に被災地に行き活動ができないにしても、各自坊で祈ることはできるだろうとの感覚もできた。
54	東九州臨青会	宗派を問わず、各地で鎮魂の催しが行われていた。手を合わせる事、祈りを捧げることで多少なりとも心の平安を取り戻せたように感じた。 今回の震災は大きな衝撃であったが、直接現地を訪れたことで更に深く心に刻まれた。今後も微力だが心を寄せていきたい。
55	高野山真言宗 愛媛青年教師会	肌身を持って諸行無常を感じ、人の助け合うことの大切さを学んだ(詳細は活動報告書参照)
56	神奈川県第一部 日蓮宗青年会	信仰がないと活動できない。普段から菩薩道や給仕をしっかりとやり、人間として当たり前な行動が誰でもできるよう普段から取り組まなければならない。

58	臨済宗青年僧の会	今回の震災、並びに支援活動を通して、あらためて仏教の教えに基づいた在り方を考えさせられた。 そして、その上で、自らの仏教者としてのあり方を見直す機会となった。
61	臨済宗妙心寺派 東北教区第二部 宗務支所	阪神大震災ではどちらかといえば他人事に近かった感覚が、知り合いがいるだけで自分の事になった気がします。地域が近いというだけでは動く人は少ないと感じます。より細かくグループより特定の人と人をつなげておくことが必要だと思いました。
62	臨済宗 薪流会	我々が出家である以上信仰心・仏心はゆがめませんが 先ず人として支援に現地入りしました。 震災直後は敢えて宗教色は避けて活動しました。 姿勢から坊主と分かり被災者から求道があればそれに応じて対応していました
63	社会事業委員会(通称:ひとさじの会)	震災後の活動を経て、ますます信仰のありがたみが感じられるようになったと思う。それは、政治でも社会でも、今いる足元の覚束なさ、無常なさまを強く感じさせられることで、如来さまや如来さまの教えなど、普遍(不変)性を有する存在の有難さを実感させられたことによるのでしょうか。 会員各自がどのような想いでいるかについては、聞き取りをしておりませんので、これについては今後折を見て当会の中で話を聞いてみたいと考えている。
64	東京南部 日蓮宗青年会	東日本大震災で大勢の方々が犠牲になりました。岩手県釜石市仙寿院住職、芝崎上人は釜石市の惨状を見て「神も仏もない」と言った被災者の言葉に思わず頷いてしまったと言っていました。被災地の方々は、誰もがそんな思いだったと思います。しかし、震災で大切な家族を失った方々を支えたのは読経であり、仏教だったのです。 葬式離れが進いく中で、大震災は今一度、仏教や宗教の意義を訴えかけてくれました。私たち僧侶は常に檀信徒の方々を引っ張っていけるように、強い信仰心を持って、精進していなければならないんだと、自覚させてくれました

問5-2 今回の震災支援活動を通じて、仏教者、寺院及び仏教界は今後どうあるべきか感じたことやお気づきの点をお教えてください。【自由記述】

No	団体名	記述内容
1	高野山足湯隊	ふだんから近隣寺院とのコミュニケーションをはかって、つながりを深めておきたいと思いました。
2	宝泉寺 ボランティアの会	日頃から檀信徒との関係性を密にして、地域社会における心の拠り所となるように、日々の生活のなかで仏教の教えを理解し、体現し、統合できるようなることを目指していきたいと考えています。
4	埼玉第二教区 智山青年会	やはり、地域の中心になり、普段より地元住民との密接なかかわりが必要だと思う
5	真言宗智山派 埼玉第四教区 智山青年会	コンビニより多いといわれる全国の寺院が、備蓄などを率先して行い、災害に備え避難所などの機能を有していくことが大切であると思います。
6	名古屋の坊主	お釈迦様がお説きになられて仏法で、皆が本当にすくわれていく道とは？ 現実の問題に直面しながら、その問題を仏法で解いていく現代に生きた仏法に出遭っていかなければと思っています。
7	真宗大谷派高岡教区 内有志 災害復興支 援ネットワーク	まずは、お寺を解放するべき。 お寺は坊主のものではない。避難所や一時避難先とし、登録しておくべき。 また、仏教各宗派にもよるが、ボランティア活動を一部の人間しか行おうとしていない。通常時より各仏教宗派によるボランティア研修を行い、人材を養成していくしかない。 また、南海トラフによる大地震にむけてのマニュアル作りを必要なのでは。今回の大震災時の東京での混乱状況を避けるためにも。 原発の事故により、福島県の子どものいのちが危ない。もっともっと、保養企画を展開し、仏教界として、断固反原発を表明するべき。今まさに宗教者の姿勢が問われている。
8	真宗大谷派名古屋教 区内有志災害ボラン ティアネットワーク(で らボラ NAGOYA)	まず、残念ながら必ずしも被災地域の寺院が支援活動、並びに地域に寺を開いているとは言えない現状と開かれている現状を見るにつけ、あらためて地域における寺の重要性を感じさせられる。 信仰問題と、社会問題は別の事ではなく、信仰とは社会の中で生きる我々一人ひとりがいかに生きるか、どんな社会を行きたいのかを教えから聞いていく作業だと思う。それを机上だけの自分個人の問題にすり替えて社会と乖離させてしまうのは、信仰の歪曲化に他ならない。
9	真宗大谷派奥羽教区 ボランティア有志の会	戦後一番大きな震災になったかと思うが、2011年は宗祖親鸞聖人の750回御遠忌とも重なり忘れられない年となった。 仏教者、寺院、仏教界の今後は時代の流れでその時々において、柔軟に対応していくのが望ましいと思う。 仏教者個々においては、今回の震災では落胆した事もあったが意外性も目にした。しかしながら、個人での活動には限界があり、ある程度の人員の確保は必要であると思うが、日が経つにつれ確保が難しくなってきた。 宗派の枠を超えた共同活動も必要かと思うが、また、別の問題も出て来そうだが課題としては検討してもいいかと思う。 ただ、仏教者として「悲しみの共有」、「出遇い、寄り添う事」は大切にしなければと思う。

10	高野山真言宗 播磨 友師会	<p>当会が支援活動している地域(山元町)は特に死者が多くでた地域であり、心を閉ざしている方々が多く、建物生活の復興と行政は活動していましたが、住民の声はやはり横死者の追悼 供養が重要課題であったようです。</p> <p>地区をあげての供養行事を執りおこなってからは、心を表に出し言葉多くなってこれたと地区の方々は言われていました。</p> <p>宗教とは宗派を越えた形の支援活動が好ましく、心のケアこれが私達宗教家としての重要課題のようにも思いました。</p>
11	だるまの会	<p>今回の大震災では、多くの寺院が自坊のお寺は放っておいても、現地に駆けつけ、葬儀を勤めたり、ボランティア活動をされました。</p> <p>そうした活動が、広く社会に知られないことは残念なことだと思います。</p> <p>しかし、その一方では、ここに禅の真髄があるようにも思います。だるまの会の活動に参加しながら達磨大師の「無功德」ではありませんが、自分たちのやっていることについては、表沙汰にしませんでした。</p> <p>だるまの会は 20 人程の僅かな会員ですが、とにかく自坊の大事な用事までほったらかして参加するな。</p> <p>つまり無理のないように続けさせて頂いております。</p> <p>一時的なボランティアというのではなくて、やはり生活の一部。自分が無理のないところで実践しながら、楽しいな、嬉しいな、という喜びの中で行じられたらいいなと思っています。</p>
12	東京曹洞宗青年会	<p>寺院は地域の人々の拠り所としてあるべき。</p> <p>そして仏教者はそれに恥ない見識を持つべきである。</p> <p>苦しみ悩んでいる方々の心の支えとなれるように振る舞うことも大切である。</p> <p>将来、疎遠となるおそれがある寺院と檀信徒や地域住民とのつながりの再構築が必要。</p>
13	大谷大学 ボランティア有志 — 共に歩み隊—	<p>寺院や関連施設が全国に散在している事をメリットとし、支援ネットワークを創るような体制が確立されればよいと思います。</p> <p>民衆が寺や仏教者に奉仕するのではなく、民衆に奉仕する仏教者となっていくよう、反省を込めて、新しい仏教界を築いていくべきであると思います。</p>
15	浄土宗神奈川教区 青年会	<p>瓦礫が流入した墓地に足を運んで、ご自分の家のお墓の片づけをしている方がいらっしゃいました。瓦礫撤去作業が行われている最中の寺院でも、葬儀が行われていました。</p> <p>人間は生きている限り、信仰心を持ち続けるものだと思います。その信仰心の受け皿たりえるよう、仏教者はますます襟を正して自らを律していかなければならないと思います。</p> <p>自らの寺の檀信徒の教化が一番大切なことですが、被災地から遠く離れていることで、苦しんでいる人々の存在を忘れてはならないと思います。他人の痛みを常に感じ、それぞれの今の立場で最善を尽くし、その中で自分に出来ることがないか、常に考えていくべきだと思います。</p> <p>実際に大規模災害が起きたときは、まずは寺院や教団の組織力を以て物資の援助など出来る限りの支援をし、落ち着いたら、地元仏教界に配慮しあくまでお手伝いの立場で、僧侶だから出来ることに特化した支援を行っていくべきだと思います。</p>

16	宮城智山青年会	自身の活動も含めて既存仏教の働きかけや活動が希薄だったように感じる。
18	松泉寺有志会	更なる公共性、公益性を追求し地域・社会に開けた存在であるべき、だと思う。
20	浜〇かふえ(浄土宗福島教区浜通り組青年会)	<p>今回の原発事故によって、福島県内では避難区域の外でも自主避難される方がたいへん多かったです。いわき市でも約半分の15万人程の人が市外へと一時避難されたそうです。</p> <p>しかしながら、医者や仏教者など、形は違えど生命を扱う立場の人間はなるべく最後まで被災地に残るべきではないでしょうか？</p> <p>また、仏教界という巨大なネットワークを生かし、宗派の垣根に囚われず、相互に協力した支援活動が構築できれば、迅速かつ効率的な支援がおこなえると思います。それには、災害が起きる前から有事に備えた体制を整えておく必要があると思います。</p>
21	宗教法人 妙興寺	今回の被災地支援活動を通じて、当寺院は直接支援活動として雲水等による瓦礫撤去と新才知での地藏菩薩建立に際し、寺院として物的支援も重要ではあるが、日ごろから地域社会と積極的に接し、地域と寺院が協働体制を構築するのが必要と思われる。また、被災に対して、被災者が何を望んでいるかを把握し取り組むことが重要で、寺院らしい支援としては被災者の悲しみや苦しみを聞き、拝むことも重要ではあるが、少しでも被災者の心を和らげることが肝要とおもわれる。
22	高野山真言宗 埼玉青年教師会 有志一同	<p>宗教者、僧侶なのに、他人事のようにしているものが多かった。我々はなぜお寺に住み、布施を得ているのか、それぞれがもっと自分に問うべきである。また、宗門ももっと檄を飛ばして被災地へ行かせるべきである。お金を送ることも大切であるが、僧侶は祈ることが第一であるべきだと私は思う。</p> <p>今回埼玉の住職たちに支所費から活動費を助成してほしいと言ったが、勝手にやっている活動には助成出来ないといわれた。住職たちが若い青年層に檄を飛ばすべきなのに、そんな体たらくで仏教は死んだ相手といわれても仕方ないと思う出来事であった。もっと住職(老僧たち)にはしっかりしてほしい。</p>
24	雲龍寺ボランティア会	佛心とは大慈悲心是なりと言われていますが、何事につけ、慈しみ、共に悲しむ心を山内一同は言うに及ばず檀信徒の皆さんだけでなく、ご縁をいただいている方々に普段から大切に育てていこうとはたらきかけていくことが大切なのではないかと思っています。最後になってしまいましたが、支援活動助成金ありがとうございました。合掌
25	被災者支援チーム TEN	お寺の数に対して、支援活動をした寺院の数が少ないように感じますが、日々自分の生活で限られたことしか出来ない立場の人が多と思います。(特に寺の奥さん)これからは、女性が活動しやすくなるように住職やお寺の男性の意識改革が必要だと思います(笑)。
26	真言宗智山派埼玉 第八教区智山青年会	<p>様々なメディアで僧侶、寺院が支援活動に貢献している様子を見聞しましたが、実際には報道されないところで奮闘されていた関係者は多くいたものと思われる。いざという時に、仏教者の行動力や信念が試されているような気がして身が引き締まる思いです。</p> <p>総じて感じたのは、普段から地域での活動に結局的に関わっていないと緊急時の対応は難しいということです。</p> <p>このことは、有事の際の為のみでなく、寺との結びつきを深める意味でも大切なことであろうと思います。自らが平素より実践すべきことを改めて確認致しました。</p>

27	曹洞宗 一步の会	<p>先ず、『東日本大震災』であるということ認識すべきだと思います。被災地は東北だけではなく、日本全体であるということ。目に見えない被害や負担を負っている方々がいるかもしれない、という心がけを忘れないでいることが大事ではないかと思います。</p> <p>寺院というものの可能性について、今一度考えてみるべきだと思います。もし今後何かしらの災害が起きた時に、ではうちのお寺は避難所として機能できるのか、あるいはできないのか。</p> <p>できないならば、このお寺は何ができるのか何をすべきなのか、しないべきなのか。『できるからよし、できないのは悪い』ではなく、『何ができて何ができないか』を明確にし、檀信徒に限らず地域の皆様に認知して頂く事が大切なのではないかと。</p> <p>追記 20150517 災害時の宗門以外のネットワークの構築。※現地ボランティアに関しては、危険も伴うので青年会というよりも青年会中の有志で行ったものもあります。よって、経費活動は個人負担も合計すればさらに多くの金額がかかっています。又、平成25年3月には八王子において被災地より業者様をお呼びし、即売会のイベントを行いました。</p>
28	日蓮宗東京都西部青年会	<p>各団体ごとが情報を共有することが必要 ただし各々事情がそれぞれ異なるため様々な対応があっても良いと思う</p>
29	日蓮宗青森県立正青年会	<p>被災地各寺院の御住職とお会いすると、大らかな方が多くて驚いた避難所になり、人も絶えず動いている。物資の確保に奔走しなくてはならない。きっと過酷な日々なのに、温和でいて全くキリキリしている様子が見られない避難してきている方を安心をさせようと、不安がらせないようにと気を使っていたのだと思いました。</p> <p>緊急時において、仏教者に求められることは布施の精神に他ならないと思います</p> <p>和顔施という布施もありますが、心落ち着かせる布施の実践。そして、捨身施というように自己の体を使い他者の助けになることを実践する。</p> <p>それを如何に緊急時に体現できるかが問題なのではないかと思えます</p> <p>また寺院が震災時の緊急避難場所になりうるということで、僧侶が緊急時のための、例えば災害コーディネータ等の資格を所持していれば対応もしやすいと思うのですが、他の宗派の状況は不明ですが資格や災害時の対応などの講習を中央に集約するのではなく各管区で受講できるような取組が必要と思いました。</p>
30	宗教法人 芳朝寺	<p>仏教者としてももっと広く震災活動に関わるべきであると思う。日々の法務に追われて自分しか見えなくなってしまうがちであるが、限られた時間や取り巻く環境をもっと工夫して関わりをもつべきである。</p> <p>今回の震災では当山や近隣の檀家等も相当な被害を受けており復興の大変な資金・労力を必要とされたが、幸いにも命に関わる被害はなかった。命に関わるところの被害、被災者にたいする思いを改めて考えさせられた。</p>
31	神奈川智山青年会	<p>現在、僧侶と檀家の関係は葬儀、法事の時に限られるのが一般的であると思う。しかし、今回のような未曾有の災害に遭ったとき、人が一番求めるのは心の安心であり、使者の供養であると思う。そのために、我々はもっと多くの人との交流を持たなければならないと思うし、開かれた寺院、開かれた宗派を作っていかなければならないだろうか。</p>
32	埼玉第9教区智山青年会	<p>前にも記述したとおり、支援活動らしいことができていない現実があります。色々な支援活動があるかと思いますが仏教者として、被災者に対して一番大切なものは「心のケア」ではないでしょうかと思います。個人的にも団体としても微力ですが支援活動を継続していきたいと思っております。</p>

34	全国曹洞宗青年会 (全曹青)	<p>今回の震災では、仏教者への期待がとても大きかったように感じます。物資や炊き出しその他の宗教に関連しない活動の中でも、私たちが僧侶であるということがわかると、安心して心の内や辛かった経験などをお話されてきました。そして、一緒に手を合わせる中でひと時の安堵への感謝の言葉をお伺いしたこともありました。私たち、宗教者は個別の宗教や宗派が先に立つのではなく、公益性と社会性を備えていることも大切であると感じました。苦しみや悲しみに寄り添いともに喜んだりしながらともに歩いていく中に、宗教の教えが一つの指針として生かされてくるのではないかと感じました。</p> <p>また、災害などの支援では、宗派を超えて連携を強め、情報を共有したり、協力、協働しての支援を行うことが、支援の力と継続性を高め、効果的な支援になるのではないかと感じます。</p>
35	いわてゆいっこ	これからも地域づくりに貢献していきたい。
36	高野山真言宗 長野宗務支所	やはり、寺院は地域の拠点としての位置をいま一度、構築し直さなければならないと考える。
37	レインボーキャンプふくおか実行委員会	<p>私の場合、支援者の立場でしか言えません。被災寺院の方々の意見がもつとも的を得ていると思います。しかし、被災地での寺院の評判で、一部なんと言っているのか、悪いことがありました。</p> <p>遺骨をお寺に持っていったら、住職は昼間っから酒を飲んでいる。お金が今はないから、という理由で、戒名はつけないままになった。</p> <p>お金がないなら、持ってきたら葬式してやる、といわれてそのままにしている。このようなことは、通常平時でもあることでしょし、ほんの一部かと思いますが、聞かされて、なんとも悲しい思いをしました。そこの地元の問題なのでしょうか、どうなのでしょう。慰霊祭をある仏教団体がしたときのこと。慰霊祭まで普通のイベントだったので大勢いたが、慰霊祭がはじまったら減ったそうです。</p> <p>慰霊の意味を感じました。弔いを出したくない。死を認めたくない。いや、死んだとわかっているけど、復興が叶うまで葬式しないとか、いつまでも泣いてばかりいる私ならば、死んだ人も心配だろうから、立ち直ってから葬式する、とか様々な感情を知りました。僧侶が僧侶しか出来ないことをやることは尊いですが、しかし、その思いを深化しないといけないのでしょう。キリスト教団体と活動しました。震災3日目には、キリスト教医療団が入りました。</p> <p>次に、コーディネーターが入りました。被災した教会の牧師は、被災者としてガードされます。現場を取り仕切るコーディネーターがいるから、牧師は、信徒の心に痛みに向かい合っています。コーディネーターが、支援物資受入仕分け配布、ボランティア受入、仕事探し、斡旋、宿泊、食事作りなどをしました。ボランティアに来るのは、旧教、新教、海外とまちまちですが、さばいていましたし、分けへだてなかったです。僧侶もいれてくれました。</p> <p>社協とかかわらず活動していました。必ず、祈りの会が朝夕あつてます。このコーディネーターも、レスパイトしに交代します。一方、私の知る仏教寺院では、そこの住職がなんもかんもやっています。くたびれてへとへとです。被災者なのに。段違いの組織力を見ました。</p>

38	埼玉天台仏教青年会	<p>震災当初は、僧侶であることを前面に出さないよう助言されることもあった。しかし支援活動を続けることによって、現在では「埼玉の天台宗のお坊さん」と多くの方々に認識を深めていただいている。また、「様々な団体が支援をしてくれたが、中には自らの宣伝活動に利用しているのではないかと疑心を持ってしまった」と、被災者の方に話を聞いた。その中で本会は僧侶の団体であり、信頼できたという言葉もいただいた。心のケアが必要な現状において、我々が仏教者であるということは、被災者の方々がより安心してお話ができる環境になっていると思う。お話を聞きながら信頼関係を構築し、復興・立ち直りの一助となれる可能性が大いにあると感じている。震災よりまだ一年と半年を過ぎたばかりである。仏教者に限らず多くの方がボランティアなどを通じて現地に赴いたと思う。支援する回数は減っていくとしても、支援する気持ちがある者は、まだまだ被災して苦しんでいる方々がいることを広く知らしめていく必要がある。我々仏教者は、各所属団体や檀信徒にそのことを伝え、支援の気持ちを風化させないよう努める義務があると思う。</p>
39	宮城県曹洞宗青年会	<p>震災の前後で、被災地に於いては(或いは日本全体で)価値観がすっかりと変わってしまったように感じられます。震災以前は、「無縁社会」「葬式仏教批判」などがメディアでは取り沙汰されていました。しかし、震災後は、総じて「絆」・「つなぐ/つながる」、「ともに」などといった言葉が目につくようになりました。これらの言葉は、仏教的に言えば、「縁」「ご縁」と言い換えることができます。勿論、被災地を考慮してということもあるかもしれませんが、このような言葉が使われるようになった要因は、被災地に「地域・社会の助け合い・つながり」が大なるものとしてあったからではないでしょうか。そして、その「つながり」の一翼を担ったのが寺院や神社でした。寺院は大きく分けて2つの機能を担いました。一つ目は①「人と人をつなぐ場所(ご縁)」、二つ目は②「人の心をつなぐ場所(ご縁)」です。①「人と人をつなぐ場所(ご縁)」として、「地域の寺院」として檀信徒並びに地域住民のコミュニティ形成の場としての役割、また避難所としての役割がありました。近年、隣組・町内会・契約講などの地域コミュニティの崩壊が被災地を含め全国で叫ばれていました。社会構造の変化・隣人との付き合いの煩雑さがその主たる理由として挙げられていました。しかし、この難局に遭遇し、人々の心は、「他者とのつながりを極力避けたい」という思いから「他者とつながってほしい」という思いへと変化しました。この状況下、寺院は地域住民が集い、助け合う場所、地域のシンボル・寄り合う場所として再注目されました。②「人の心をつなぐ場所(ご縁)」として、震災下の不安な精神状態にいる人々の心の依りどころ・信仰の場としての役割を果たしました。境内墓地片付け作業中、まだ避難所での生活を強いられている状況下でも「御先祖様が気になって」と倒壊したお墓の様子を見に来た方や、「心が落ち着かないので」と手を合わせに来る方を数多くみました。仏さま・御先祖様に手を合わせる事が被災者の心の安穩に大きな役割を果たしました。</p> <p>また、当会が平成24年7月に開催したボランティアに関する研修会に於いて、社会福祉協議会からお招きした講師より「役所や他所からきたボランティアの人が聞くことができない悩みや特別な話を、和尚さんにだけする被災者の方が多数いる」という指摘がありました。この点からもわかるように、僧侶は、聖職者として被災者にとって、特別に悩みを打ち明けられる存在として、被災者の相談相手、また心の捌け口として機能いたしました。</p> <p>以上の2点のことより考えると、寺院並びに僧侶は、檀信徒をはじめとする地域住民にとって、物理的そして精神的、この両面における「依りどころ」となりました。そして、我々仏教者は、その価値を再確認し、磨きなおさなければなりません。そのために、在家の人々の目線に立った布教教化と僧侶自身の自覚の再確認が最も今後求められることではないでしょうか。</p>

40	TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT	<p>お寺は、地域の中でとても重要な役割を果たしてきたように感じる事が多々あり、そこには地域の人の願いがあり、心の拠り所になっているところが多く感じられました。</p> <p>お寺を中心にまとまっている地域。こんな地域は、ご住職が苦勞して培った地域コミュニティがありました。信仰と地域のコミュニティは繋がっているようにも感じます。</p> <p>その一方で、もともと地域住民とコミュニティが上手くいってなかったところは、震災を機に問題が浮き彫りになった地域も多々見受けられました。</p> <p>平常時の檀信徒、地域の方との信仰を通してのコミュニティは大事なものだと感じさせられるものがありました。</p> <p>福島原発の問題は、今後30年以上は見越していかなければならないでしょう。</p> <p>世の中は、通常の生活に戻っておりますが、まだまだ復興は進んでいないという事を忘れずにいてほしいことをこの東北の地から願います。明日は我が身です。今回参加したメンバーから人間的な成長を感じることができました。人と人のつながり、改めて大切だと感じられました。ありがとうございます。</p>
46	高野山真言宗 東京青年教師会	寺にこもらず外に出ることの大切さを、強く感じました。
51	栃木県日蓮宗青年会	<p>それぞれに出来ることを精一杯すればよいと思う。</p> <p>時に衣を着けて、お経をあげればよい。時にスコップでドブさらいをすればよい。時に一緒に泣けばよい。その時に出来ることを、その人に出来ることをすればよいと考えます。宗教者だから・・・というのは緊急時には通用しないと痛感致しました。しかし、逆も然りです。宗教者だから出来ることもあるのを忘れてはいけないと思います。「臨機応変」この四字につきます。</p>
54	東九州臨青会	とにかくすぐ駆けつけ、現地の人の中に入って、そこにいるということがとても大切だと思う。
55	高野山真言宗 愛媛青年教師会	<p>これは今回の震災に限ったことではないが、寺院に限らず、日本の社会構造、世代間の意識が大きく変化していることを考えると、寺院も具体的に社会貢献していく必要があると思う。今回の震災を通じて多くの仏教団体が支援を行ったことは、良い意味でその一歩と言えるだろう。具体的に社会貢献するというのは、地域や福祉に関することで社会事業を興すのも一つであろう。これは個人の資質を伴うのはもちろん、その根底には必ず仏教としての教養・理念・思想を据えておかなければならない。そうでなければ、社会からの評価を得ることは難しいであろう。大切なのは人の嫌がること、捨てたものを捨てるが如くの気持ちで活動することではないかと思う。</p>
56	神奈川県第一部 日蓮宗青年会	問5-1と同じく。信仰がないと活動できない。普段から菩薩道や給仕をしっかりやり、人間として当たり前な行動が誰でもできるよう普段から取り組まなければならない。
57	特定非営利活動法人 災害危機管理システム Earth	<p>【自由記述】今思えば、今回の震災は、被害があまりにも甚大で広範囲に及び、現地の状況はライフラインや各通信機能が途絶したため、詳細かつ正確な情報を得ることは容易ではなかった。そのためできる限り多くの現場をまわり、被災者の方々と直接接して詳細にわたる情報収集に奔走しました。さらに、十六年前の阪神の時代とは異なり、メディアによる災害報道に加え、携帯電話・インターネットの驚異的な普及によりツイッターや動画サイトの利用が盛んになり、「ネット上の世間はまるで祭りのような」高揚感にとらわれ、延々と多種多様な「災害情報」が拡散され続けた。</p> <p>その多くは大津波に驚き、その視座にずれが生じていたが、私たちは津波と対峙するのではなく人間重視。まず、被災地の人々に「寄り添う」ことにより、どれだけ相手の悲しみや痛みを理解し、相手に応えられるのか。行政等</p>

の手が回らない地域、あるいはメディア報道などからこぼれ落ちていく人々との出会いの中で、子どもたちに希望を与え、着の身着のままに逃げた人々の生活を支えることが急務と判断し、まず、精神的心配り支えになる行動に繋げていくことを目指しました。

とりあえず現場からあがってくる必要な要求に可能な限り応え、その都度必要な物資や資材の提供を新聞・ラジオなど報道関係を通して広く社会に救済を求めた。宗門関係では全国各管区寺院・個人・全国日青・女性教師の会・管区寺庭婦人会・ロータスカフェはじめ、全日本仏教会等から多くのご支援を頂き、九州教区からは、被災地支援に役立てて欲しいと「旧伝道車」の提供も受けることができました。多くのご支援に有りがたく感謝しています。

今回、東日本大震災支援の現場は、他国での大規模災害の現場と同様、海外各国からの援助チーム、複数の国連人道機関、赤十字、NGO/NPO、ボランティア等、規模・性格の異なる団体から、規格・言語・内容・質が異なる様々な形で支援提供されることになった。従って、支援が提供されたとしても、その支援を受け入れ、支援を必要とする地域・人に的確にマッチングさせる仕組みである「受入れシステム」がなければ、支援を活用することは難しい状況でした。いかに支援の申し出の受け入れを調整し、現場のニーズに応じて、被災者に「つなぐ」ことができるかが重要な鍵となった。

また被災者への支援は行政がサービスを提供することが前提であり、ボランティアが手伝う程度で、NPO/NGO が公共サービスを提供するという想定が行政側に存在していなかった。さらに想定外の規模の災害で、自治体行政の関係者も被災し、高齢者、障がい者、女性、子ども等立場によっても多様なニーズが噴出した状況では、行政による対応で法的に限界が生じたり、画一的な行政サービスでは行き届かないギャップがあちこちにみられました。

それでは、被災者のニーズはどうなるのか「申請してはじめてサービスが受けられる」という、もう一つの行政の仕組みには限界がある。被災者は、被災し困難を抱えながら、「申請する仕組みがある」という情報を得られなかったり。たとえ、知ったとしてもどのように申請できるのか。とまどいや、多くのニーズではあきらめにかわってしまう場合が多い。そのため、これまでの被災地での実情を知り、さまざまな経験を活かして、私たちは NGO 独自の支援活動体制を構築し「支援する側される側」の立場を解消する調整のメカニズムを構築していかなければなりませんでした。

「人道支援への発展を目指して」現実には広範囲に渡る被害の大きさや情報も乏しい状況であり、当初から、支援メニューが絞りきれないことを訴え、多くの皆様の善意を、「必要な時に、必要な物を購入するための支援金」としてご理解の上提供していただきました。随時、支援報告をすることによって、従来「募金はするが、気持ちは添えられない」という、むなしさを感じていた多くの皆様が、Earth の支援のネットワークによって、直接支援活動に参加しているという実感を持って頂くことができたのではないだろうか。こうして東日本大震災とのかかわりは、当初、予想外の「台湾来日」に驚いたが、阪神以来17年間の活動の中で培われたさまざまな人とのつながり、信頼の絆が緊急時においてまた新たな縁を結ぶことになり、ネットワークの真価が問われることになりました。どんな困難な現場でも被災地社会やニーズに軸足を置いた価値観を信念として、これまでも災害時には Earth が支援者の思いを届ける役目を担ってくることができたが、この Earth の支援のネットワークが今回、東日本でも「被災者と支援者の架け橋になり、被災者へとつながった」と実感することができました。人道支援といえば、救済活動に生涯を捧げたマザーテレサでしょう。彼女は、自ら「社会福祉家でも慈善事業家でもないのですよ。もし、私が社会福祉や慈善のために活動するのだったら、幸せだった家も捨てなかつたでしょうし、両親とも別れなかつたでしょう。」「私は神に捧げた身。ヒューマンイズムでもな

く、私自身当たり前のことです。」立場や、役目ではなく、私自身の良心の好意だと言われている。〈マザー・テレサ あふれる愛〉 講談社刊
 人道支援とは一時の慰めや不足するものへの補完だけでは、満たされるものではない。また、平時において災害を想定した場合の備えとして、一部の備蓄への奨励や炊き出しの訓練など繰り返すことでは賄えるものではない。とかく支援する側の多くは被災者という「マス」として集団でひとつに扱おうとするものです。「マス」でくるのではなく、そこに一人ひとりの顔を見出すこと、そして一人ひとりの言葉に耳を傾けられるようにするためにはどうしたらいいのでしょうか。ガレキの中でどれだけの人に心を尽くすことができるのか、いつも一人の人間の限界を感じます。現場の実情はさまざまに厳しい。まして遺族となった方々、何もかもすべてを失い、大きな喪失感明日への望みさえ絶たれた人々、肉親家族をはじめ生きる基本と成る自宅、財産・コミュニティ、地域、社会が崩壊して何を信じて生きていけばいいのか。自ら生き残ったことが罪悪にも感じ、すべてが信じられなくなっている、すべてが不信の時。突然目の前に現れて、「何か困ったことはありませんか」と問われても絶句してしまう。見ず知らずの他人を受け入れられるだろうか。私たちは、どこまで相手の立場にたって膝をおることができるでしょうか。その場からは去れないことが多々ありました。どれだけ時間と良心を尽くすことが必要でしょう。もはや、己の行為に(自分の行い)に陶醉(酔う)ことなく、菩薩行の実践を実行してください。「自分のことより他人の幸せを願える人を増やしたい」との願い。これは私たちにとっては大事な教化です。世間で多くの「心を尽くせる人」を増やしていきましょう。

最後に・・・

日本国内で18年間、被災地の人々と思いを共有し、長い間互いに見守ってきた。時間とともに、まさに生老病死の無常を感じます。復興住宅で仲間がまた一人孤独死。数日気づいてやることができませんでした。みんなで簡素でも供養の場で共に涙し、共に祈りを捧げました。これ以上被害を拡大させない為にも、阪神当時から「絶対に自分の命は自分で守れ」は大きな目標でした。今回は津波「てんでんこ」です。東北沿岸部の哀しい過去からの教訓です。今回も多くの死を目の当たりにした。「多くの人は歳を重ね老境に至り、心身の衰えを感じ、ふと、『臨終のこと』に思いをいたす」。
 「臨終に臨み・・・医師が脈をとりその時間を告げる」死とはいささかちがう。津波は、それぞれの人の人生の証。意味すらも奪った。誰もが「いまわの際」今を限りに・・・死ぬ瞬間、津波に巻き込まれ死する恐怖・苦しみ・無念さ、を、誰が知りうるであろうか。苦しみのあまり「舌をかんだ」と推察される方、顔中砂がいっぱいつまった方、誰もその瞬間を看取る人はなかった。助かるはずの命も、他者のために多くが犠牲になりました。私も自分自身の良心に導かれながらここまで来たけれど、いのちを救うことができなかつた思いは、今も晴れません。とかく災害が起きると行かないより、現場に行ってみることは大事なことと言われるが、何を求められているのかを、知ること。そのためには多くの地道な労力が必要である。互いの心の中に相手の心を見出せたとき、信頼の絆が生まれるのではないのでしょうか。心に響くまで被災地と付き合ってください。そして常に心の中にこの言葉を刻み、「視線をさげずに 視点をさげる」「視線をさげる」ことは哀れみ・同情の気持ちのあらわれであり、自立を妨げる原因になる事が多くみられました。さげていることは上から目線になっている自分です。「視点をさげる」ことによって、相手と同じ立場に立った目線で向き合うことができるでしょう。宗教者である私たちは、覚悟の上での被災地であってほしいと思います。相手の人が、ひとりでも「救われたな」と、思えるとき、法華経の中の「変化の人」のお言葉を思い出してください。

		<p>—皆共に生きる世界を—</p> <p>法華経七の巻 化城喩品における「願わくは此の功德を以って 普く一切に及ぼし 我等と衆生と 皆共に仏道を成ぜん」私たちが釈尊の誓願を自らの願いとして、菩薩道を求め、法華経信仰の功德を他の一切に及ぼし、仏道の成就という究極の目標を目指して、皆共に歩んで行こうとする誓願回向である。此の精神教えこそ、全人類救済の悲願大乘の教えの真髄である「利他の精神」が 法華経では梵天によって語られています。生きとし生けるすべてのものが 仏道を成ずること。誰でもが成仏して救われることをおしえているのです。かつて石川教張先生は「布教伝道」について、現代の宗教のあり方とは、自分自身の信仰体験をもって伝えることである。ゆえに、信仰に基づく生き方の提示でなくてはならない、と教えられています。知識の伝達ではなく「何をしているのか。何をしようとしているのか」具体的に示すものである。共に悩み共に考える姿勢が必要であると。「皆共に仏道を求め、成就する」ことが、法華経お題目の信仰に生きるわれわれの最も尊い精神であるといえるのではないか。佛滅後の未来における実践を予言では、釈尊に代わって菩薩が活躍することになります。菩薩は仏様のこころをその心とするものであります。苦難する者への「神通力」変化によって、在家・出家者の信者を作り出し、つまり救いの手立てを実践する人を派遣・遣わし(つかわす)衛護となさんと説かれています。仏が護ってくれるのは、仏の力がその人自身に加わっているからであり、仏の心であります。まさに菩薩行の実践は、互いの心の中に仏を見出すことであり、皆さん自身の信仰の姿がこれからも多くの「変化の人」となって、多くの人々の救いとなる事を願っています。是非、此の機会に実践で役立ててください。</p>
58	臨済宗青年僧の会	<p>東日本大震災は、未曾有の被害をもたらし、仏教界をはじめ多くの宗教者を目覚めさせたものであった。そして、社会とのかかわり方を考え直さなければならぬことに気づいたはずである。</p> <p>また、宗教者が社会から必要とされる場面もあり、今後どのように社会に関わり、その存在を明らかにすべきか考えていかなければならない。</p>
59	日蓮宗 岡山立正青年会	未記入
61	臨済宗妙心寺派 東北教区第二部 宗務支所	震災が起きた直後はネットワークを使い、時間の変化と共に必要とされたものが変わりました。どのタイミングでどのようなものが必要なのか配布しておけば物資の集まり方が違うと思います。宗教的な活動に入るのは少し時間が経過してからになるとはおもいますが、どのような言葉使い、手順で接していけば被災者感情に訴えかけることが、できるのか個人的には知りたいです。
62	臨済宗 薪流会	<p>仏教者、寺院及び仏教界は所属宗派に偏らず、ただ純粋に慈悲心のもと支援活動に専念するべきだと思います</p> <p>中には震災発生直後にも関わらず 布教まがいの支援活動をしている団体もありました。</p>

63	社会事業委員会(通称:ひとさじの会)	<p>昨今、「社会貢献を行う仏教者が素晴らしくて、それ以外の人は墮落している」などというご意見を耳にすることもありますが、これには賛同しかねる。あくまでも仏教者は信仰を軸とした生活を行うことが大切であって、社会的な活動はその延長線上に為すべきものであると、震災被災地での活動を通じて感じた。加えて、日頃から檀信徒や地域の人々に対する教化活動があるからこそ、想像を絶する困難に遇ったときにも周囲の人々と共に対応ができるものだということが被災地にて感じたことである。</p> <p>これは震災被災地において、地域の寺院や仏教者によって共助の輪が形成されていった複数の事例をみても明らかなことであろう。</p> <p>こうした大きな災害を経験して、あらためてこれからの仏教者がどのようにあるべきかを考えるときに、わたしが重要であると思うのは「随縁の善」を行う用心である。これは過去の仏教者の言葉であるが、日頃から信仰生活(地道な教化活動も含む)を送る中において、さまざまな困難や苦を抱える人に遇ったときには、自分のできる限りのことをさせていただくという善行のことを意味する。すなわち、ご縁にしたがって自らのできることをさせていただこうという心づもりを持つことである。</p> <p>信仰生活というものは、自ずと自己の在り方を見つめなおし、出会う人に真摯に向き合える人間形成をもたらすものである。わたしは信仰生活こそが、大きな災害などの困難に出会ったときに、そこで何が求められているのかを考える智慧を生み出し、苦しい思いを抱えている人に出会ったときにいかに寄り添うべきかを感じる心を育むものであると思う。この信仰生活抜きには、仏教者としての社会的な活動などあり得ないのではなからうか。</p> <p>逃げ出したいくなるような現実が多々ある。そうした現実が目の前に起こった時に見て見ぬふりをするのではなく、「祈り」こそが勤めとばかり思って目の前の苦にある人を置き去りにするのもなく、祈りの日々の中に苦にある人と共に歩むことが肝要なことであり、それこそが「随縁の善」を行う用心であろう。</p> <p>被災地の復興への道のりは険しく、おそらく長い年月がかかることであろう。そのなかで仏教者は、大上段から「救おう」「助けよう」とするのではなく、ご縁のあったところで「既存のご縁を支え」、「新たなご縁を結び」、いつの日か「互いに支え合えるご縁」となることを目指すことが求められている。そして、こうした「支縁」を行える仏教者を育てることが、仏教界にいま求められていることなのではなからうか。</p> <p>以上、まだまだ修行の足りない身でありながら思うままに述べさせてもらった。現在のわたしは自分が述べたような仏教者には程遠いかもしれないが、被災地の早い復興を祈るとともに、被災された方の個々の心の復興も進むよう、共に歩んで参る所存である。合掌</p>
64	東京南部 日蓮宗青年会	<ul style="list-style-type: none"> ・被災寺院のご住職の負担が大きいと感じました。震災時に被災寺院へ宗門から僧侶を一定期間派遣できるようなシステムが必要。また携帯電話などの通信機器が麻痺してしまったので、ツイッターや掲示板などで情報を共有することも大切。各寺院で被災した際の対処法について檀信徒の方々と検討し、再度、備蓄品なども充実させるべき。 ・仮設住宅で生活される方々は未だに先の見えない暮らしを強いられています。被災者の皆様の心のケアをしていくことも宗教界に課せられた重要な使命です。今後は被災者の方々と積極的に交流し、支援活動の範囲を広げたい。

3 まとめ

本調査報告は、全日本仏教会から震災支援活動の援助を受けた団体に対して実施したアンケートである。回答率 40.37%であったが、65 団体が取り組んだ震災支援 1 年間の姿が浮き彫りにされた。

本調査報告で、それぞれの団体が直面した様々な課題がありのままの言葉として記されている。また、一つ一つの調査票から、今後の仏教界が果たすべき役割について一定の方向性を見出すことができた。具体的には、次の 9 つの視点の考察が必要になると考えられる。

- 1) 震災を通して協力・協働していた団体と新たに関係を構築した団体とのつながり連携
- 2) 震災支援活動に際して、情報の入手と発信の難しさ
- 3) 実際の活動場面での課題（最前線と後方支援）
- 4) 支援活動を継続する上での課題
- 5) 今回の震災支援活動を通じて、明らかになった課題
- 6) 地域における諸団体との連携などネットワーク化の必要性
- 7) 仏教系諸団体との連携などネットワーク化の必要性
- 8) 震災支援活動を通じて、仏教者として信仰心はどのように影響があったのか
- 9) 震災支援活動を通じて、仏教者、寺院及び仏教界は今後どうあるべきか

資料アンケート原本**問 1. 基本属性について**

・記入者

ふりがな お名前:	性別
ご所属及び役職名 ・ご所属: ・役職名:	男()
	女()

・本調査内容に関する、出版も含めた公表について

(該当するものを一つ選び()に○をつけてください。)

・公表に同意する () ・公表に同意しない () [理由をご記入ください] 理由:
--

・本調査回答日

平成 24 年 月 日

問 1-1 団体について

ふりがな	
団体名	
団体の形態 該当する番号に○ (マル)を記してください 1 宗教法人 2 財団法人 3 NPO 法人 4 宗派集団内の任意団体 (青年会など) 5 4以外の有志の任意団体 6 その他 ()	
団体の代表者について	・性別 男性・女性 (○ (マル)を記してください) ・団体内での役職名
ふりがな お名前	
本部住所 (又は主たる事務所名・連絡先) 〒	
電話番号	FAX
E-mail	

問 1-2 団体概要について

問 1-2-1 貴団体の設立年をお教えてください。該当する年号に○をつけてください。

明治・大正・昭和・平成_____年設立

問 1-2-2 設立の趣旨・目的をお教えてください。

問1-2-3 貴団体の構成人数について（正会員、準会員、なども含んだ総数）お教えてください。

男性（ ）名	女性（ ）名	計（ ）名
---------------	---------------	--------------

問1-2-4 会員等以外で、炊き出しなどにボランティアとして参加されている方がいればその人数をお教えてください。

多い時（ ）名位	平均（ ）名位
-----------------	----------------

問1-2-5 通常時の活動内容についてお教えてください。

問2. 東日本大震災に際しての貴団体の活動状況について

問2-1 今回の震災支援に関して、1年間（平成23年3月11日～平成24年3月）の活動経費の総計についてお教えてください。

活動経費総計 _____ 円 ※ 貴団体として把握されている範囲の金額をご記入ください
--

問2-2 今回の震災支援に関して協力・協働した他団体がありましたか。

ある ない （どちらかに○を記してください）

・あるに○を記した方は下記の枠内に団体名をご記入ください。

・震災以前から協力・協働していた団体（平成23年3月以前）
具体的にどの様な協力・協働をなさいましたか。

・震災以後、新たに関係が発生した団体（平成23年3月以降）
具体的にどの様な協力・協働をなさいましたか。

問2-3 今回の震災支援活動に際して、どのような手段で情報を得ましたか。（該当するもの全てに（ ）に○をつけてください。複数回答可）

<p>1. インターネットの情報サイト ()</p> <p>2. ツイッター ()</p> <p>3. フェイスブック ()</p> <p>4. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ ()</p> <p>5. 現地の知り合いや団体と直接連絡 ()</p> <p>6. 所属教団や関係団体から連絡 ()</p> <p>7. その他【ソーシャルネットワークサービス (SNS)】 ()</p> <p> ※具体的なサービス内容（グーグル+、Mixi など）があればご記入ください。</p> <p>【記入欄】</p> <p>4. については、被災地域の地元紙</p>
--

問2-4 今回の震災支援活動に際して、どのような手段で情報を発信しましたか。
(該当するもの全てに()に○をつけてください。複数回答可)

<p>1. インターネットの団体ホームページ ()</p> <p>2. ツイッター ()</p> <p>3. フェイスブック ()</p> <p>4. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ ()</p> <p>5. 現地の知り合いや団体と直接連絡 ()</p> <p>6. 団体の会誌・ニュースレターなど ()</p> <p>7. 所属教団や関係団体へ直接連絡 ()</p> <p>8. その他【ソーシャルネットワークサービス (SNS)】 ()</p> <p>※具体的なサービス内容 (グーグル+, Mixi など)があればご記入ください。</p> <p>【記入欄】</p> <p>4. については、取材等を通じて発信</p>

問2-5 上記の情報収集、発信は有効に機能しましたか。
(該当するものを一つ選び()に○をつけてください。)

<p>・うまく機能した () ・あまり機能しなかった ()</p> <p>その理由・原因等について以下にお書きください。</p> <p>【記入欄】</p>
--

問2-6 貴団体の主な支援地域、主な活動内容と対象者をお教えてください。

支援地域 (例、宮城県気仙沼市)
支援内容 (例：お寺での炊き出し)
対象者 (例：お寺で避難生活を送っている被災者)

※ 詳細につきましては、問2-7でお伺い致します。

問2-7 平成23年3月11日の東日本大震災の発生から平成24年3月に至る1年間で、被災地救援・復興支援に関して貴団体ではどのような対応と活動を行いましたか。月単位でその状況をお教えてください。(自由記述)

<p>※ 直接支援とは、現地で実際に行った支援活動を指します。</p> <p>※ 間接支援とは、現地活動に必要な事前準備、募金や支援物資の確保等、後方支援を指します。</p>

問3. 今後の活動について

問3-1 貴団体では、現在も震災支援活動に取り組んでいますか。

はい いいえ (どちらかに○を記してください)

「はい」に○を記した方は、問3-2にお進みください。

「いいえ」に○を記した方は、問3-3にお進みください。

- 問3-2 問3-1で「はい」に○を記した方のみお答えください。
貴団体の震災支援活動について、今後の展開をお教えてください。

自由記述（平成24年3月以降の活動実践も踏まえお教えてください）

- 問3-3 問3-1で「いいえ」に○を記した方のみお答えください。
どの時点で活動を完了しましたか、またその理由をお教えてください。
（該当するもの全てに（ ）に○をつけてください。複数回答可）

活動完了年月 平成_____年_____月まで

その理由

1. 当初の目的を達成し、活動継続の必要性がなくなった ()
2. 活動継続の必要性は感じているが、具体的なノウハウがない ()
3. 活動継続の必要性は感じているが、人材がない ()
4. 活動継続の必要性は感じているが、予算がない ()
5. その他 () 【具体的にご記入ください】

【自由記述】

問4. 今後の課題について

- 問4-1 今回の震災支援活動を通じて、明らかになった課題についてお教えてください。
（該当するもの全てに（ ）に○をつけてください。複数回答可）

1. 支援活動を担う人材不足 ()
2. 支援活動を実施するための資金不足 ()
3. 支援実施のためのノウハウの不備 ()
4. 上部団体などのバックアップの不足 ()
5. 行政とのトラブル ()
6. 距離や時間などの制約によるモチベーションの低下 ()
7. 被災地側と支援者側のミスコミュニケーション ()
8. 被災者のニーズと支援団体側のタイムラグ（時間の経過によるニーズの変化） ()
9. 支援者側の問題ではなく、他団体などに起因するトラブル ()
10. その他 () 【下記の自由記述欄に、具体的にご記入ください】

【自由記述】

- 問4-1-1 上記（問4-1）の課題解決のために、具体的に何か取り組まれたことはありますか。

【自由記述】

問4-2 今回の震災支援活動を通じて、今後の対策として、貴団体では今回の支援を教訓に、防災や支援の備えなど具体的に何か行っていますか。

【自由記述】※例 行政との防災協定締結。防災訓練。支援物資の備蓄。ワークショップなど。

問4-3 今回の震災支援活動の経験を今後の諸活動に活かしていくために、特に地域における諸団体との連携などネットワーク化の必要性についてのお考えをお教えてください。(該当するものを一つ選び()に○をつけてください。)

1. 現在は、必要性を感じていない ()
 2. 災害に限定したネットワーク化は必要 ()
⇒【○をつけられた方は、問4-3-1にお進みください】
 3. 普段から、情報共有のできるレベルのネットワーク化は必要 ()
⇒【○をつけられた方は、問4-3-1にお進みください】
 4. わからない ()
 5. その他 ()【具体的にご記入ください】
- 【自由記述】

問4-3-1 問4-3の選択肢2・3に○をつけた方のみお答えください。
具体的にどのような団体との連携が必要でしょうか。
(該当するもの全てに()に○をつけてください。複数回答可)

1. 地域[市町村や県レベル]の宗門寺院 ()
 2. 地域の他宗寺院も含めた仏教会 ()
 3. 他宗教も含めた地域の宗教団体 ()
 4. 地方公共団体 ()
 5. 社会福祉協議会・市町村ボランティアセンター ()
 6. ボランティア団体 ()
 7. その他 ()【具体的にご記入ください】
- 【自由記述】

問4-4 今回の震災支援活動の経験を今後の諸活動に活かしていくために、特に今回のアンケート調査の対象となっている仏教系諸団体との連携などネットワーク化の必要性についてのお考えをお教えてください。
(該当するものを一つ選び()に○をつけてください。)

1. 現在は、必要性を感じていない ()
 2. 広域災害などに限定したネットワーク化は必要 ()
 3. 普段から、情報共有のできるレベルのネットワーク化は必要 ()
 4. わからない ()
 5. その他 ()【具体的にご記入ください】
- 【自由記述】

問5. 支援活動全体を振り返って

問5-1 今回の震災支援活動を通じて、仏教者として信仰心はどのように影響したとお考えでしょうか。また、震災支援活動を通して意識の変化はありましたか。

【自由記述】

問5-2 今回の震災支援活動を通じて、仏教者、寺院及び仏教界は今後どうあるべきか感じたことやお気づきの点をお教えてください。

【自由記述】

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

日本仏教社会福祉学会
東日本大震災対応プロジェクト委員会
委員長 藤森 雄介
渡邊 義昭 関 徳子

平成23年3月11日東日本大震災における
仏教系各種団体の震災支援に関するアンケート調査 報告書

2015年3月11日 初版発行
2015年6月11日 第2版発行

編著者 日本仏教社会福祉学会
東日本大震災対応プロジェクト委員会

発行者 淑徳大学 藤森雄介研究室